

本の情報

詳細は [GitHub Repository](#) をご覧ください。

（一）神への信仰を持ちましょう

「まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。だからあなたがたに言うのです。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」（マルコ一・二三、二四）

私たちが生きている今日は、信仰を強める必要がある時、神を知る必要がある時です。義人は信仰によって生きるようにと神は定められました。どんな重荷を負わされている人でも、信仰を持つことで変わります。神のことは十分だと私は知っています。神から出るたった一つのことが国を変えることもできます。神のことはとこしえからとこしえまで朽ちません。私たちが新生し、この素晴らしい救いに至る入り口は、このとこしえのみことば、すなわちこの朽ちない種なのです。人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによって生きるものです。これこそが信仰を育てる食物です。「信仰は聞くことから始まり、聞くことは、キリストについてのみことばによるのです。」（ローマ一〇・一七）

聖書を信頼しないで、聖書から奇跡をすべて取り去ってしまおうという試みが至る所で行われています。ある説教者が言いました。「まあ、イエスさまは事前にその場所に行っておいて、これこれをするようにと誰かに言いつけておいたんですよ。」しかし、私は言うておきます。神は、わざわざ近くに行かなくてもすべてを用意しておくことがおできになります。神はあなたのために計画されます。そして、神の計画はすべて、平安を与える計画です。あなたが信じるなら、どんなことでもできるのです。

別の説教者が言いました。「五つのパンで人々を満腹させるのはイエスさまにとって簡単なことでした。当時のパンは巨大だったので、単に数千個にちぎれば良かったんです。」でも、彼は忘れてしまっています。五つのパンは、小さな男の子が自分のかごに入れて持ち運んだのです。神が共におられれば、不可能はありません。不可能になるのは、いつでも私たちが不信仰により神を低く見積もるからなのです。

私たちには素晴らしい神がおられます。その道は測りがたく、その恵みと力は限り

ない方です。ある時、私はベルファストにいて、集会で一人の兄弟と会いました。兄弟は私に言いました。「ウィグルスワースさん、困ったことがあるんです。この五ヶ月間、大変な悲しみにあいました。私の集会でよく祈ってくれた婦人がいました。天からの祝福が私たちの集会に下るようにといつも祈ってくれていました。老齢でしたが、彼女がいるといつも霊的な祝福がありました。ところが、五ヶ月前に彼女は転倒して、ももの骨を折ってしまいました。医者にはギプスをつけてもらい、五ヶ月後にギプスを取りました。でも骨がちゃんとくっついていなかったんですね。彼女は転んで、ももを再度骨折してしまったんです。」

私は兄弟に連れられてその婦人の家に行きました。部屋の右端に婦人は横になっていました。私は彼女に「具合はいかがですか。」と聞きました。彼女は言いました。「もう治療できないと診断されて自宅に帰らされました。私はもう年老いているので、骨がちゃんと接合しないとお医者様に言われました。骨に栄養が無くなっているために、お医者様にはもうお手上げだそうです。もう死ぬまで寝たきりで過ごすほかないと言われました。」私は婦人に言いました。「あなたは神を信じていますか。」彼女は答えました。「ええ。あなたがベルファストに来られたと聞いてから、私の信仰がよみがえってきたんです。あなたが祈ってくださるなら、信じます。地上のどんな力も私のももの骨をくっつけられないことは分かります。でも、もう一つ分かるのは、神が共におられれば何もできないことはないということです。」私は「神が今あなたに会われることを信じますか」と言いました。「はい」と彼女は答えました。

人々が神を信じるのを見るのは何とうるわしいことでしょう。神は足の骨が二つに別れていることもすべてご存知でした。私は婦人に言いました。「私が祈ると、何かが起こりますよ。」彼女の夫がそこに座っていました。その老人は四年間、自分の椅子から立ち上がれず、一步も歩けませんでした。彼は叫びました。「私は信じないぞ。私は信じない。あんたは私を信じさせることは絶対にできない。」「承知しました」と私は言いました。そして、私は主イエスの御名によって両手を婦人に置きました。手を置いた瞬間、神の力が彼女に流れ込んで、彼女は叫びました。「私はいやされました!」そこで私は言いました。「立ち上がるための支えは必要ありません。神ご自身が完全にあなたを支えます。」婦人は立ち上がりました。部屋を行ったり来たりして歩き回りながら、神をほめたたえました。

老人は驚きました。自分の妻に起きたことを見て、叫びました。「私も歩かせて下さい！ 私も歩かせて下さい！」私は老人に言いました。「あなたは罪人です。悔い改めて下さい。」彼は大声で言いました。「主よ、私は不信仰なことを言いましたが、心にもないことを言ったのだということをあなたはご存知です。主よ、あなたは私が信じていることをご存知です。」私は彼が心にもないことを言ったのだとは思いません。それでも主はあわれみに満ちておられます。主が私たちの罪に目をとめられたら、私たちにはどこに身の置き場があるでしょうか。条件さえかなえば、神はいつでも私たちに会って下さいます。信じるなら、どんなことでもできるのです。私は老人に両手を置きました。すると力が老人の体を通り抜けて行きました。そして、彼の足が御力を受け取って体を支えられるようになり、四年ぶりに彼は立ち上がりました。彼は部屋中を行ったり来たりして歩きました。それだけでなく部屋を出たり入ったりして歩き回りました。彼は言いました。「ああ、神が今夜私たちにしてくださったことは何と素晴らしいんだろう！」

「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」(マルコ一・二四) 神に望みを持って下さい。そうすれば神から望みが与えられます。そして、あなたが単純な信仰に到達した時に、神はその望みをかなえるためにあなたに会って下さいます。

ある男性が集会に来ました。彼は他の人々がいやされたのを見て、自分もいやされたいと願うようになりました。彼の説明によると、腕がある位置で固まっていて、何年も動かせなくなっていました。「信仰はありますか」と私は尋ねました。彼は十分な信仰があると答えました。祈った後で、彼は腕をぐるぐると回すことができるようになりました。しかし、彼はそれでは満足しないで不満を述べました。「このあたりに少し問題があるように感じます」と、ある部分を指しました。「何が問題なのかわかりますか。」彼は「わかりません」と答えました。私はこう言いました。「不完全な信仰です。祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じてください。そうすれば、そのとおりになります。」

あなたが救いを得た時、信じることは救いを得るよりも先でしたか。多くの人が救いを得ようとしても得られないのは、救いを実感することを先に求めるからです。けれ

ども、救いを実感することが信じるよりも先に来る人は誰もいません。神の計画はいつもこのようになっていて、あなたが信じるなら神の栄光を見るようになるのです。私たち皆が神への揺るぎない信仰と自信を持ちうる、確かな到達点にまで成長するようにと、神は願われています。私はそう信じています。

イエスさまはこの聖書箇所では山をたとえに使いました。どうして山と言われたのでしょうか。それは、もし信仰が山を動かすのなら、どんなものでも動かせるからです。神の計画はあまりにも不思議です。あなたがただ信じさえすれば、どんなことでもできるのです。

一つ、特に注目していただきたいフレーズがあります。「心の中で疑わず」とあります。心がキーワードです。たとえば、若い男性と若い女性がいるとしましょう。二人はひと目で恋に落ちました。すぐにお互いに深い愛情を持って、心から愛しあうようになります。では愛の心とは何でしょうか。それは信仰の心です。信仰と愛は結ばれています。その若い男女はお互いを愛していますが、その愛の深さに応じて、相手に誠実になります。一人が北へ行き、もう一人が南に行ったとしても、愛ゆえに二人は誠実であり続けるでしょう。

それは、主イエス・キリストへの深い愛が心にある時も同じです。神が導き入れて下さったこの新しいいのちのなかで、パウロは、私たちがキリストのからだによって律法に対して死んでいると言っています。また彼は、私たちは律法と結ばれるのではなく、他の人、すなわち死者の中からよみがえった方と夫婦として結ばれるべきだと教えています。神は私たちを完全な愛と完全な信仰へと導いて下さいます。神から生まれた者には、心のうちに主イエスさまへの愛がもたらされます。その愛とは、どんな汚れたものをも避ける主イエスさまへの忠実でもあります。男女間の純粋さは、二人の間に深い自然な愛情がある時に見られるものです。相手が不誠実であると考えことでさえも二人の純粋さを汚してしまいます。私が言いたいのは、人がイエスさまに信仰を持っていれば、その信仰に応じてその人は純粋さも持つようになるということです。イエスさまを神の御子と信じる者は、世に勝つのです。愛によって働くのが信仰です。

心で私たちの主と交わりを保っている最中は、私たちは信仰をくじかれません。内心で疑うこともありえません。私たちが神と共に歩む時、素晴らしい神とのつながりに

よって、神のいのちとご性質が私たちの中に流れて来るのです。私たちが神のことはを読み、神が恵みをもって私たちに与えられた素晴らしい約束を信じるようになると、私たちは神のいのちとご性質にあずかる者とされるのです。主は私たちの花婿となられ、私たちはキリストの花嫁とされます。主が私たちに話すみことは、霊であり、いのちです。みことは私たちを変え、肉の性質を退け、神のきよさにあずからせます。

生まれながらの肉の理性で考えても、神の愛を悟ることはできません。神の御霊によって啓示されなくてはなりません。神は惜しみなく与えて下さいます。求める者は受けるのです。神はいのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに喜んで与えて下さいます。そうです、イエスさまを遣わしたことは神の愛でした。その同じ神の愛が、信じているあなたや私を助けます。さまざまな弱さの中にあっても、神はあなたの強さとなります。神に触れていただくことをあなたが必要とする時、神があなたを愛しておられることを覚えて下さい。惨めで、無力で、病に臥している人は、恵みの神に目を向けてください。神は、あなたが必要とするいのちも強さも力もすべて惜しみなく受け継がせ、喜んで与えて下さる方です。神は愛なのです。

私がスイスにいた頃、主は恵みをもって働かれ、多くの人々が癒されていました。私はゴールドウインのルース兄弟と一緒に滞在していましたが、二人の警察官が私を逮捕しにきました。罪状は、私が無免許で人々の病気を治したことでした。ルース氏は警察官に言いました。「すみませんが、彼はここに今おりません。彼は二マイルほど向こうで集会を開いています。ですが、あなたがたが彼を逮捕する前に、お見せしたいものがあります。」

ルース兄弟は二人の警察官をその地区の一画に連れて行き、ある家に案内しました。そこは二人にとって馴染みのある家でした。というのも、そこにはある女性がいて、彼女がよく酒に酔っては喧嘩をしていたので、二人は何度も彼女を逮捕して牢屋に入れていたのです。ルース兄弟はこの女性のところに二人の警察官を連れて行って、こう言いました。「これは、あなたがたが今逮捕しようとしている人の働きを通して与えられた、多くの祝福のうちの一つです。この女性は私たちの集会に酔っ払った状態で来ました。彼女のからだは痛々しいものでした。二カ所がヘルニアになっていたからです。彼女は酔っていましたが、その人は彼女に両手を置いて、いやしと解放がある

ように神に求めました。」その女性が続けました。「はい。そして神は私を救ってくださいました。私はそれからはもう一滴もお酒を飲んでいません。」警察官たちは私の逮捕状を持っていました。けれども、彼らは「そういうことは医者任せなさい」と言い捨てて、踵を返して去って行き、二度と私たちの前に現れませんでした。

私たちには、心の打ち砕かれた者をいやすイエスさまがおられます。主は捕らわれ人を自由にし、最悪な状況にある者を救われます。霊とたましいとからだを救うのは、この栄光に満ちた神の福音です。あなたはこの福音をあえて足蹴にしますか。この恵みをあえて足蹴にしますか。私はこの全き福音の大部分が隠されてきたことを知っています。この福音は解放をもたらすものです。この福音はたましいの重荷を取り除けるものです。この福音はからだを完全に健康にするものです。この福音は全き救いです。この素晴らしい救いを私たちに与えるために、栄光を残していかれた主のみことばをもう一度聞きましょう。「まことに、あなたがたに告げます。だれでも、この山に向かって、『動いて、海に入れ』と言って、心の中で疑わず、ただ、自分の言ったとおりになると信じるなら、そのとおりになります。」どんなことでも信じて言ったものを、あなたは得るのです！

私たちがかたくな心や、批判的な心、赦せない心でいると、神は祝福をお与えになれないということを私は知っています。そういうものが何よりも信仰の妨げになります。私はある集会で聖霊のバプテスマを待ち望む人たちがいたのを覚えています。彼らはきよめを祈り求めていました。というのも、人はきよめられた瞬間に、御霊がその人に下られるからです。集会には目を真っ赤にしてひどく泣きはらした男性がいました。彼は私に言いました。「やり残したことをするために行かなくてははいけません。変えないといけないことがあります。それを済ましないと、ここにいても何も益になりません。私は義理の兄弟に手紙を送ったのですが、その手紙に書いたのはひどい罵倒ばかりでした。だからこのことをちゃんとしておかないといけないんです。」彼は自宅に帰り、妻に告げました。「私は君の兄弟に宛てた手紙で、あんなふうひどい言葉を書いてしまったことを赦してもらうようお願いするつもりだよ。」「そんなくだらないことのために帰って来たの!」と妻は言いました。「気にしないでいい」と彼は答えました。「これは神と私との問題だ。けじめをつけないといけないんだ。」彼は手紙を書いたから集会に戻って来ました。するとすぐに、神は彼を聖霊で満たされました。

いやされるはずだったのにいやされなかった人が非常に多くいると、私は信じています。彼らは心のなかに暗い影を抱えていました。そうしたものは手放しましょう。人を赦しましょう。そうすれば主はあなたを赦されます。善良な人々、良いことをしているつもりの人々はたくさんいますが、彼らは神のために何もできずに無力になっています。ずっと以前に彼らの心のなかにほんの小さな影が入り込んで、それ以来彼らの信仰が麻痺しています。すべてを明るみに出して下さい。神がしようとされることをあなたが受け入れれば、神はそれをすべて洗い流して下さいます。キリストの尊い血によってすべての罪からきよめられて下さい。あなたが信じさえすれば、神はあなたに会われ、あなたのこれまでの嘘に神の愛の光をあてて下さいます。

(二) 捕らわれ人の解放

テキスト ルカ四・一～二〇

私たちの尊い主イエスさまはすべての人のためにすべてのものを持っておられます。罪のゆるし、病気のいやし、そして聖霊の満たしはすべて一つの源から来ます。それが主イエス・キリストです。きのうもきょうも、いつまでも同じであられる方のことばを聞いて下さい。主はご自分が来られた目的をこのように宣言されます。「私の上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由にし、主の恵みの年を告げ知らせるために。」(ルカ四・一八～一九)

イエスさまがヨルダン川でヨハネから洗礼を受けられると、聖霊が鳩のような形をして主の上に下られました。聖霊に満たされたイエスさまは、聖霊に導かれて荒野に行き、そこで敵に対して圧倒的な勝利者となりました。それからイエスさまは御霊の力をおびてガラリヤに戻り、会堂で宣べ伝え、ついにイエスさまの故郷の町ナザレに來られました。主はナザレで、先に引用したみことばでご自分の使命を宣言されたのです。イエスさまは地上でほんのわずかな期間の働きをされ、それからご自分のいのちをすべての人のために贖いの対価として与えられました。しかし、神はイエスさまを死者の中からよみがえらせました。そして、主は弟子たちに、聖霊の力が彼らの上にも臨まれるので、聖霊を受けるようにと言われました。その後、主は天に上げられ栄光を受けられました。こうして弟子たちを通して主の恵みの働きは続いたのです。この聖霊の力は数人の使徒たちのためだけではなく、「すべての遠くにいる人々、すなわち、私たちの神である主がお召しになる人々」(使徒二・三九)のため、この二十世紀に生きる私たちのためにも与えられました。ある人はこう尋ねます。「でもこの力は、特権にあずかった一世紀のわずかな人々に与えられただけではないでしょうか。」そうではありません。マルコの福音書に記されている主の大宣教命令を読んで下さい。そこには御力は「信じる人々」(マルコ一六・一七)のためだとあります。

私は聖霊のバプテスマを受けた後で(私はそれを受けたことを知っています。というのも、主がエルサレムで弟子たちに聖霊を授けたのとちょうど同じ方法で、私に聖

霊を与えて下さったからです)、どうして私が聖霊のバプテスマを受けたのか、主の考えておられることを求めました。ある日、私は仕事を終えて帰宅すると、妻が私に聞きました。「どちらのドアから家に入りましたか。」私は家の後ろのドアから入ったと言いました。妻は言いました。「二階に、女性が八十歳の老人を連れてきています。祈ってもらいたいそうです。老人が大声でひどいことを言っているのです、大勢の人が家の前に集まってきました。ドアベルを鳴らして、家の中で何が起きているのかを知りたいがっています。」主は私に「このためにあなたにバプテスマを授けたのだ」とささやかれました。

私はその老人がいる部屋の前に行き、主が私に言われることに従おうと心に願いながら慎重にドアノブを回しました。老人は苦しそうに泣き叫んでいました。「救いを失った! もう救いを失った! ゆるされない罪を犯してしまった! 救いを失った! 救いを失った!」妻は言いました。「お父さん、どうしましょうか。」主の御霊が私をつき動かし、私は大声で言いました。「そこにいる霊は出ていけ。」その瞬間に悪霊は出ていきました。主は「このためにあなたにバプテスマを授けたのだ」と私に言われました。

神が聖霊の力を通して私たちの生活の主権者として治める場所があります。御霊が啓示し、目の覆いを取り、キリストに関する事柄を教え、悪魔の力に対して圧倒的な勝利者となるように私たちを整えて下さいます。

ニコデモがイエスさまのもとに来て、言いました。「先生。私たちは、あなたが神のもとかから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなさるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」イエスは答えて言われました。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」(ヨハネ三・二～三)ニコデモはしるしが行われるのを見て深く印象づけられました。そしてイエスさまは御国を見るすべての者にしるしが伴うことを指摘されました。人が神によって生まれ、闇から光に移される時に、力強いしるしが働きます。イエスさまは、神が触れられるなら、いつもしるしが伴うのをご覧になりました。ですから、しるしが今日にも起きることを私たちも期待して良いのです。私たちの上に主の御霊が臨まれるのは素晴らしいことです。私にとっては百万ドルをもらう

よりも、神の御霊が五分間でも私の上に臨まれるほうがずっと良いです。

イエスさまが荒野でどうやって悪魔に打ち勝ったかご存知ですか。主はご自分が神の子であることを知っていました。ですから、サタンは「もしかしたら」とささやく手口でやって来ました。あなたのもとにもサタンは同じ手口で幾たび来たことでしょうか。サタンは言います。「結局、あなたは騙されているのかもしれない。あなたは本当は神の子どもなんかではないと分かっているんだろう。」悪魔が来て、あなたは救われていないとささやくなら、それはあなたが救われていることの確かな証拠です。悪魔が来て、あなたはいやされていないとささやくなら、それは主がみことばを送ってあなたをいやしたことの良い証拠ととらえて良いでしょう。悪魔はあなたの生活の中で思考の領域を縛ることができれば、あなたを征服する絶大な勝利を収められるということを知っています。悪魔の主要な仕事は思考を邪魔することです。でも、あなたが純粋できよくあれば、あなたは瞬間的に悪魔を退けることができます。神が私たちに願われているのは、キリストのうちにある心、純粋で、きよく、へりくだったキリストの心を私たちが持つことです。

私はどこに行っても悪魔の欺きで縛り付けられている人々に出会います。この状態が起きる理由は、悪魔が心の中に要塞を作ることを、ただ単に人々が自分で許可しているためです。どうしたらこの攻撃から身を守ることができるのでしょうか。主は私たちに、神の御前で要塞をも破るほどに力のある武器を下さいました。その武器によってすべての思考を捕虜にしてキリストに服従させるのです。イエス・キリストの血とイエスの力強い御名こそが、あなたの思考のなかに悪魔が蒔く、不信仰の小さな種を打ち消してくれる解毒剤なのです。

使徒の働きの一章には、イエスさまが弟子たちに父の約束を待つように命じられたとあります。「もう間もなく、あなたがたは聖霊のバプテスマを受けるからです」（使徒一・五）と弟子たちに言われました。ルカは前の報告書で、イエスさまが行いと教えを始められたすべてのことについて書いたと述べています（使徒一・一）。キリストの働きは十字架で終わりではありませんでした。キリストが人の中に住まわることで、その行いと教えは人々を通して続いたことが使徒の働きや書簡から分かります。そして私たちのほめたたえる主イエスさまは今も生きておられ、主の御霊に満たされた人々

を通してその働きを続けておられます。主は御霊を上にした人々を通して、今も心の打ち砕かれた人をいやし、捕らわれ人を解放しておられるのです。

ある日、私はスウェーデンを旅行中に電車に乗っていました。ある駅で老婦人が自分の娘を連れて電車に乗り込みました。老婦人の表情があまりに深刻そうだったので、私はどこか具合が悪いのですかと尋ねました。老婦人はこれから病院に行つて自分の足を切断する手術を受けるところだと言いました。足を切断する以外にもう希望はないと医者に告げられました、と老婦人は話しながら、すすり泣きを始めました。彼女は七十歳でした。私は通訳者に「イエスさまがあなたをいやすことができる、と彼女に伝えて下さい」と言いました。次の駅で電車が止まると、たくさんの人が電車に乗り込こんでいっぱいになりました。多くの人が勢い良く電車になだれ込んできたので、悪魔が「もうおしまいだな」と言ってきました。しかし、私は最高の信念を持っていることを知っています。それは、困難な物事はいつでも**主の栄光をより大きく輝かせる**ための機会となつて、主は御力を現してくださるという信念です。あらゆる試練は祝福です。悪い状況が私を圧迫して、まるで電車が十両も私の上にのしかかっているように感じる事が何度もありました。でも私は最も困難な物事こそが神の恵みへと私を運んでくれているのだと発見しました。私たちにはそのような素敵なイエスさまがおられます。主はご自分こそが力強い解放の主であることをいつでも証明されます。主は私たちのために最高のことを計画しておられ、その計画は頓挫することがありえません。

電車が動き始めました。私はしゃがみこんで、イエスの御名によってその病気が去るように命じました。老婦人は大声をあげて、「私はいやされました！ いやされたことが分かりました！」と言いました。彼女は足踏みをして、「これからそれを証明します」と言いました。そこで私たちは次の駅で降りました。老婦人はしゃきとした足取りで歩き回り、「もう私は病院には行きません」と叫びました。今度もまた私たちの素晴らしいイエスさまは、ご自分が心の打ち砕かれた者の癒し主、捕らわれ人の解放の主であることを証明されました。

ある時、私は重い病気にかかり、人間の力ではどうにもならない状態にありました。妻は私が死ぬのを待つほかありませんでした。助けになるものはありませんでした。その当時の私はイエスさまが癒し主でもあることを、かすかにですが感じ取っていました。

た。六ヶ月の間、私は虫垂炎に苦しみましたが、時折、一時的に苦しみが和らぐことがありました。そういう時に私は自分が牧している教会へ働きに出ましたが、ひどい苦痛が始まって床に倒れてしまいました。教会員が私を家に運んでベッドに寝かせてくれました。私は一晩中祈って解放を主張しましたが、何も起こりませんでした。妻は私が召される時が来たと確信し、医者呼びました。医者は私のからだが弱りすぎているので、もう助かる見込みはないと言いました。虫垂炎を六ヶ月患っていたせいで、私のからだ全体がひどく衰弱していました。そのために医者は手術をするにはもう手遅れと考えたのでした。医者は、うちひしがれた妻をそのままにして帰りました。

医者が帰ってから、私たちの家に若者と老婦人が訪問してきました。その婦人は本物の祈りの人だと私は知っていました。二人は二階に上がって私の部屋に入りました。若い男性がベッドに飛び乗って、汚れた霊に私から出て行くように命じました。彼は叫びました。「悪魔よ、お前は出て行け。イエスの御名によって命じる！ 出て行け！」議論をする機会はありませんでした。私は悪魔が自分の中にいることを信じていませんでしたが、そのことを彼に伝える暇はありませんでした。イエスの御名において、必ず事は起こらなくてはなりません。そして現実には事は起こり、私は瞬間的にいやされたのです。

私は起きて着替え、一階に降りました。私はそのころ配管工事の仕事をしていたので、妻に尋ねました。「何か仕事はあるかな。もうすっかり良くなったよ。仕事に行くよ。」やるべき仕事があることが分かったので、私は仕事道具を取って出かけました。私が出て行くと同時に、医者が家に入ってきて、シルクハットを広間の壁にかけ、寝室に上って行きました。でも病人はいませんでした。「ウィグルスワースさんはどこにいますか。」医者が尋ねると、「ああ、お医者様。主人は仕事に出ましたよ」と妻が言いました。「あなたはもう二度と生きているご主人を見ることはないでしょうね」と医者は言いました。「彼は死体になってここに運ばれてくるでしょう。」まあ、私は死体になったようですね。

その時以来、世界の至るところで、主は私に虫垂炎におかされている人々のために祈る特権を与えて下さいました。そして、私は実に多くの人々が、祈ってから十五分以内に起き上がって着替えるのを目撃してきました。私たちにはどんな状況でも喜んで

人々と会って下さる、生けるキリストがおられるのです。

数十年前にD.W.カー兄弟に会った時のことです。彼はザイオンシティ在住のクックという名の兄弟に宛てた紹介状を私にくれました。クック兄弟宛の手紙を私が受け取ると、彼は「神があなたをここに送られました」と言いました。カー兄弟は私に六人の人の住所を教え、そこに行って彼らのために祈ってきてもらいたいと言いました。その後で十二時に兄弟と再会する手はずになりました。私は祈りを終えて十二時半ごろに戻って来ました。すると彼は私に、次の週に結婚する予定になっている若い男性の話をしました。その男性の婚約者はザイオンシティに住んでいて、虫垂炎で死にかけていました。私はその家に行くとちょうど医者先刻までいて、もう治る望みがないと告げた後でした。その女性の母親は気も狂わんばかりに自分の髪を引っ張って、「解放なんて起きない」と言っていました。私は母親に、「ご夫人、神を信じて下さい。あなたの娘さんはいやされ、十五分以内に起き上がって、着替えます」と言いました。それでも母親は叫び続けていました。

彼らは私を寝室に連れて行きました。私はその女の子のために祈り、イエスの御名によって悪霊に離れるよう命じました。彼女は叫びました。「私はいやされています!」私は彼女に言いました。「あなたがいやされていることを信じさせてもらえるかな。いやされたのだから、起きてごらんなさい。」十分以内に医者が駆けつけました。医者は何が起きたのかを知りたがっていました。彼女は「男の人が入ってきて私のために祈ってくれました。そうしたら私はいやされました」と言いました。医者は彼女が痛がっていた患部を指で押してみましたが、彼女はうめきもせず泣きもしませんでした。「これは神だ」と彼は認めました。医者が認めようが認めまいが関係ありません。私は神が働かれたことを知っています。私たちの神は現実に救いといやしの力を今日も発揮されます。私たちのイエスさまはまさしく、きのうもきょうも、いつまでも同じです。主は救いといやしをちょうど聖書の時代と同じように今日でも行われます。主はあなたの救い主、あなたの癒し主になりたいと願われているのです!

ああ、あなたが神を信じさえすれば! そうすれば何が起こるでしょうか。最も偉大なみわざです。神の恵みを全く味わったことのない人々や、神の平安を持ったことのない人々がいます。不信仰がこれらの祝福を彼らから奪っているのです。聞いてはい

でも真理を悟らないことはありえます。みことばを読んではいても、みことばが与えるいのちが実らないこともありえます。私たちに必要なのは、聖霊にみことばへの戸を開いていただき、キリストにあるいのちが私たちの内に生きるようにしていただくことです。私たちが聖霊に満たされるまでは、この贖いの不思議を完全には理解できません。

私がある午後の集会に出た時のことです。主は恵みをもって私たちに臨まれ、大勢の人々が神の御力によっていやされました。ほとんどの参加者が帰って、私は一人に残っていました。その時、一人の若い男性が、明らかに何か言いたそうにして帰りあぐねているのを私は見つけました。私は声をかけました。「何かしてもらいたいことがありますか。」彼は言いました。「私のために祈っていただけないかと思ひまして。」私は「何かお困りなのですか」と聞きました。「臭いがしませんか」と彼は答えました。その若い男性は罪を犯し、その罪の結果に苦しんでいたのです。彼は言いました。「私は二つの病院から追い出されました。私のからだの至る所に腫れ物があります。腫れ物でからだ中が覆われているんです。」彼の鼻にはひどい腫れ物がありました。彼は言いました。「あなたの説教を聞きましたが、いやしのわざについて理解できませんでした。私に希望なんてあるのだろうかと思っています。」

私は彼に言いました。「イエスさまのことを知っていますか。」彼は救いについて初歩的なことも知りませんでした。でも私は言いました。「静かに立っていてください。」私は両手を彼の頭の上に置き、それから腰に手を置いてイエスの御名によってそのおぞましい病気を叱りました。彼は叫びました。「私はいやされたことがわかります！私のからだがじーんと温かくなるのを感じます。」ああ、私たちの神はなんと恵みに満ちた神でしょうか！なんと素晴らしいイエスさまが私たちのものになってくださったのでしょうか！

あなたには重荷がありますか。神を呼び求めて下さい。人々にとって呼び求めることはいつでも良いことです。あなたにとって今が呼び求めるべき時かもしれません。聖霊と神のことばが、覆いを取るべきあらゆる隠れた汚れた事柄に光をあてます。神に、あなたの人生をひどく傷つけて損なっている原因が何なのかを探っていただくなら、いつでも解放していただける可能性があります。会堂にいた男性についていた悪霊

は「私たちをほうっておいて下さい!」と叫びました。イエスさまが彼のいる場所に歩いて来た時に初めて、悪霊がそのように叫んだという事実は注目に値します。イエスさまは悪霊を叱りつけて、「黙れ。この場所から出て行け」と命じ、その男性は解放されました。イエスさまは今でも全く同じ方です。悪しき力を追い出し、捕らわれ人を解放し、重荷を負う人を自由にし、彼らをきよめ、心を洗ってくださいます。レギオンという名の大勢の悪霊が、ある男性についていました。その悪霊どもはまだ時が来ていないので、底知れぬ所に行けとお命じにならないようにとイエスさまに願い、かわりに豚に入ることを許してくださいと叫びました。地獄とは、悪魔どもでさえ、そこに行くのを考えるだけでも怯えるほどにおぞましい場所なのです。人間はなおのこと底知れぬ所から救われるように求めるべきではないでしょうか。

神はあわれみ深く言われます。「主を求めよ。お会いできる間に。」(イザヤ五五・六)さらにこう言われます。「主の御名を呼び求める者は、だれでも救われる。」(ローマー〇・一三)今、主を求めて下さい。主の御名を今こそ呼び求めて下さい。そうすれば赦しも、いやしも、解放も、あなたが今ここで必要としてるあらゆるものも、あなたを永遠に満ち足らせるものも、与えられます。

(三) 御名の力

テキスト 使徒三・一～一六

イエスの御名を通してどんなことでも可能になります。神はイエスさまを高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。それはイエスの御名によってすべてのものがひざをかがめるためです。世界のあらゆるものに打ち勝つ力がイエスの御名にはあるのです。イエスの御名との素晴らしいつながりを私は待ち望んでいます。天の下でこの御名のほかに、私たちが救われるべき名は与えられていません。

私はその御名にある力と徳と栄光があなたに注ぎ込まれて、その素晴らしさを実感するようになることを望んでいます。六人の人が、ある病気の男性の家に祈りに行きました。彼は監督派の代理牧師でした。彼はベッドに寝たきりで、自力で食事をする力もないほどに弱り果てていました。彼はいやしに関するトラクトを読み、病人のために祈ってくれる人々がいるのを聞いて、友人に頼んで信仰の祈りのできそうな人々を呼んでもらいました。ヤコブ五・一四に従って、彼は油を注いでもらいましたが、すぐにはいやしの結果が現れなかったので、彼はひどく泣きました。六人は病人が何も変わらないままベッドに寝ているのを見て、落胆しながら部屋を出ました。

彼らが外に出た時、六人のうち一人が言いました。「まだ試していないことがあります。皆さん、私と一緒に戻ってそれをやってみていただけませんか。」皆で一緒に戻ることになりました。この兄弟は言いました。「イエスの御名をみんなでささやきましょう。」彼らがこの尊い御名をささやき始めた時には、まだ何も起こりそうにありませんでした。しかし彼らが「イエスさま！ イエスさま！ イエスさま！」とささやき続けると、御力が下り始めました。神が働き始められるのを見て、彼らの信仰と喜びは増し加わり、彼らは御名をますます大胆にささやきました。そうしていると、ついに病人がベッドから起き上がって、自分で着替えました。秘密は次のことです。六人は病人に目を向けたのではなく、ただ主イエスさまご自身に取り扱われることに目を向け、そして彼らの信仰が主の御名にある力をつかんだのです。ああ、もし人々がこの御名にある力の素晴らしさを認めさえすれば、どんなことが起こるかしれません。

イエスの御名を通して、御名の力を通して、私たちは神に近づくことができることを

私は知っています。イエスさまの御顔こそがその場所全体を栄光で満たすのです。世界中でその御名をあがめる人々がいます。そして、ああ、その御名を口にすることは何という喜びでしょうか！

ある日、私は山に祈りに登りました。私は素晴らしい一日を過ごしていました。ウェールズにある高い山の一つでした。この山に祈りに登った人が、素晴らしい主の御霊に触れられて、天使のように顔を輝かせながら帰ってきたという話を聞いたことがありました。その町の人々は皆、その話をしていました。私がある山に登って主の臨在のなかで一日を過ごしていた時、主の素晴らしい御力が私を包み、浸し、満たしているように思われました。

この時より二年前、私たちの家にウェールズから二人の若者が来たことがありました。彼らはごく普通の若者でしたが、神に対してはとても熱心になりました。二人は私たちのミッションに参加し、神のみわざを何度か見ました。彼らは私に言いました。「もし主があなたを導いて、ウェールズで私たちのラザロを起き上がらせても、私たちは驚かないと思います。」彼らの説明によると、彼らの集会のリーダーは日中にスズ鉱山で働いて、夜に説教をしていました。ところが、結果的に彼は倒れてしまい、肺結核を患って、四年間病気のまま自分でスプーンを持てないほどに弱り切っていました。

山の頂上にいる間、私は変貌山の場面を思い起こしました。そして、主が私たちを栄光に導き入れるただ一つの目的は、山を下りてふもとでさらに偉大な働きをさせるためだと感じました。

異言と解き明かし：「生ける神は、神のものを相続させるために私たちを選ばれた。働きのために私たちを整えるのは主ご自身である。私たちの働きは人から出たものではなく神から出たものである。」

その日、山の頂上で主は私に言われました。「あなたにラザロを起き上がらせに行ってもらいたい。」私は一緒に来ていた兄弟にこのことを告げ、私たちは山を下りてふもとに行き、一枚のはがきを書きました。「今日山で祈っていると、神が私に、行ってラザロを起き上がらせなさいと言われました。」送り先は二人の若者が以前に教えてくれた男性のところでした。はがきを送った男性のいる家に、私たちも向かいました。そ

ここに到着すると、その男性が私を見て「この手紙を送ったのはあなたですか」と言いました。私は「そうです」と答えると、彼は「こんなことを私たちが信じるとでも思っているんですか。ほら、お返しします」と、はがきを投げて返しました。

彼は召使を呼んで言いました。「この人を案内してラザロを見せてあげなさい」それから彼は私に言いました。「彼を見た途端にあなたは帰る支度を始めるでしょうよ。引き止めはしません。」彼が言っていることは、自然の観点からすれば正しいことでした。その人は弱り果てていました。骨と皮しかないほど痩せこけていました。生きていくように見えませんでした。完全に衰弱していました。

私は彼に言いました。「大声で叫んでもらえますか。ほら、エリコでは城壁がまだ立っているうちから人々は叫んだでしょう。あなたが信じさえすれば、神はあなたのために勝利の力となってくださいます。」でも私は彼を信じさせることができませんでした。そこには信仰のかけらさえありませんでした。彼は心の中から何もかもを締め出していました。

神のことばはむなしく地に落ちることはないと学ぶことは、まさに祝福です。人間の計画に耳を傾けてはいけません。あなたが人間的な観点から落胆することなく、神への信仰を堅く保っていれば、神は力強く働くことがおできになります。私がはがきを送った男性のところに戻ると、彼は「もうお帰りになりますか」と尋ねました。

私は、見えるものによっては動かされません。**私は自分が信じていることによるのみ動かされます。**私は次のことを知っています。人は信じれば、見えるものに目を向けなくなります。信じていれば、何を感じるかに気をとめません。神を信じる者は、その信じているものを持つようになります。ペンテコステ派の信仰に入った人は誰でも、あらゆる物事に対してただ笑って神を信じることができます。ペンテコステ派の働きは世界の他のどんな働きとも違ったものがあります。聖霊が注がれる時、神が現実であることをあなたは知ることができるでしょう。聖霊が働かれる通り道があるところならどこでも、御霊の賜物が現れるでしょう。逆に御霊の賜物の現れがないところでは、神が本当に臨在されているのだろうかとは私は疑問にさえ思います。ペンテコステ派の人々はペンテコステの集会以外のものでは満足できないのです。私たちは教会が提供するおもてなしは欲しません。神が入って来られる時、神ご自身が私たちをもてなし

て下さいます。王の王、主の主である方のもてなしを受けましょう！ ああ、素晴らしいことです。

そのウェールズの町には難しい状況がありました。その人たちを信じさせるのは不可能に近いことでした。「もう帰る用意はできましたか」と私は聞かれました。しかし、一人の男性と一人の女性が私を引き留めて、彼らのところに来て泊まるように言ってくれました。私は「あなたがたのうちで祈れる方が何人おられるのかを知りたいです」と言いました。誰も祈りたがりませんでした。この気の毒な病人の解放のために私と一緒に祈る人が七人集まるでしょうか、と尋ねました。私たちを引き留めた二人に、私は言いました。「まずあなたたち二人がいますね。それから私の友人と私自身。あと三人が必要です。」私はその人たちに、明日の朝には彼らの中の何人かが彼らの持っている特権に目覚めて、私たちと一緒にラザロが起き上がるための祈りに参加するようになると信じている、と告げました。人の意見に左右されても何にもなりません。神がそうだと言われれば、それを信じるべきなのです。

私は今夜は何も食べないと彼らに言いました。ベッドで眠りにつこうとすると、悪魔が寝たきりのあわれな病人の上に置いたあらゆるものを、私の上にも置こうとしているような感じがしました。夜中に私は目が覚めました。咳がひどく出て、結核患者のような症状が出ていました。私はベッドから這い出て、床に這いつくばって、悪魔の力から解放されるように神に呼び求めました。私は家中の者が飛び起きるほど大声で叫びましたが、誰も起きてきませんでした。神はついに勝利を下さいました。それで私はいつも通り自由になってベッドに戻りました。朝五時に主は私を起こして言われました。「私のテーブルで食べるまではあなたは食事をしてはいけない。」朝六時になって主は私にこう言われました。「そして私は彼を起き上がらせる。」私は隣で眠っている友人をひじでつつきました。彼は「うう」と言いました。もう一度ひじで彼をつついて私は言いました。「聞いたかい。主は彼を起き上がらせると言われたよ。」

朝八時になって彼らは「少し気分転換したらいかがですか」と私に勧めました。でも、私にとって祈りと断食は最高の喜びでした。あなたにとっても、神に導かれた祈りと断食が最高の喜びになりますように。ラザロの家に私たちが行くと、集まったのは全部で八人になりました。神がいつも祈りに答えられないなんて、誰も私に証明して

みせることはできません。主はいつも祈り求めた以上のことをしてください。主はいつも私たちの願うところ、思うところのすべてを越えて豊かに施すことのできる方です。

私は絶対に忘れません。その病人の部屋に入った時に私たちの上にどのようにして神の御力が現されたかを。ああ、それはもう、うっとりすることでした。私たちはベッドを輪になって囲んで、一人の兄弟に病人の片手を握ってもらい、私がもう片方の手を握り、それから私たちは互いに隣の人と手をつなぎました。私は言いました。「これから私たちは祈りません。ただイエスの御名を使います。」私たちは皆ひざまずき、ただ一つのことばをささやきました。「イエスさま！ イエスさま！ イエスさま！」神の御力が下ってきて、それから消えました。五回、神の御力がくだり、五回目には残りました。しかしベッドの上の病人は動きませんでした。二年前に誰かが来て、彼を起き上がらせようとしたことがありましたが、悪魔はその時の失敗経験を使って、ラザロに今回も無理だと思わせようとしていました。私は言いました。「私は悪魔の言うことなんか気にしない。神があなたを起き上がらせると言ったら、そうならなければいけないんだ。神がイエスさまについて言われることの他はみんな忘れてしまいなさい。」

六度目に御力が下ると、病人の唇は動き始め、涙がこぼれ始めました。私は彼に言いました。「神の力がここにあります。それはあなたのものですから受け入れて下さい。」彼は言いました。「私は心の中に苦々しい思いを持っていました。私は神の御霊を悲しませてきたことを知っています。私は今ここで無力です。手を上げることも、スプーンを口に運ぶこともできません。」私は言いました。「悔い改めなさい。神はあなたの願いを聞き入れて下さいます。」彼は悔い改めて叫びました。「ああ神よ、このことをあなたの栄光へと変えて下さい。」彼がこう言うと、主の御力が彼のからだに流れ込みました。

私はこの話の顛末をありのままに話して、何も付け加えることのないように主にお願いました。というのも、神は誇張や大袈裟を祝福されないことは私には分かっているからです。私たちがもう一度、「イエスさま、イエスさま、イエスさま」と言い始めると、ベッドが揺れ、その人も揺れました。私はその場にいた人々に言いました。「皆さんはもう下の階に降りて行って構いません。これはすべて神のわざです。私は彼を手伝

いません。」私が座って見ていると、彼は起き上がって自分で着替えました。私たちは頌栄を歌いながら、彼が階段を歩いて降りるのを見守りました。私は彼に、「さあ、何が起きたのかを話して下さい」と言いました。

ラザロが起き上がったという話ですぐに外が騒がしくなり、ラネリーや他のあらゆる地区から、ラザロに会って彼の証しを聞くために人々がやって来ました。そして神は多くの人に救いをもたらしました。この人は外に出て神がして下さったことを言い広めたので、その結果として多くの人が罪を悟り回心しました。すべてこのことはイエスの御名を通して、イエスの御名を信じる信仰を通して来たことです。そうです。イエスさまによって与えられた信仰が、見ているすべての人の前でこの病人を完全なからだにしたのです。

ペテロもヨハネも無力で、無学で、無知でした。彼らはイエスさまと共にいました。彼らにイエスの御名の力について素晴らしい啓示が与えられたのです。彼らはイエスさまが増やされたパンと魚をその手に持って配りました。彼らはイエスさまと同じテーブルにつき、ヨハネはよくイエスさまの御顔をじっと見つめました。ペテロはよく叱られましたが、イエスさまはそのすべてを通して愛をペテロに示されました。そうです。主はペテロを愛したのです。この分からず屋の頑固者を。ああ、主はなんと素晴らしい愛の方でしょうか！ 私は分からず屋でした。私は頑固でした。私は時には手の付けられないかんしゃくを起こしました。それでも主はなんと忍耐強く寛容だったことでしょう。イエスさまとその素晴らしい御名の中にある力が、あらゆる人を変え、あらゆる人をいやすことができると、私はここであなたにお伝えします。

あなたがイエスさまを神の小羊として受け入れるなら。また、イエスさまを私たちすべての罪をその上に負われた神の愛する御子として受け入れるなら。イエスさまが私たちが自由になるための贖いの代価を完全に支払われたことを受け入れるなら。そうしさえすれば、あなたは、あなたのために買い取られた救いといのちと力との相続人となることができるのです。

あわれなペテロ、あわれなヨセフ！ 彼らには金銀がありませんでした！ でも彼らには信仰があり、彼らには聖霊の力があり、彼らには神がいました。たとえ他に何が無くとも、あなたは神を自分のものとすることができます。たとえあなたが悪人だった

としても、あなたは神を自分のものとする事ができるのです。私は最悪の人が神の力によって救われるのを見てきました。

ある日、私がイエスの御名を宣べ伝えていると、街灯に寄りかかって話を聞いている男の人がいました。彼は街灯の柱で足を支えて立っていました。私たちは野外の集会を終えましたが、その男性はまだ柱に寄りかかっていました。私は「何か病気があるのですか」と彼に声をかけました。彼は私に手を見せました。コートの下にあった手には、銀の柄のナイフが握られていました。彼は不信仰な自分の妻を殺しに行く途中だったと言いました。でも、イエスの御名の力に関する私の話を聞いて、そこから立ち去ることができなくなったそうです。私は「ひざまずいてください」と言いました。人々がほうぼうへ帰っていく広場の一画で、彼は救われました。

私は彼を自分の家に連れて行き、新しいスーツを着せました。私が見たところ、彼には神が用いることのできる何かがあるようでした。彼は次の日の朝、私に言いました。「神がイエスさまを私に啓示されました。あらゆるものがイエスさまの上に置かれているのを私は見ました。」私は彼にいくらかのお金を貸すと、彼はすぐに小さな素晴らしい家を買いました。彼の不信仰な妻は他の男と同棲をしていましたが、彼は妻のために用意したその小さな家に戻ってくるようにと妻を招きました。彼女は来ました。そして以前は敵意と憎しみがあつたその場所で、状況全体が愛によって変わりました。神は彼の行く所どこにあつても彼を働き人として立てました。至る所でイエスの御名の力が現されました。神は最も遠くされた者を救うことがおできになります。

ストックホルムでの集会を私は心にずっと忘れずにいて、今も昨日のこのように思い出せます。そこには治療不可能な病人のための施設があつて、そこに収容されている人の一人が集会に運ばれてきました。彼は中風を患っており、からだ中が震えていました。彼は二人の人に支えられて、三千人の前で立って講壇まで来ました。私がイエスの御名によって彼に油を注いだ時、神の力が彼の上に下りました。私が彼に触れた瞬間、彼は松葉杖を捨ててイエスの御名によって歩き始めました。彼は階段を降り、すべての人が見ている前でその大きな建物中を歩き回りました。私たちの神にできないことは何一つありません。あなたが一歩踏み出して信じるなら、神はあらゆることをしてくださるのです。

ある人が私に提案しました。「治療不可能な人たちのための施設に行ってははどうでしょう。」残りの一日は彼らが私をそこに連れて行きました。彼らは病気の人々を広い廊下に連れ出しました。主は一時間で、二十四人をいやして自由にされました。

イエスの御名はあまりにも驚きと不思議に満ちています。ペテロもヨハネもその御名にすべての力があることを知ってはいませんでした。美しの門にいた、生まれつき足のなえた人も、それを知りませんでした。その代わり、彼らには信仰がありました。彼らは信仰をもって「ナザレのイエス・キリストの御名によって、歩きなさい」と言いました。ペテロが彼の右手を取って立たせると、たちまち彼の足とくるぶしは強くなりました。そして彼は歩いたりはねたりしながら、神を賛美しつつ、二人と一緒に宮に入って行ったのです。どうやってそれが可能になったのでしょうか。イエスの御名によって、イエスの御名を信じる信仰によって、イエスさまが与えて下さる信仰によってです。

(四) よくなりたいたですか

テキスト ヨハネ五・一～二四

神のことばにはどんな人をも変えることのできる強い力があると、私は信じています。神のことばにそれほどの力があるのに、明かされるべきことが十分に明かされていません。神の口から出ることばには、それを成し遂げる力があります。詩篇の著者はこう言っています。「主はみことばを送って彼らをいやし」(詩篇一〇七・二〇)。神のことばが徐々に力を失ってきていると思いますか。私の答えはノーです。そうではなく、神のことばは聖書の時代と同じように、今日でも物事を動かすことができるのです。

詩篇の著者はこう言います。「苦しみに会う前には、私はあやまちを犯しました。しかし今は、あなたのことばを守ります。」また「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(詩篇一一九・六七、七一)それで、もし私たちが苦しみによって、人がパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる、と学ぶとしたら、苦しみに会った人たちは、恵み深い目的に仕えるようになるでしょう。けれども、私があなたに知っていただきたいのは、神のことばによってきめられた、純粋ないのちがあるということです。信仰によってそのいのちのなかにとどまるなら、あなたの霊がサタンの束縛から自由になって神の栄光を現すのと同じように、あなたのからだも病気から自由になって神の栄光を現すことができるのです。

さて、池の水が動くのを待って、大勢の病人、盲人、足のなえた者、やせ衰えた者たちが池の回りに伏せっていました。イエスさまは全員をいやされたのでしょうか。イエスさまはその池の回りにいたほとんどの病人をいやされませんでした。多くの人が池にばかり目を向けていて、イエスさまに目を向けなかったことは疑いようがありません。今日でも、見える事柄にいつも信頼を置いている人が多くいます。彼らが自然の物事ではなく神に目をとめさえするなら、どんなに早く助けを受けられるでしょうか。

疑問を持たれるかもしれません。救いといやしはいったいすべての人のためのものなのか、と。救いといやしは、自分の相続分を得ようとする、まさしくすべての人に与えられます。スロ・フェニキヤの女が、自分の娘から悪霊を追い出して下さるよう求め

た話を覚えておられると思います。イエスさまは彼女に言われました。「まず子どもたちに満腹させなければなりません。子どもたちのパンを取り上げて、小犬に投げてやるのはよくないことです。」いやしと解放のことを主は「子どもたちのパン」と言われたことを注意して下さい。ですから、あなたが神の子どもであれば、間違いなく自分の相続分をいただくことができるのです。

スロ・フェニキヤの女は、後に彼女がいただけることになるものを主に願って言いました。(マルコ七・二四～三〇)「主よ。そのとおりです。でも、食卓の下の小犬でも、子どもたちのパンくずをいただきます。」イエスさまはこの女の信仰を見て驚かれて、こう言われました。「そうまで言うのですか。それなら家にお帰りなさい。悪霊はあなたの娘から出て行きました。」からだの健康はキリストの血によって買い取られたものであるにもかかわらず、今日では残念なことに、神の子どもとされた多くの人々が、その健康を拒んで、うち捨てています。その一方で、かつてと同じように、罪人たちが押しかけて食卓の下パンを拾っている状態です。彼らはいやしがからだの健康だけのためにあるだけでなく、霊とたましいのためでもあることを理解しています。スロ・フェニキヤの女が家に帰ると、悪霊はもう娘から出ていました。今日でも、パンがあります。いのちがあります。そして、からだの健康があります。これらは、神のすべての力強いことばによって、神の子どもたち全員のために差し出されているものです。

みことばは、あなたのからだからあらゆる病気を追い出すことができます。それはキリストにあるあなたの相続分なのです。キリストは私たちのパンであり、いのちであり、健康であり、いっさいのものをいっさいのもので満たして下さる方です。たとえあなたが罪の深みにいたとしても、悔い改めて神に立ち返るなら、主はあなたを赦し、きよめ、受け入れて下さるのです。ヨエル書の最後でこのように約束されています。「私がきよめたことのない彼らの血を、私はきよめよう。」(ヨエル三・二一 KJV)このみことばは、主が私たちの内側に新しいいのちを吹き込むと言われたのと同じです。神の御子であるイエス・キリストのいのちは、人の心と思いをきよめることができ、刷新の範囲は霊とたましいとからだの全面に及びます。

人々が池のまわりにいます。この男性は長い間そこにいました。彼の苦しみは三十八年も続いていました。時折機会が来ると、み使いが水を動かしましたが、彼が行き

かけると、もうほかの人が池に降りて先にいやされていくので、彼の心は打ちひしがれていました。しかしある日、イエス様が池を通りかかって、彼がそこに悲しみに沈んで伏せっているのを見て、「よくなりたいですか」と聞かれました。イエスさまはそう言われました。そして、イエスさまのことばは、とこしえからとこしえまで滅びません。これはあなたへのことばでもあるのです。今日、みじめで試みにあっている人に向けられたことばです。このみじめな病人のように、「私は今まで何度も機会を失ってきました」と言う人もいるかもしれませんが、でも、そんなことを考える必要は全くありません。「よくなりたいですか。」

長年病に苦しんでいた女性のところに私が訪れた時のことです。彼女はリウマチに苦しめられて、二年間ベッドに寝たきりでした。私は彼女に言いました。「どうしてあなたはここに寝たきりになっているのですか。」彼女は言いました。「私は肉体のとげを持っていると思うことにしました。」私は言いました。「肉体のとげを持たなければならないなんて、あなたはどれだけ素晴らしい義の賜物を味わったというのですか。あなたは高ぶる危険があるほどに、そんなにも豊かな神の啓示を受けたのですか。」彼女は言いました。「私は、主が苦しみを下さったと信じています。」私は言いました。「あなたを苦しめることが主のみこころだと信じているのに、あなたはできるなら早くその状態から治ろうとしているんですね。医者の方方した薬のボトルがそこら中に置いてありますよ。あなたは隠されたところから出てきて、自分は罪人だと告白して下さい。あなたが自分で自分を義とすることをやめるなら、神はあなたに働きかけてくださいます。神があなたを苦しめるほどあなたは自分をきよくしているという考えは捨ててしまいなさい。あなたの義ではなく、あなたの罪が病気の原因です。病気は義によって起きるのではなく、罪によって起きるのです。」

キリストの血には、いやしとすべての捕われ人の解放があります。神はご自分の子どもたちがみじめな人生を送ることを願っておられません。悪魔から直接来る苦しみもあるからです。完全な贖いはカルバリで成し遂げられました。イエスさまが私の罪を負われたので、私はあらゆるものから完全に自由にされていることを信じます。私が大胆に信じるなら、あらゆる罪から潔白な者とされます。主ご自身が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負われたのです。だから私が大胆に信じるなら、いやされるのです。

池にいたあわれで無力な男を見て下さい。「なおりたいですか。」けれども、そのためには困難がありました。その男は片方の目で池を、もう片方の目でイエスさまを見ていました。こんなふうにそれぞれの目で違うものを見ている人が今日でも大勢います。彼らは片方の目で医者を、もう片方の目でイエスさまを見ているのです。あなたがただイエスさまだけを見て、両目を主のほうに向けるなら、あなたの霊、たましい、からだがかまなく完全になります。信じる者を義とし、あらゆるものから自由にするのは、生ける神のことばなのです。子が自由にするなら、その人はほんとうに自由なのです。

「ああ、信じることさえできたらいいのに」と言うかもしれません。主は理解しておられます。イエスさまは彼が長い間苦しんできたことをご存知です。主はあわれみに満ちておられます。主は肝臓の問題もご存知です。主は腫れ物があることもご存知です。主は神経痛のこともご存知です。主がご存知ないことは何一つありません。主はあなたに対して、主ご自身が恵み深くあわれみに満ちておられることを示す機会を求めておられるだけなのです。しかし、主はあなたを励まして神を信じるようにさせたいのです。あなたが信じさえすれば、あなたは救われいやされます。イエスさまがあなたの背きの罪のために刺し通され、あなたの咎のために碎かれたこと、彼へのこらしめがあなたに平安をもたらし、彼の打ち傷によってあなたがいやされていること、それもまさしく今ここでいやされていることを、大胆に信じてください。あなたがうまくいかなかったのは、主を信じなかったからです。主を今すぐ呼び求めて下さい。「主よ、信じます。不信仰な私をお助け下さい。」(マルコ九・二四)

私がカルフォルニアのロングビーチで、友人と一緒にホテルに泊まっていた時のことです。友人が足の病気で苦しんでいる医者のことを教えてくれました。彼は足の病のせいで六年間、外出できませんでした。私たちが彼の部屋へ行くと、四人の医者がそこにいました。私は「お医者さん。どうもお取り込み中そうですね。また後日伺います」と言いました。別の時にそこを通りがかると、聖霊が「彼の所を訪問しなさい」と語られました。かわいそうな医者です！ 彼は確かにベッドに寝たきりでした。彼は「六ヶ月間もこんな状態です。誰も私を治せません」と言いました。私は「神の全能の力が必要です」と言いました。人々は自力で彼らの人生の破れを繕おうとしますが、神なしでは何もできません。彼に私は主についてしばらく話し、それから祈りました。私は大きな声で「イエスの御名によって彼から出て行け」と命じました。医者は「完全に去り

ました!」と叫びました。

そこでの集会で、老人が息子を講壇に連れて来ました。老人は「息子はほとんど毎日発作が起きるのです」と言いました。また、癌におかされた女性がいました。ああ、罪が何という事をしたのでしょうか! 神が主の民をエジプトから導き出した時のことがこう書かれています。「その部族の中でよろける者はひとりもなかった。」(詩篇一〇五・三七) 病気がありませんでした! すべての者が神の力でいやされました! 今日でも人々がそうなることを主は望んでおられると、私は信じています。

私が癌をわずらっている姉妹のために祈ると、彼女は言いました。「私は自由になりました。神が私を解放してくださったことがわかります。」それから人々は発作持ちの男の子を連れて来ました。私はイエスの御名によって悪霊に去るよう命じました。それから私は糖尿病をわずらう医者のために祈りました。翌日の夜の集会では会場はいっぱいになりました。私は昨日の医者に呼びかけました。「さあ、お医者さん。糖尿病はどうですか。」彼は「もうなくなりました」と答えました。私は老人に言いました。「息子さんはどうですか。」老人は「あれから発作が消えました」と答えました。私たちには祈りに答えて下さる神がいます。

池にいたこの男を永遠までの証しとするのがイエスさまの意図でした。彼が両目をイエスさまに向けた時、主は彼に言われました。「不可能なことをしなさい。起きて、床を取り上げて歩きなさい。」イエスさまは別の場所で、手のなえた男に不可能な要求をしました。手を前に伸ばせと。その男は不可能なことをしました。手を伸ばし、するとすっかり直りました。同じように、この弱り切った男も不可能を行いました。彼が起き上がり始めると、神の力が自分の中に流れ込んでくるのを感じました。彼は床を取り上げて歩き始めました。それは安息日のことでした。周りには主がなさったことを思うよりも、日を守ることをもっと大切だと考えるような人が少なからずいました。そして彼らはつぶやき始めました。神の力が現れる時にはいつも偽善者からの反対がつきものです。イエスさまはこの男の過去の行いをすべてご存知だったので、彼に再び会った時に主はこう言われました。「見なさい。あなたはよくなった。もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるから。」

罪と病気の間には密接な関係があります。どれだけの人が、自分たちの病気が罪

の直接的な結果だと知っているでしょうか。罪の中に生きているのに祈ってもらいに
来ることがないようにと、私は望んでいます。しかし、あなたが神に従い、罪を悔い改
め、それをやめるなら、神はあなたに会って下さいます。そうすれば、あなたの病気も
あなたの罪も残りません。「信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を
立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されま
す。」(ヤコブ五・一五)

信仰とは、主が通られるための開いたドアそのものです。こうは言わないでくださ
い。「私は信仰によっていやされた」と。信仰が救うのではありません。神がその開い
たドアを通して救いに来られるのです。いやしも同じようにして来ます。あなたが信じ
ると、いやしが同じドアを通過してきます。あなたが信じると、キリストの力が来るのです。
いやしは神の栄光を現すためのものです。わたしがここにいるのは、私が死にかけて
いた時に神が私をいやされたからです。それで私は世界中をまわって、この全面的な
贖いを宣べ伝え、私をいやして下さった素晴らしいイエスさまの御名の栄光を現す
ために、私のできる限りのことをしています。

「もう罪を犯してはなりません。そうでないともっと悪い事があなたの身に起こるか
ら。」主は別の場所で私たちに、人から出て行った悪霊について教えられました。悪霊
が出て行った家に戻ってみると、家は掃除してきちんと片付いていましたが、新しい居
住者はいませんでした。そこで悪霊は自分より悪いほかの霊を七つ連れて来て、みな
入り込んでそこに住み着きます。そうすると、その人の後の状態は、初めよりもさらに
悪くなります。主はあなたが野球やレースを見に行くためにいやして下さるのではあ
りません。主がいやして下さるのは神の栄光のため、そして今後のあなたの人生が神
の栄光を現すものとなるためです。その人は以前の生活のままでした。彼は神をほめ
たたえませんでした。彼は聖霊に満たされることを求めませんでした。だから、後の状
態が初めよりもさらに悪くなったのです。

主は私たちの心にある動機や願いをきよめて下さいますから、私たちはただ一つ
のこと、すなわち主の栄光だけを求めるようになります。以前私がある場所に行った
時、主が「これは私の栄光のためだ」と言われました。若い男性が長い間病気でベッ
ドから出られず、全く希望のない状態でいました。彼はスプーンだけで食事を取って

いて、着替えは全くしませんでした。天気が湿っていたので、私はその家の人達に言いました。「この若い人の衣服を火の近くで乾かしていただけませんか。」最初は彼らは私の言うことに耳を貸しませんでした。が、しつこく私がお願いしたので、ついに彼らは衣服を取り出して干してくれました。衣服が乾くと私はそれを持って病人の部屋に入りました。

主は私に言われました。「あなたはこのこととは何の関係もない。」それで私はただ床にひれ伏していました。主はこれからこの場所を、主の栄光で揺るがすと私に示されました。ベッドが文字通り揺れ動きました。私がイエスの御名によって若者に手を置くと、御力が下って私は顔から床に倒れました。十五分もすると若者は起き上がってそこら中を歩き、神をほめたたえました。彼は自分で着替え、それから部屋を出て彼の両親がいる部屋に行きました。彼は言いました。「神が私をいやされました。」父も母も、その部屋に急激に下った神の力によって倒れて床に伏しました。その家には精神病で保護施設にいたことのある女性も住んでいて、精神状態が非常に悪いので家の者は施設に戻そうとしていました。ところが、神の力はその女性をもいやしたので、神の力は聖書の時代も今日も全く同じです。人々は立ち戻る必要があるのは、かつての道、かつてと同じ信仰です。神のことばの一つひとつを「主がそう言われる」そのままに信じることです。主の御霊は現代にも動いておられます。神が近づいておられます。その流れの上に乗るためには、神が言われることを何でも受け入れなければなりません。

「よくなりたいですか。」こう尋ねられるのはイエスさまで。あなたが主に答えて下さい。主は聞かれ、主は答えて下さいます。

（五）わたしは主、あなたをいやす者である

「あなたがたのうちに病気の人がありますか。その人は教会の長老たちを招き、主の御名によって、オリーブ油を塗って祈ってもらいなさい。信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせてくださいます。また、もしその人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。」（ヤコブ五・一四～一五）

この尊いことばの中に、いやしの真理の基礎となっている本物の土台があります。この聖句の中で神は病人に明確な命令を与えています。もしあなたが病気なら、あなたの役割は教会の年長者を招くことです。そして、彼らの役割はあなたのために信仰によって祈り、油を塗ることです。そうして状況全体は主が責任を持って下さいます。あなたが油を塗って祈ってもらうなら、主が起き上がらせて下さるのだとあなたは安心できます。これは神のことばなのです。

教会がこの役目を果たせずにいることは、誰の目にも明らかであると思います。この明確な命令を無視することは極めて危険な状態です。この命令に従うのを拒否する人は、言葉を絶する損失を被っていることになります。

ヤコブはこのことに関連して次のように書いています。「あなたがたのうちに、真理から迷いでた者がいて、だれかがその人を連れ戻すようなことがあれば、罪人を迷いの道から引き戻す者は、罪人のたましいを死から救い出し、また、多くの罪をおおうのだということを、あなたがたは知っていなさい。」（ヤコブ五・一九～二〇）多くの人が主を無視しています。それはアサ王のようです。彼は病気にかかっても、主を求めずに医者に求めました。その結果、彼は死にました（第二歴代誌一六・一二）。だから私はこの箇所を取り上げたのです。この箇所で行われているのは、もし人が誰かを説き伏せて主に立ち返らせるなら、その人は罪人を死から救い出すのだということです。神は彼らの犯した多くの罪を赦して下さいます。この聖句は救いに関する他の面についても応用できます。神の真理から踏み外すなら、それが救いに関するどんな部分であっても、敵はその人に対して間違いなく有利な立場になります。

いやしのために主を見上げて、ヤコブの手紙に書かれた命令に従う人々に、主は会って下さるでしょうか。そうです。これよりも確かなことはありません。最も極端な状

況を主がどのように引き受けて下さるのかを知っていただくために、一つお話をさせていただきます。

以前、私がある病人のところを訪問した時のことです。その病人は、建築家をしている私の友人と一緒にいました。建築オフィスから若い男性が車で走って来てました。手には電報を握っていました。私はその電報で病人のことを知りました。電報には、死にかけている人がいるのですぐに来て祈って欲しいという非常に緊急の依頼が書かれてありました。私たちは車で出発し、できる限り急いで運転しました。およそ一時間半で、死にかけている男性の住む家に到着しました。国内でもかなり大きな家でした。家には二つの階段があって、極めて好都合でした。というのも、医者たちが一つの階段を使い、私たちは別の階段で昇り降りをしたので、私たちは顔を合わせる機会がありませんでした。

到着すると、この状況はヤコブ五章のケースだと分かりました。病人のからだは酷い状態でした。脱腸（鼠径ヘルニア）が進行していて、腸は二カ所、穴が開いていました。穴が開いた箇所は腫れていて、敗血症になっていました。男性の顔色は緑でした。二人の医者が診ましたが、こうなるともう彼らにはなすすべがありませんでした。彼らはロンドンの専門医に電報を打ち、私たちが到着した時には彼らは専門医が来るのを駅で待っているところでした。

死が間近なこの男性は話すこともできませんでした。私は彼の夫人に言いました。「ご希望でしたら、彼のために油を塗って祈らせて下さい。」夫人は「電報を送ったのはそうしていただくためです」と言いました。私は彼に油を塗って、イエスの御名によって彼を立ち上がらせてくださるよう主に求めました。見かけ上は、何も変化がありませんでした。（神は、ご自分でされていることを隠される場合があります。集会で祈って何か起きたと聞かなくても、日が経つにつれてそこで起きたいやしの知らせが届くことがあります。つい先日、ひどく苦しんでいる女性が集会に参加しました。腕全体が毒に冒されていました。血液も毒に冒されていて、そのせいで女性がまもなく死んでしまうことは明白でした。私たちは問題を叱りつけました。今朝、彼女はここに来て、痛みがなくなって夜はぐっすり眠れたことを知らせてくれました。二ヶ月間そんな状態はなかったのです。まことに神をほめたたえます。主はこの種のことをいつでもなさい

ます。)

この兄弟に油を塗って祈ってからすぐに、私たちは後ろの階段から降りました。そして三人の医者が前の階段から昇ってきました。下の階に降りてから私は一緒に来た友人に言いました。「友よ。手を握らせてください。」私たちは互いの手をとって、続けて私は言いました。「私の顔を見て下さい。二人で同意しましょう。マタイの一八章一九節によれば、この男性は死から救われることになります。」すべての事柄を神にゆだねて、「父よ。信じます」と私たちは言いました。

それからが戦いでした。夫人が階段を降りてきて言いました。「お医者様がたが道具を取り出して手術を今にも始めようとしています。」私は大声をあげました。「何ですって。さあ、彼はあなたの旦那でしょう。いいですか。彼らが手術をしたら旦那は亡くなりますよ。戻って彼らに手術を許可しないと言ってください。」夫人は階段を上って医者に告げました。「十分間だけ待って下さい。」医者は言いました。「そんな余裕はありません。この人は死にかかっています。あなたの旦那の最後のチャンスなんですよ。」夫人は言いました。「十分間だけ下さい。十分経つまで、夫のからだに触れないで下さい。」

医者たちは一方の階段で下に降り、私たちはもう一方の階段で上に昇りました。私は夫人に言いました。「この人はあなたの夫です。彼は自分で話すことができません。今は、あなたが神に全幅の信頼を寄せて、あなたが主こそ完全に真実な方だと証明する時です。あなたは夫を千人の医者から救うことができます。あなたはこの生死のかかわる時間、神と共に、神のために立ってはいけません。」その後で私たちは降り、医者が上がってきました。夫人はこの三人の医者の前で言いました。「この人のからだには絶対に触れないでください。私には分かっています。もし夫を手術すれば死にます。でも、もし夫に触れなければ、夫は生きます。」

突然、ベッドの夫が話しました。「神がして下さった」と言いました。医者がベッドクロスをめくって調べると、腫れ物はきれいに切り取られていました。看護の者が腫瘍のあった場所を拭きました。腸はまだお腹から見えていたので医者たちは夫人に言いました。「あなたが立派な信仰を持っておられることはわかりました。そして素晴らしい奇跡が起きたことも見て取れます。でも、この破れた箇所だけは接合して銀のチ

ユーブを入れるのだけはさせて下さい。そうすればあなたの旦那は完全に良くなります。それをするためにあなたの信仰を邪魔する必要は全然ないでしょう。」夫人は言いました。「神が最初のことをされました。ですから残りのことも神はおできになります。今は誰も夫に触れてはいけません。」そして、神はすべてをいやされました。その男性は今も元気でピンピンしています。お望みでしたらどなたにでも、彼の名前と住所を教えることができます。

何の力によってこのことがなされたのでしょうか。ペテロのことばの中に答えがあります。「このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。」(使徒三・一六)油注ぎは主の御名の中にあります。こうも書かれています。「主はその人を立たせてくださいます。」(ヤコブ五・一五)主は二重の回復を与られます。たとえ罪がその病気の原因だったとしても、神のことばはこう宣言するのです。「もし、その人が罪を犯していたなら、その罪は赦されます。」

こう尋ねる人もいるでしょう。「信仰とは何でしょうか。」信仰は、神のことばの原理です。みことばに靈感を与えた聖霊は、真理の御霊と呼ばれています。そして、私たちが心に植えつけられたみことばを素直に受け入れるなら、信仰が心の中から湧き出てくるのです。カルバリでの捧げ物を信じる信仰。イエスさまの流された血を信じる信仰。主が私たちの弱さをご自分の身に背負われて、私たちの病を負われ、私たちの痛みをになわれたことが事実であると信じる信仰。そして、主が今日でも私たちのいのちとなって下さるという信仰が湧いてくるのです。

神が私たちを選ばれたのは、お互いに助け合うためです。私たちには孤立無援で働く勇氣はありません。主は私たちがお互いに仕えるところにまで導いて下さいます。このことを私たちが拒むなら、神のことばから外れ、信仰から外れてしまいます。私はかつて孤立に陥ったことがありましたが、もう二度とそうはなりません。一度、私はある集会に行きました。私はひどい病気にかかっており、ますます悪くなるばかりでした。神の完全なみこころは私がへりくだって年長者に祈ってもらうようお願いすることだと私には分かっていました。しかし、もたもたしていると集会は閉会になりました。私は油を塗ってもらうことも祈ってもらうこともなく帰りました。すると家中の者が私の

苦しんでいる病に感染してしまいました。

私の子どもたちは、家族の医者でもある主に信頼することのほか何も知りませんでした。一番小さなジョージが屋根裏部屋から泣き叫んで、「パパ！ 来て!」と言いました。私は叫びました。「行けないよ。全部パパから来ているんだ。パパが悔い改めて神さまに赦してもらわないといけないんだよ。」私は教会全体の前にへりくだることを心に決めました。それから私は屋根裏部屋に駆け上がって、イエスの御名によってジョージに両手を置きました。この子の頭に手を置くと、痛みはだんだんとからだの下の方にさがっていきました。ジョージは「もっと下の方に手を置いて!」と叫びました。やっと痛みが足まで下がって行って、足に手を置くと、ジョージは痛みから完全に解放されました。明らかに悪しき力が縛り付けていたので、手を置くからだの部分をいろいろと変えると、症状が去りました。(私たちは病人に油を塗ることと、悪魔を追い出すことを区別する必要があります。) 私たちが神の前にへりくだって、砕かれた霊に至る時、神はいつでも恵み深くあられます。

あるところで私が病気の女性にミニストリーをしていた時のことです。彼女は言いました。「私の病気はひどいんです。一時間だけ良くなっても、すぐに別の症状が出てきます。」彼女を攻撃しているのは悪しき力だと分かりました。私はその時、それまでに学んだことのなかった事柄を学びました。彼女のからだにイエスの御名によって手を置き、その手を動かすと、悪しき力が私の手の前をちょうど逃げて移動するようでした。私が手を下の方へどんどん移動させていくと、悪しき力はスッと彼女のからだから出て行き、二度と戻りませんでした。

フランスのルーブルでのことです。神の力が力強く現れました。ギリシャ人でフェリックスという名前の男性が集会に参加して、神に対してとても熱心になりました。彼はできるならすべてのカトリック信徒にこの集会に参加してもらい、神がフランスに恵みをもって訪ねておられることを知ってほしいと願っていました。彼はベッドで寝たきりのある夫人と出会いました。夫人の姿勢は固定されていて、動けませんでした。彼はその集会での主のいやしについて夫人に話し、夫人が願うなら私をそこに連れて来ると伝えました。夫人は言いました。「私の夫はカトリックです。夫はカトリックでない人とは決して会わせてくれません。」

夫人は夫に私が来るのを許してもらうようにお願いしました。私たちのあいだで働かれる神の力について、フェリックスが話した内容も夫に話しました。夫は言いました。「ペンテコステ派の人は家に入れたくない。」夫人は言いました。「ご存知の通り、お医者様も私を治せませんし、司祭様も治せません。この神の人に祈ってもらうのはいいませんか。」夫はついに承諾して、私はその家に行きました。この女性の実直さと、彼女の子どものような信仰を見るのは美しいことでした。

私は油の瓶を夫人に見せて言いました。「ここに油があります。これは聖霊の象徴です。油があなたに注がれると、聖霊が働き始めます。そして主があなたを立てて下さいます。」夫人に油を注ぐと、神が何かをして下さいました。私が窓の方を見ると、イエスさまがそこにおられました。(たびたび私はイエスさまを見ました。イエスさまを描いた絵画にはどれ一つとしてイエスさまに似たものはありません。どんな芸術家でも私の美しい主の美しさを描き出すことはできません。)夫人は神の力をからだの中に感じて、叫びました。「私は自由です。手が自由です。肩が自由です。ああ、私はイエスさまを見ました! 私は自由です! 私は自由です!」

幻が消えて夫人はベッドの上に座りました。彼女の足はまだ治っていませんでした。そこで私は言いました。「手を足の上に置きましょう。そうすれば完全に自由になります。」そして私が両手をベッドクロスのかけられた足に置くと、再びイエスさまが現れました。夫人もイエスさまを見て叫びました。「主がまたおられます。私は自由です! 私は自由です!」夫人はベッドから立ち上がって部屋の中を歩き回り、神を賛美しました。主の素晴らしい御業を見せられた私たちは皆、涙を流しました。条件さえかなえば、主は病人を立てて下さいます。

神に対してとても熱心なお金持ちの男性のところに私は訪れました。彼は多くのお金を人命救助のミッションを開始するために費やしていました。彼に、私と一緒にある人のいやしに行くようにお願いしました。彼は言いました。「私のことは構わないで下さい。あなたはあなたでやってください。でも私はこの種の働きに関与しません。」それから私は、何時間も祈りのできるある男性のことを考えました。彼がひざまずいて祈っていると、世界を三度も行き巡って、それからもとの場所に戻ってくるようなことが起こる人でした。彼に私と一緒にいやしに行くようにお願いして、こう言いました。「今回

は本当にチャンスだよ。祈り通して、そして祈りが終わったら止めてほしい。」(祈り通すことが終わっても、まだ祈っている人が時々います。)

彼の名前はニコルスです。ニコルス兄弟が私と一緒にいてくれることになり、病人の家で祈り始めました。彼が主にこう祈りました。これから夫は妻に先立たれ、子どもたちは母を失うことになりますが、彼らを主が慰めて下さいますように。私は叫びました。「ああ、神よ、この人を止めてください。」でも彼は祈りを止めずに続けました。彼の口から出る言葉には信仰のかけらもありませんでした。彼がやっとのことで祈り終わると、私は言いました。「クラーク兄弟、今度はあなたが祈る番です。」彼は祈り始めました。「主よ。私の兄弟の祈りに答えて、家内に先立たれる私の悲しみを慰めてください。これから直面する大きな試練のために私を整えてください。」私はまた叫びました。「神よ、この人を止めて下さい。」その場の雰囲気は不信仰で満たされていました。

私は油の瓶を取って病気の女性に近づき、イエスの御名によって油を余すことなく注ぎました。突然、イエスさまが現れて、ベッドの足元に立っておられました。主は微笑まれ、そして幻は消えました。女性は立ち上がり、完全にいやされました。彼女は今も元気に生きています。

私たちには偉大な神がおられます。素晴らしいイエスさまがおられます。栄光ある助け主がおられます。神の天蓋があなたの上にあり、いつでもあなたを悪から守って覆っています。あなたは御翼の下に身を避けます。神のことばは生きていて力があり、その宝の中に永遠のいのちを見いだすことができます。あなたが大胆にこの素晴らしい主、いのちの主に信頼するなら、キリストの中にあなたの必要なすべてのものを見いだすことでしょう。

あまりに多くの人が薬物、やぶ医者、錠剤、軟膏などに手を出しています。それらはすべて空にして、神を信じて下さい。神を信じれば十分です。主に信頼するなら主は決して裏切られないことをあなたは知るでしょう。「信仰による祈りは、病む人を回復させます。主はその人を立たせて下さいます。」主を信頼しますか。主は信頼するに値する方です。

ウェスタン・スーパー・メアというイングランド西部にある海辺のリゾート地に呼ばれた時のことです。私は電報を通して、ある男性が正気を失って、うわ言を叫び続ける錯乱状態にあることを知りました。それで人々が彼のために祈ってほしいと私に知らせてきました。私がそこに到着すると、彼の夫人が私に言いました。「夫と同じ部屋で寝ていただけますか。」私はそうすることにしました。夜中になると彼に悪の力が及びました。それはひどいものでした。彼の頭に手を置くと、髪がたくさんの棒のようになって逆立っていました。神が解放を与えて下さいました。ただし、一時的な解放です。翌朝の六時になると、私は少しの時間、この家から出る必要があると感じました。

男性は私を見つめて叫びました。「私から離れるなら、希望がもうなくなります。」でも私は行かなくてはいけないと感じました。外に出ると、救世軍の帽子をかぶった女性を見つけました。彼女は朝七時の祈り会に行くところだと分かりました。そこで私は、祈り会で賛美が始まる直前に、その会を仕切っているキャプテンに声をかけました。「キャプテン、歌はいいです。祈りましょう。」彼はそうすることにしました。私は心を注ぎ出して祈りました。それから私は帽子を取って外に走って行きました。その場にいた人たちは皆、朝の祈り会に変な人が来たと思ったことでしょう。

私と一緒に夜を過ごした男性が、海の方に走っていました。衣服は身につけていませんでした。そして今にも海に飛び込んで溺れそうでした。私は叫びました。「イエスの御名によって、彼から出て行け！」男性は地面にばたきと倒れ、悪の力は彼から出て行き、二度と戻りませんでした。夫人が彼を追いかけて駆け寄り、彼は完全に精神が正常になって妻を出迎えました。

悪の力は実在します。けれどもイエスさまはあらゆる悪の力よりも力強いのです。途方もなく多くの病気があります。けれどもイエスさまは癒し主です。主にとって難しく不可能なことはありません。ユダ族から出た獅子なる方がすべての鎖を打ち砕きます。主が来られたのは、しいたげられている人々を自由にし、捕らわれ人を解放するためです。主が来られたのは、贖いのため、私たちを墮落する前の人間と同じように完全な者とするためです。

人々が知りたがっているのは、どうやって神の力にとどまることができるかということです。あなたが導き入れられる恵みの座、すなわち、赦し、いやし、あらゆる種類の

解放をサタンが奪い取ろうとしてきます。サタンはあなたのからだに挑んできます。あなたが救われる時、サタンが歩き回って来て言います。「ほら、お前は救われていないんだ。」悪魔は嘘つきです。悪魔が救われていないと言うのなら、それはあなたが救われていることの確かな証拠です。

掃除してきちんと片付いた家にたとえられた男の話を覚えておられるでしょう。悪い霊が彼から出て行きました。しかしその男は以前と変わらない生活のままでした。主があなたをいやされるなら、以前と変わらない生活を続けてはいけないのです。悪霊がその男のところに戻ると、家が掃除してあったので、自分よりも悪い他の七つの霊を連れて来ます。すると後の状態ははじめの状態よりも悪くなります。必ず神に満たされて下さい。内に住んでくださる方をお迎えして下さい。御霊に満たされて下さい。

神はご自身のもとに来る人々の救いを引き受ける方法を百万通りも持っておられます。主はどんな捕らわれ人でも解放できる方です。主はあなたのことを深く愛されているので、「彼らが私を呼ぶ前に、私は答える」とさえ言われます。神を遠くに追いやらないで下さい。

(六) 彼が私たちのわずらいを身に引き受けた

テキストマタイ八・一～一七

この箇所には素晴らしいみことばがあります。みことばはすべて素晴らしいものです。この祝福に満ちた聖書は、この上なく素晴らしいのちと健康と平和と豊かさをもたらしてくれます。それは、私たちがもう二度と貧しいみじめな者とならないためです。聖書は私にとって天の金庫です。私の欲するすべてのものがその中にあります。あなたがどれほど豊かな者となれるのか、すなわち、キリスト・イエスにあってあなたはすべての点で豊かな者となれるということをお伝えしたいと思います。主はあなたのために恵みの豊かさと、義の賜物とを持っておられます。主の豊かな恵みを通してどんなことでも可能になります。あなたがキリスト・イエスという生けるぶどうの木の生ける枝になれるということ、そして、あなたがこの世にあってあなたのいるこの場所でキリストのような者とされる特権にあずかっているということをお伝えしたいのです。ヨハネがこう教えています。「私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。」(第一ヨハネ四・一七) 私たち自身が何か特別な者だということではありません。私たちの内に住まわれるキリストこそが、いっさいのものをいっさいのもので満たして下さる方です。

主イエスさまはいつでも私たちをご自身に引き寄せるために、主の恵みと愛を積極的に示そうと願われました。神は何事も喜んで行われ、みことばを現して、今日この日この時間に私たちの神のみこころを適切に知らせてくださいます。暮らしに困っている人が大勢います。苦しんでいる人が大勢います。でも私はどんな現状にある人の苦しみも、マタイ八章のはじめに出てくる人の苦しみに比べれば、その半分にも届かないと思います。この男性はらい病人でした。あなたは結核や癌や他の病気に苦しんでいるかもしれませんが、あなたがキリストに生きた信仰を持つなら、神ご自身があなたを完全にきよめられることを、またあなたを完全にいやされることを、目に見えて現し、証明して下さいます。素晴らしいイエスさまが主なのです。

このらい病人はイエスさまについて話を聞いたに違いありません。今日ではイエスさまが何をなさるのかを人々が常に話しているわけではないために、どれほど多くのものが失われていることでしょう。おそらく誰かがこのらい病人のもとに来て、「イエス

さまなら、いやすことがおできになります」と言ったのでしょう。それで彼は、主が山のふもとに降りて来られるのを見ながら、期待に胸を膨らませました。らい病人は人々の手の届く範囲に来ることが許されていませんでした。らい病人は汚れた者として締め出されていました。ですから、イエスさまのまわりを群衆が取り囲んでいたのも、通常の方法で彼がイエスさまに近づくことはとても困難だったことでしょう。それでも、山から降りて来られると主はこの気の毒ならい病人に会われました。ああ、この恐ろしい病気に！ 人間的に言えば彼は治る見込みがありませんでした。けれども、イエスさまにとって手に負えないことは何一つありません。彼は叫びました。「主よ。お心一つで、私をきよくしていただけます。」きよくすることはイエスさまのみこころだったのでしょうか。イエスさまが良いわざを行う機会を逃されたことは一度もないことに注意してください。私たちが主に働いていただく機会を願っている以上に、主ご自身がいつでも御業を現そうと喜んで準備しておられるのです。問題は、私たちが主のもとに行かないことです。また、主が私たちの想像をはるかに超えて喜んで与えようとされるものを、私たちが主に願い求めないことです。

そしてイエスさまは手を伸ばして彼に触り、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われました。すると、瞬間的に彼のらい病はきよくなりました。私はこの話が好きです。もしあなたが確かにイエスさまと共にいるなら、失望には決して陥りません。神のいのちがあなたに流れ込み、瞬間的にあなたは解放されます。このイエスさまは今日も同じです。主はあなたに言われます。「わたしの心だ。きよくなれ。」主はあなたのために、いのちの水が満たされて溢れ出ているコップを持っておられます。絶望的な状況でも、主はあなたに会われます。あなたが信じさえすれば、どんなことでもできるのです。神が持っておられる計画は現実です。そして非常に単純なものです。ただ、イエスさまのもとに来て下さい。そうすれば、イエスさまがかつて地上におられた時と全く同じ方であること知ることができます。

この章の次の話は百人隊長の物語です。彼は中風でひどく苦しんでいるしもべのために、イエスさまのみもとに来て懇願しました。この男は非常に熱心だったので、イエスさまを探し求めてみもとに来ました。確かなことが一つあります。探したにもかかわらず見出さないというようなことはありません。このことに注意して下さい。探す者は見出します。イエスさまが言われた恵みのことばを聞きましょう。「行って、いやして

あげよう。」私たちが足を運ぶ多くの場所で、私たちが祈ってあげられない人々が実にたくさんいます。ある場所では、二百人から三百人近くの人が、私たちの訪問を待っていることがあります。すべての人のところに訪問することはできません。ですが、嬉しいことに、主イエスさまはいつでも喜んで、行っていやそうとされます。主は病人と会うことを切望されています。主は彼らの苦しみを取り除いていやすことを、この上なく望んでおられます。パウロの時代に主がハンカチを使って人々をいやされたことがあります。今日でも主はハンカチを使ってでも多くの人をいやしてくださいます。ハンカチの奇跡は使徒一九・一二にあります。

リバプールの町で、ある女性が私のところに来て言いました。「あなたに助けていただきたいことがあります。私と一緒に祈っていただきたいのです。私の夫が酒飲みで、毎晩酔っ払って家に帰ります。一緒に夫のために祈っていただけませんか。」私は夫人に言いました。「ハンカチを持っていますか。」夫人はハンカチを取り出して、私はそれに手を置いて祈りました。それから、このハンカチを酒飲みの旦那の枕の上に置いて下さいと言いました。その夜、旦那が帰って来て、ハンカチを敷いた枕の上に頭を載せました。彼がその夜に頭を置いたのは、枕よりももっと偉大なものです。彼は神の約束の上に頭を置いたのです。マルコー一・二四にはこうあります。「祈って求めるものは何でも、すでに受けたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになります。」

翌朝、その男性が起きてから、仕事に向かう途中にある一番最初の酒場に寄って、ビールを注文しました。彼は一口飲んで、バーテンダーに言いました。「このビールに毒が何かを入れたな。」彼は飲むことができませんでした。それから次の酒場に行って、またビールを注文しました。彼は一口飲んで、カウンターの向こうの者に言いました。「このビールに毒が入っている。お前たちは俺を毒で殺そうと共謀しているに違いない。」言いがかりをつけられたバーテンダーは憤慨していました。旦那は言いました。「他の店に行く。」彼は別の酒場に行きましたが、前の二つの酒場と同じことが起こりました。大騒ぎをしたので、彼は店から追い出されてしまいました。彼は仕事を終えて、帰りにまた別の酒場に寄ってビールを注文しました。しかし、今度もまたビールに毒が入っている感じがしたので、彼は店で大声で騒ぎ立てて、店からつまみ出されました。家に着くと、夫人に今日起きたことを話し、「やつら全員で共謀して俺に毒を盛っているみたいだ」と言いました。夫人は言いました。「主の御手のうちにあること

が分かりませんか。主は、あなたのからだを壊すようなものをあなたが嫌いになるように仕向けているんですよ。」この言葉で旦那の心は確信を持つようになりました。彼は集会に参加して、救われました。主は今も、捕らわれ人を自由にするために力強く働かれます。

私がオーストラリアにいた頃のことです。怠け者の息子にほとんど困り果てている一人の女性が私のもとに来ました。私はハンカチに手を置いて祈り、そのハンカチを息子の枕に置いてもらいました。彼はその晩、ハンカチに頭を置いて寝ました。翌朝になって彼が起きると、職を得て働きに出ました。ああ、主をほめたたえます。神を締め出さないで下さい。神を信じさせれば、神は悪魔を追い出されるのです。

イエスさまは病気のしもべのところに、喜んで行っていやそうとされました。ところが、百人隊長は言いました。「主よ。あなたを私の屋根の下にお入れする資格は私にはありません。ただ、おことばを下さい。そうすれば、私のしもべは直ります。」イエスさまはこれを聞いて驚かれ、百人隊長に言われました。「さあ行きなさい。あなたの信じたとおりにするように。」ちょうどその時、そのしもべはいやされました。

これもオーストラリアにいた頃のことです。男性が私のもとに来ました。彼は大きな杖をついていました。そして私にこう言いました。「助けていただきたいことがあります。私のために、一時間半祈っていただけませんか。」私は言いました。「神を信じて下さい。そうすれば、一瞬であなたは全身が良くなります。」彼の信仰がよみがえって、すぐにいやしを受け取ることができました。奇跡的ないやしのことで神に栄光を返しなが、彼は帰って行きました。主のことばは今日、十分です。大胆に神のことばを信じるならば、あなたは神のことばが真実で素晴らしい働きをするのを見るでしょう。私たちは百人隊長と同じように、神を制限しない大胆な信仰を持つことができます。うまくいかないのは、イスラエルの聖霊を私たちが制限してしまう時です。神のことばを信じる生きた信仰を持つために、この私があなたの励みになりたいと思います。

次の聖書箇所はペテロのしゅうとめが熱病からいやされた話です。ルカの福音書によればイエスさまは熱病を叱られました。イエスさまは新しい方法を使いました。今日、多くの人が熱が出たら発汗して治そうとします。でも発汗しても悪魔を追い出すこ

とはできません。あなたがどれだけからだを温めても、悪魔はその熱に耐えることができます。しかし、あなたが信じることができるなら、ペテロのしゅうとめがそうだったのように、解放が起こるのは確実に揺るぎないことです。

私は一度、自分の家から二百マイル離れたところに急いで来てほしいという電報を受け取ったことがあります。その場所に行くと、悲しみに打ちひしがれている両親がいました。両親に案内されて二階に行くと、若い女性がいて、五人の人が彼女を床に押さえつけていました。彼女はか弱い女性でしたが、そこにいた若い男性の誰よりも強い力が出ていました。私が部屋に入ると、悪しき力が彼女の目を使ってこちらを見て、彼女の口を使って話しました。「俺たちは大勢いる。お前は俺たちを追い出せない。」私は「イエスさまができる」と言いました。主はどんな状況に対しても力があります。主は祝福する機会を待っておられるのです。主は人々のたましいを解放するあらゆる機会に対して用意ができています。私たちがイエスさまを受け入れる時、このことばが私たちの真理になります。「あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力があるからです。」(第一ヨハネ四・四)主はすべての闇の勢力よりも力があります。人間の力で悪魔に立ち向かうことはできませんが、イエスさまを知る知識に満たされた人、イエスさまの臨在に満たされた人、イエスさまの力に満たされた人は、闇の勢力に打ち勝つ者となるのです。神が私たちを召されたのは、私たちを愛して下さった方によって、私たちが圧倒的な勝利者となるためです。

生けるみことばは悪魔の力を打ち砕くことができます。イエスの御名に力があります。私はその家の通り沿いのすべての窓にイエスの御名を大きく書いてもらいました。イエスの御名が、その御名を信じる信仰を通して、このあわれなたましいの束縛に解放をもたらしました。三十七の悪魔がおのおのの名前を彼女の口で叫びながら出て行きました。この可愛らしい女性は完全に解放されました。それで、彼女は自分の子どもをおんぶすることができました。その晩、その家の中は天国でした。両親も、息子も、息子の妻も、主の無限の恵みのゆえにキリストの栄光をたたえて、みながついに結ばれていました。翌朝、私たちは朝食で恵み深い時間を過ごしました。あらゆることが私たちの素晴らしいイエスさまと共にあって、素晴らしいものとなります。大胆にあなたのいっさいをキリストにゆだねるなら、事は起こり、主は状況全体を変えて下さいます。一瞬で、イエスの御名によって、新しい秩序ある平和がそこに訪れるのです。

世界には多くの病気が日々新たに発見されていて、医者にはそのすべてを突き止めることはできません。ある医者が私に言いました。「医学はまだ幼児のようなものです。私たち医者は本当は医療に自信がありません。いつでも実験をしているのです。」しかし、神の人は実験しません。神の人は、贖いが十全であることを知っているか、さもなくば知るべきです。神の人は、主イエス・キリストの力強さを知っているか、さもなくば知るべきです。神の人は、外見上の観察によっては動かされず、イエスの御名の力強さとイエスの血の力について神からの啓示を受けています、さもなくば受けるべきです。私が主イエス・キリストへの信仰を行使するなら、主は来られてすべての闇の勢力に対して栄光ある勝利をもたらします。

「夕方になると、人々は悪霊につかれた者を大ぜい、みもとに連れて来た。そこで、イエスはみことばをもって霊どもを追い出し、また病気の人々をみないやされた。これは、預言者イザヤを通して言われた事が成就するためであった。『彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私たちの病を背負った。』」（一六、一七節）あなたが信じさえすれば、御業はなされます。それはもうなされました。彼が私たちのわずらいを身に引き受け、私の病を背負われました。カルバリに行かれた神の小羊を見上げさえするならば！ 私たちの肉はキリストと共に十字架につけられ、主はその身に私たちすべての罪とその罪の結果という重荷を背負われました。十字架の上で神は私たちの咎をすべて負わされました。カルバリの十字架の上で、神は罪の結果をも処理されました。「子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。」（ヘブル二・一四～一五）キリストの死が今日でもあなたを解放するのです。

(七) 私たちの復活のキリスト

テキスト 使徒四章

私たちの栄光のイエスさまが復活のキリストであるという事実のゆえに、今日私たちは神をほめたたえます。私たちのうちで自分のなかに住まわれてる御霊の力を味わい知った者は、エマオの途上で復活の主と出会った二人の弟子が心の燃えるのを感じたように、心のなかで何かが燃えていることを知っています。

三一節に注目して下さい。「彼らがこう祈ると、その集まっていた場所が震い動き」とあります。この箇所から、祈りには多様な種類があることが分かります。祈り方も声の上げ方も知らない教会では、その場所が震い動くことは絶対にありません。そういう場所にいたら、「イ・カボデ(栄光がイスラエルから去った)」(第一サムエル四・二一)と玄関の上にも書いても構いません。神が御力を現して下さるのは、祈りと力と賛美の秘密を人が理解した時だけです。ある人は「私は心のなかで神を賛美します」と言います。でも、心のなかに賛美が豊かに溢れていれば、自然と口から賛美の言葉が溢れてくるものです。

ロンドンで大規模なビジネスをしている男性がいました。彼は熱心に教会に通う人でした。その教会は豪華に装飾されていました。彼の座席には素敵なクッションがついていて、礼拝中に深々と座って居眠りするのにつけていました。彼はビジネスでは成功していましたが、心には少しも平安がありませんでした。ところが、彼はある時、いつも幸せそうにしている少年と出会いました。彼は絶えず飛び跳ねたり口笛を吹いたりしていました。ある日そのビジネスマンは少年に言いました。「私のオフィスに来てくれないか。」少年がオフィスに来くと彼は尋ねました。「いったいどうして、君はそんなにいつも口笛を吹いて楽しそうにしていることができるんだね。」少年は「僕はそうせざるを得ないんです」と答えました。「どこでその活力を得ているのかね」と彼は聞きました。「ペンテコステ派の集会からです。」「それはどこにあるのかね。」少年は彼に教えました。彼が次にしたことは、その集会に出席することでした。主はそこで彼を打ち砕かれ、短期間で彼は全く変わりました。そんなことがあって少ししてから、ある日彼は、自分が変化したのを発見しました。以前の彼はビジネスのことでいつも頭がいっぱいでしたが、そうはならずに実際に口笛を吹いたり飛び跳ねたりしていました。

彼の態度も生活もまるっきり変わったのでした。

叫びというものは心のなかにそれがなければ出てこないものです。最初に心の内側に神の力が働いていなければなりません。心を変え、生活を新たにして下さるのは主です。そして目に見える外側の証拠が現れる前には、必ず神のいのちが内側に流れ込んでいなければならないのです。時々私は人々に言います。「昨晚は集会に来ませんでしたね。」彼らは答えます。「はい。霊はそこにいたのですけども。」私は彼らに言います。「ええ。今度はからだも一緒に来てくださいね。霊がたくさん集まってもからだが集まらない集会はしたくありません。あなたにはきちんと来て、神に満たされていただきたいのです。」すべての人々が集まって祈り、賛美する時、初代の弟子たちがそうすると何かが起きたように、素晴らしいことが起こります。集まりに来る人々は心に火を受け、もう一度来たいと願うようになります。ですが、あらゆることが形式張っていて、無味乾燥で、死んでいる場所では、人々は何も受けることができません。

ペンテコステが初めに起きた時、その力は人を束縛から解放するものでした。神は私たちにすべての点で自由になるようにと願われています。誰もが偽物に飽き飽きしています。本物が必要です。彼らは生けるキリストを住まわせている人々、聖霊の力に満たされている人々を見たいと願っているのです。

私はたくさんの手紙や電報を受け取りましたが、ある時には知らせを受けて私が到着すると、もう手遅れだと言われたことがあります。私は「そんなはずはありません。神が私を手遅れのところに送られたことはありません」と言いました。私がそこへ行くと、神は私がこれまでに見たことのないみわざを起こして下さるということを示されました。私が行った場所で出会ったのは知らない人たちばかりでした。紹介されたのは無力に寝かされている若い男性でした。彼には希望がありませんでした。医者がその朝彼を診察して、あと一日のいのちだろうと宣告されたところでした。彼は横になって顔を壁に向けていました。そして私が話しかけると、こうつぶやきました。「もうどうにもならない。」彼の母親はここ何週間も、ベッドのシーツを取り替えるためには彼を抱きかかえなければいけなかったと言いました。彼はあまりにも衰弱していたので、一つの場所から動くことすらできませんでした。

その若者は言いました。「心臓がとても弱っています。」私は彼に保証しました。「神

はとこしえにあなたの心の岩、あなたの分の土地です。あなたが神を信じるなら、今日でもこのみことばの通りになります。」

私たちのキリストはよみがえられました。私たちのなかに住まわれているのは生けるキリストです。私たちはこの真理をただの理論として持っているのはいけません。キリストは御霊の力によって、私たちの内側でよみがえられなければならないのです。キリストを死者の中からよみがえらせた力は、私たちにもいのちを吹き込みます。そして、この栄光ある復活の力があなたの中で満ち満ちたものとなる時、あなたはあらゆる弱さから自由にされ、主にあって、その大能の力によって強められるのです。復活の力が今日あなたのものとなることを神は望んでおられます。いかがでしょうか。今ここであなたの相続分を受け取って下さい。

私はこの人たちに言いました。「私はあなたの息子さんが今日起き上がることを信じています。」彼らは笑うだけでした。かつてイエスさまの弟子たちが見たしるしと不思議が今日でも起こることを、人々は期待していません。神は変わってしまわれたのでしょうか。それとも私たちの信仰が弱くなって、イエスさまが約束された最も偉大なわざが行われることを期待しなくなったのでしょうか。私たちはハープのマイナーキーを弾いているのはいけません。私たちのメッセージはコンサートに合わせて調和した音を奏でなくてははいけません。聖書の中に書かれていることから外れてはいけないのです。

冬でした。私は両親に言いました。「この男の子の着替えをここに持ってきて下さい。」彼らは私の言うことを聞き入れませんでした。この子は死ぬと予期していたからです。でも、私は神を信じることにしました。ローマ四・一七にアブラハムについてこう書いてあります。「(私はあなたをあらゆる国の人々の父としたという約束は、)彼が信じた神、すなわち死者を生かし、無いものを有るもののようにお呼びになる方の御前で、そうなのです。」神はこのことを私たちが理解できるように助けて下さいます。今こそ、人々が信仰によって声を上げる方法を知るべき時です。死者をよみがえらせ、立ち上がらせることを造作もなくされる私たちの神の永遠の力について、じっと考えるべき時です。信仰の叫びを上げないために、神の力に満たされた信仰の巨人になれなかった人に何人か出会ったことがあります。至る所で、祈っていても倒れてしまう人々

を見かけますが、彼らがそうなるのは、ただ単純に声を出さずに息だけで祈りの言葉を語っているからです。それでは勝利を得ることはできません。勝利を得ること、そして悪魔の顔の前で声を上げることを学ばなくてははいけません。「それはなされている！」声を上げることを学んだ人は疑いを持つことがあり得ません。声を上げる適切な方法を知るならば、物事は違ったものとなり、とてつもないことが起こります。二四節にこうあります。「これを聞いた人々はみな、心を一つにして、神に向かい、声を上げて言った。」ここに書かれてある祈りは、声を出す祈りだったに違いありません。私たちは神が私たちにいのちを持たせようとされていることを知る必要があります。この世界でいのちをその中に持っているものがあるとすれば、それは私たちがあずかっているこのペンテコステ派のリバイバルです。私は異言を伴う聖霊のバプテスマを信じています。聖霊のバプテスマを受けた人は誰でも御霊が話させてくださる通りに異言で話すようになると信じています。私は聖霊を信じます。あなたが御霊で満たされるなら、あなたはいのちを豊かに持つようになって、腹の底から生ける水が流れ出るようになります。

やっとのことで両親にこの若い男性の衣服を持ってきてもらうよう説得して、衣服をベッドに置きました。自然の観点からすれば、この人は死につつありました。私は苦しんでいるこの人に言いました。「神が私にこう言われました。私が両手をあなたに置くと、この場所が聖霊で満たされて、ベッドは揺れ動き、あなたも揺れ動いて、聖霊の力によってベッドに寝ていられなくなり、あなたは自分で着替えて、強くなります。」私は信仰によってこのことを彼に言いました。私はイエスの御名によって彼に手を置きました。すると瞬間的に神の力が下って、その場所が聖霊で満たされました。私は立っていられなくなり、床に倒れました。少し経ってからその場所がぐらぐらと揺れましたが、それ以外のことは私は知りません。私の近くでその若者の歩く音がして、こう言っているのが聞こえました。「栄光あれ、主に！ 栄光あれ、主に！」

彼は自分で着替えて叫びました。「神が私をいやされた！」父親も床に倒れ、母親も床に倒れ、その場にいた他の人も床に倒れました。神はその日、この一家全体を救い、この若者をいやすために、御力を現されました。私たちに必要なのはキリストのよみがえりの力です。この若者は今日、福音を宣教しています。

何年もの間、私たちは神が御力を現して下さるのを切望してきました。そして、神をほめたたえます。主は御力を現して下さっています。聖霊の流れはどこでも現れます。それほど昔のことではありませんが、私がスイスにいた時のことです。ペンテコステ派のメッセージがまだ伝えられていない場所で私は福音を宣べ伝えました。今日では九つのペンテコステ派の教会が立って、神の祝福を受けて存続しています。世界中で同じことが起きています。このペンテコステ派の大躍進は活発です。飢え渴いた心に神が御霊を注がれない場所は今やほとんどありません。神はすべての肉なる者に主の御霊を注がれると約束されました。そして神の約束は反故にされることがありません。私たちのキリストはよみがえられました。主の救いは町の片隅でなされたことではありません。まことに主は私たちのためにカルバリに行かれた栄光の方でした。それは、主が私たちを恥ずべき隠されたことから自由にして下さるため、主が恵みによって私たちを変えて下さるため、そして私たちをサタンの圧制から救い出して神の栄光に満ちた力へと移して下さるためなのです。私たちの復活のキリストにひとたび触れていただければ、死人がよみがえるのです。ハレルヤ！

ああ、この私たちの素晴らしいイエスさま！ 主は来られて、私たちの内に住まわれました。私たちに聖霊のバプテスマを授けて、あらゆることを変えて下さったのは、イエスさまです。私たちは神にささげられる一種の初穂となり、キリストの御跡を歩み、その御力に生きることによって、正真正銘の初穂であるキリストに似た者とされていくのです。他のすべてのものは無益となり、役に立たなくなり、崩れ去っていくに違いないと私は感じています。私たち自身を優れた者とする考えは、キリストを栄えさせるために、衰えていかなければなりません。そうして、私たちは御霊の力の下にissippiのものを従わせる新しい状態で生きようになります。

あなたは大胆に神からの相続分を受け取りますか。大胆に神を信じますか。大胆に神のことばに書かれていることに立ちますか。何が書かれているのでしょうか。もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とあります。あなたは麦としてふるいかけられます。あなたは何か思いがけないことが起こるようにして試されます。あなたは神に自分のすべてをゆだねて信頼しなくては乗り切れない場所に行くことになります。神が許可されたことを超えて試みを受けるということはありません。試みが来る時にはいつでも、神が試みの中であなたと共にいて、あなたを解放しようとしておられ

ます。そして試みを通過すると、神はあなたを金のように取り出されます。すべての試みは、あなたが神にあって、もっとすぐれた位置に至るためのものです。信仰をためす試みはあなたを導いて、ついに次の試みで神の信仰が立ち現れるようになると知るでしょう。人は、その人のうちにあるキリストのよみがえりの力なくしては、勝利を獲得できません。「私がこれやあれをした」と言えません。何事においても神に栄光を返すことを願うようになります。

自分の立っている土台をあなたが確信していれば、また、あなたが自分のうちに生けるキリストがおられることを頼みにしていれば、事態が悪化しているように見えても笑っていることができます。神はあなたをキリストにある土台にしっかりと据えられます。そして聖霊に満たされる時に初めて、あなたはキリストにあって堅く立って動かされることがなくなるのです。

主イエス・キリストは言われました。「私には受けるバプテスマがあります。それが成し遂げられるためには、どんなに苦しむことでしょう。」(ルカー二・五〇)主は確かにその道で苦しみました。ゲッセマネで。裁判の場で。それから十字架上で。十字架上で主は、とこしえの御霊によって、傷のないご自身を神におささげになりました。神は私たちを同じように導かれます。聖霊がその道を一步一步導かれます。神はイエスさまを、空の墓、昇天、栄光、天の御座へと導かれました。そして、私たちもその栄光を共にし、その御座を共にするまでは、神の子である方は決して満足されないのです。

(八) 義

私たちのあがむべき主について、こう書かれています「あなたは義を愛し、不正を憎まれます。それゆえ、神よ。あなたの神は、あふれるばかりの喜びの油を、あなたとともに立つ者にまして、あなたに注ぎなさいました。」(ヘブル一・九) 神の御子の御霊を住まわせている私たちが、御子と同じように義を愛し、不正を憎むようになることが、神の目的です。私たちがもはや罪に定められることがなく、天国が私たちにいつも開かれているような場所がキリスト・イエスの中にあることが私にはわかります。神が私たちに差し出されている神のいのちの領域があります。そこにおいて、果てしない未来への進歩があり、無限の力があり、計り知れない源があり、悪魔のあらゆる力に対しての勝利があります。私たちが神の栄光だけを求めて、この完全に聖であるいのちに行き着く望みに満たされているなら、私たちの真実の歩みを妨げるものは何もないと私は信じています。

ペテロは第二の手紙を次のようなことばで始めています。「イエス・キリストのしもべであり使徒であるシモン・ペテロから、私たちの神であり救い主であるイエス・キリストの義によって私たちと同じ尊い信仰を受けた方々へ。」私たちが私たちのよみがえりの主と一心同体とされているという祝福と光栄にあずかっていることを認識するのは、信仰を通してなのです。イエスさまは地上におられた時に私たちにこう言われました。「わたしが父におり、父がわたしにおられる。」「わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。」(ヨハネ一四・一〇)そしてイエスさまは、ご自分の弟子たちのためだけでなく、彼らのことばによって主を信じる人々のためにも、父に祈られました。「それは、父よ、あなたがわたしにおられ、わたしがあなたにいらっしゃる、彼らがみな一つとなるためです。また、彼らもわたしたちにおるようになるためです。そのことによって、あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるためなのです。」(ヨハネ一七・二一) ああ、何という相続分が私たちのものとなっているのでしょうか。御父と御子が持つておられるまさにその性質、その義、その力が私たちの中でありありと形造られる時に、その素晴らしさに驚嘆します。それが神の目的です。そして私たちが信仰によってその目的をしっかりとつかむなら、私たちのうちにおられる方がこの世のうちにいるあの者よりも力があるという事実を、絶えず味わい知ることになるのです。すべての聖句の目的は私たちを導いて、この素晴らしい祝福された信仰の

背丈にまで成長させることです。そこにおいて、絶え間なく神のいのちと力が私たちを通して現されることを経験するようになります。

ペテロは、同じ尊い信仰を受けた人々に向けて、続けてこう書いています。「神と私たちの主イエスを知ることによって、恵みと平安が、あなたがたの上ますます豊かにされますように。」私たちは信仰の領域に生きている時に限り、この恵みをますます豊かにされるようになります。アブラハムは他の何よりも神を信じたという点で、神の友とされるところにまで達したのです。アブラハムは神を信じました。それで神は彼を義とみなしました。彼が義と認められた根拠は、彼は神を信じたこと以外には何もありません。このことは他の人にとっても真実でしょうか。その通りです。信仰によって救われる全世界のあらゆる人が、信仰の父アブラハムと共に祝福にあずかるのです。彼が神を信じたことで与えられた約束は、地上ですべての家族が神にあって祝福されるというものです。私たちが神を信じる時、私たちの信仰により与えられる祝福は絶えることを知りません。

ある人々は自分たちのために祈ってもらっても、彼らが期待していることが一晩で現れてこないで、諦めてしまいます。彼らは信じていると口では言いますが、実際には不信仰による動揺の中にいることが見て取れます。アブラハムは神を信じました。彼がサラにこう言うのが聞こえそうです。「サラよ。あなたの中のいのちは止まっている。私にも無い。けれども神が私たちに男の子を約束されたのだ。私は神を信じる。」そして、こういう信仰を天の父は喜ばれるのです。

ある日、私がイングランドのランカシャー州の町ビュアリで集会を持っていた時のことです。甲状腺腫瘍のいやしのために来ていた、ラムズボトムという町出身の若い女性がいました。彼女は集会に行く前に、こう言いました。「お母さん。私はこの甲状腺腫瘍をいやすために行ってきます。」集会が終わってから彼女は前に出て祈ってもらいました。翌朝彼女は起きると、自分がいやされた素晴らしい証しを話しました。それからこう言いました。「私がいやされた素晴らしい体験を母に話しに行けるのがとても嬉しいです。」彼女は家に帰って、彼女がどんなに素晴らしいいやしをいただいたかを証しました。翌年、私たちがまた集会を開くと、彼女は再び来てくれました。自然の観点では、その甲状腺腫瘍は以前と大きさが変わっていないようでした。けれども、こ

の若い女性は神を信じていました。彼女はすぐに自分から進み出て証しをしました。「私は去年ここで主に素晴らしいやしをいただきました。私は皆さんに、去年が私の人生で最高の年だったことをお伝えしたいと思います。」彼女はその集会で大いに祝福されたようでした。そして家に帰って、以前よりも力強く、主が彼女をいやしてくださったことを証しました。彼女は神を信じていました。三年目になって彼女はまた集会に参加しました。彼女を見たある人々は言いました。「腫瘍がなんと大きくなったんでしょう！」でも証しの時間になると、彼女は自分から進み出て証しをしました。「二年前、主が恵みをもって私を甲状腺腫からいやしてくださいました。ああ、私はこの上なく素晴らしいやしをいただきました。神の力でいやされるのは最高のことです。」その日、ある人が彼女に忠告しました。「あなたに何か問題があるとみんな考えますよ。鏡を見てご覧なさい。腫瘍が去年よりも大きくなっているのが分かりますよ。」この良い女性はそのことについて主のもとへ行行って言いました。「主よ。あなたは二年前に私をいやして下さった素晴らしい方です。あなたが私をいやされたことをすべての人々に示していただけますか。」彼女はその夜、神をなおも信じて平安のうちに眠りました。翌日彼女が起きてみると、腫瘍が跡形もなく消えていました。

神のことはとこしえからとこしえまで絶えません。神のことは損なわれません。神のことは真実です。私たちがそれが真実だという事実により頼む時に、何と力強い結果を得ることができるでしょうか。信仰は鏡を見ません。信仰は起こりうることを見るための鏡を持っています。その鏡は完全な自由の律法という鏡です。「完全な律法、すなわち自由の律法を一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れる聞き手にはならないで、事を実行する人になります。こういう人は、その行いによって祝福されます。」(ヤコブ一・二五)神の完全なこの律法を見つめる人にとって、すべての闇は除かれて、その人はキリストにある自らの完全さを見るようになります。信仰には闇がありません。闇は自然の中にだけあります。闇が存在するのは、自然の人が神の人の場所を占める時だけです。

神とイエス・キリストを知る知識によって、恵みが私たちに増し加わるだけでなく、平安もまた増し加わります。私たちの神と、神の遣わされたイエス・キリストを本当に知ることによって、ネブカデネザルの一万倍の炎の中にあっても、私たちには平安が増し加えられます。たとえ獅子の穴に投げ込まれても、私たちには平安が増し加えら

れ、獅子の穴のただ中で喜びを持って生きることができます。ダニエルが獅子の穴に投げ込まれた日の晩、ダニエルと王の違いは何だったのでしょうか。ダニエルは知っていました。しかし王は実験していました。翌朝、王が穴に近づいて呼びかけました。「生ける神のしもべダニエル。あなたがいつも仕えている神は、あなたを獅子から救うことができたか。」ダニエルは答えました。「私の神は御使いを送り、獅子の口をふさいでくださったので、獅子は私に何の害も加えませんでした。」ことはすでに成っていました。ダニエルが天に開いた窓に向かって祈った時に、もう成っていました。私たちのあらゆる勝利は、私たちが戦いに行く前にすでに勝ち取られています。祈りが私たちを、私たちの麗しい神に、私たちの豊かな神に、私たちの増し加えて下さる神につながってくれるのです。ああ、私は神を愛しています！ 神は素晴らしい方です！

ペテロの第二の手紙の、一章の最初の二節を読むと、この恵みと平安が増し加えられるのは、神を知ることによってだと気づきます。でも、最初に私たちが信仰を受けるのは神の義によるのだということも分かります。義が最初に来て、次に知ることが来るということに注意して下さい。逆ではありません。聖くされること無しに神からの啓示を期待しても、得られるのは混ぜ物だけです。聖さが、神のすべての宝物庫の扉を開けます。神は私たちにこの良い物に満ちた宝物庫を開ける前に、私たちが主と同じように義を愛し不正を憎むところにまで、最初に私たちを導かなくてははいけません。私たちが心の中に不法を見いだすなら、主は私たちを聞かれません。私たちが御子のうちにある聖と義のいのちに入ることができるのは、神の御子の尊い血によって私たちが義とされ、純粋な者とされ、聖とされる時だけなのです。私たちの中に私たちの主の義がありありと形造られるなら、私たちの信仰は主の中にとどまることができます。

私が聖霊のバプテスマを受けた後、主は私に啓示をもって祝福してくださいました。アダムとエバが不従順のために園から追い出されて、ケルビムと炎の剣がいのちの木への道をふさぐのを私は見ました。聖霊のバプテスマを受けた時に、私はこのいのちの木から私が食べ始めるのを見ました。炎の剣は輪を描いて回っていました。炎の剣は悪魔を侵入させないためにそこにありました。ああ、私たちが神から生まれる時に、何という特権が私たちのものになることでしょうか。何と驚くべき方法で、神は私たちに汚れた者が触れないように守られることでしょうか。私は神の中に、サタンが

踏み込んでこない場所を見出しています。神のうちに隠されています。そして、私たちのいのちがキリストと共に神のうちに隠されるこの素晴らしい場所に、私たち皆が来て分かち合うようにと、神は私たちを招いておられます。いと高き方の隠れ場に住む者は全能者の陰に宿る(詩篇九一・一)、と書かれているその場所です。この恵みと祝福に満ちた場所を神はあなたのために用意しておられます。

ペテロは続けて書きます。「というのは、私たちをご自身の栄光と徳とによってお召しになった方を私たちが知ったことによって、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えるからです。」(第二ペテロ一・三)神は、この栄光と徳の領域に私たちを召されました。それによって、私たちは尊い素晴らしい約束に養われて、神のご性質にあずかる者となります。信仰は、私たちが生きているまさに今ここで、望んでいる事柄を保証するものです。神が私たちを神のご性質にあずかる者として下さると、まさに今ここで約束されています。私たちの存在の隅々にまで流れ込んでいるのは、主のいのちそのものなのです。それは、私たちのこのからだが生きたものとなるため、細胞の一つ一つが、血の一滴一滴が、私たちの骨と関節と骨髄が、この神のいのちを受け取るためなのです。主が神のいのちを流し込みたいと願われているのは、まさに私たちの自然のからだの中にであると私は信じています。キリスト・イエスにあるいのちの御霊の原理が、罪と死の原理から私たちを解放しました。私たちがこの神のいのち、この神の御子と同じ神のご性質をしっかりとつかむために、神は私たちの信仰を建て上げようとされています。それはまた、主イエス・キリストの来臨のときに、私たちの霊、たましい、からだが全く聖なるものとされ、完全に守られるためです。

血の問題を抱えていたあの女がいやされた時、イエスさまは力をご自分から出て行くのを感じました。この女性は信仰を強く握っていたので、御力が流れ込むとすぐに女性のからだはいのちでいっぱいになり満たされ、彼女の弱さは去りました。この御力が与えられると、あなたの必要なものはすべて満たされます。でも御力は、私たちの信仰がそれを受けるために動き出すまでは、流れません。信仰とは勝利です。もし信じるなら、それはあなたのものです。

私は長年、痔に苦しんでいました。私のからだは虚弱体質だった頃です。血がいつ

も大量に出ていました。ある日私はもう我慢ならなくなって、オリーブ油の瓶をとって自分に油を注ぎました。私は主に言いました。「今すぐに、あなたがしたいと思われていることをして下さい。」まさにその瞬間にいやされました。神を信じる信仰を行動で表すことを神は願われています。信仰のようなものや、信仰に見えるものはありませんが、神を信じる本物の信仰こそが目的に至らせます。

ザカリヤとマリヤの違いは何でしょうか。御使いがザカリヤのところに来て言いました。「あなたの妻エリサベツは男の子を産みます。」ザカリヤは聖なる場所にいましたが、このメッセージを疑い始めました。「私ももう年寄りですし、妻ももう年をとっております。」ガブリエルは彼の不信仰を叱って、こう言いました。「これらのことが起こる日までは、あなたは、ものが言えず、話せなくなります。私のことばを信じなかったからです。」ですが、マリヤに御使いが現れた時と比べてみて下さい。マリヤは言いました。「ほんとうに、私は主のはしためです。どうぞ、あなたのおことばどおりこの身になりますように。」そしてエリサベツはマリアにこう言ってあいさつをしました。「主によって語られたことは必ず実現すると信じきった人は、何と幸いなことでしょう。」神は同じような方法で私たちを神のことばをしっかりとつかむように導かれます。「主よ、あなたはこれを約束されました。今それをなさして下さい。」と大胆な信仰をもって宣言するようと、神は私たちを導かれるのです。神ご自身がみことばを守られるという信仰を私たちが発揮する時に、神は喜ばれます。私たちはそういう者になれるのでしょうか。

主は私たちをこの栄光と徳へとお召しになりました。そして、私たちの信仰が主をしっかりとつかんでいるなら、私たちはこの栄光と徳の現れを見ることになります。ある日、野外で集会をした時のことを思い出します。私の叔父が集会に来て言いました。「マリー叔母さんが死ぬ前にスミスに会いたがっているよ。」私は叔母に会いに行きました。叔母は確かに死にそうでした。私は言いました。「主よ、あなたは何かおできになりますか。」私は手を伸ばして叔母の上に置きました。私がしたことはこれだけです。主の栄光と徳とがすぐに流れ込んだような感じがしました。マリー叔母さんは声を上げました。「御力がからだ中を巡っているわ!」その日に叔母は完全に良くなりました。

ある日、私が宣べ伝えていると、男性が包帯で巻かれた少年を連れて来ました。少

年は鉄製の矯正器をはめていたので、歩けませんでした。人々が少年を講壇まで運ぶことも困難でした。彼らは六つほど座席をつなげて、その上で少年を引きずって来ました。私が両手を少年の上に置くと、主のいやしの力が現れてその子の中に入っていました。その子どもは声を上げました。「お父さん、力がからだ中を巡っています！」彼らが少年の矯正器具と包帯を外すと、もうからだに何も悪いところはありませんでした。

主は私たちを、神のことばの書かれた歩く手紙となるようにして下さいます。イエスさまはみことばです。私たちのうちにおられる力です。そして、私たちのなかで、また私たちを通して働かれることが、主の願いであり、主ご自身の大きな喜びです。主が私たちの内側におられることを信じなくてははいけません。私たちが神にあって行動し、イエスの御名によって病人に手を置きながら、私たちの生けるキリストの素晴らしい力が現れると信じるなら、私たちには限りない未来の進歩があるのです。

みことばによる尊い素晴らしい約束は、私たちが神のご性質にあずかる者となるために私たちに与えられました。私たちがこれらのことを知っても、神のためにさらに大きなわざをしないので、聖霊が私たちのことで悲しんでおられると私は感じます。聖霊は私たちに扉を大きく開けて機会を差し出しておられません。神が私たちをさらにすぐれたことに導いて下さらないでしょうか。神が私たちをさらにすぐれた神の力の現れへと導かれることを信じませんか。私たちへの召しは、後ろもものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走ることなのです。

(九) このいのちのことば

テキスト使徒五・一～二〇

主が福音のメッセージのことを「このいのちのことば」(五・二〇)と表現されたことに注意して下さい。それは、存在し得るものの中で最も素晴らしいいのちです。神の御子の中にある信仰のいのちです。神がいかなる時でもそのいのちと共にいて下さいます。神が近くにおられるだけでなく、内側に住んで下さいます。そのいのちは、多くの啓示により明かされたものであり、そのいのちによって、幾度も神の聖霊の現れを見ることができます。そのいのちにあって、主をいつも見て、知って、感じて、聞くことができます。「死からいのちに移っている」(ヨハネ五・二四)とあるので、それは死の無いいのちです。神のいのちそのものが私たちの内側に来ました。このいのちが満ち満ちているところには、病気が存在することはできません。この素晴らしいいのちの中に何があるのかを悟るのに、私は一ヶ月を要しました。誰もがこのいのちの中に入ることができ、このいのちを持つことができ、このいのちに所有されることができます。

あなたがこのいのちの近くにまで来ても、それを受け損なうことはあり得ます。たとえばあなたが、神が御霊を注いで下さるところにまで来ても、神が喜んで与えようとしておられる祝福を受け損なうことはあり得ます。そうなってしまう原因はすべて、啓示の不足、神の無限の恵みに対する誤解、そして「あらゆる恵みに満ちた神」(第一ペテロ五・一〇)に対する誤解によります。神は信仰の手を伸ばす者すべてに喜んで与えて下さる方です。神が無対価で与えられるこのいのちは、神からの賜物です。ある人はそれを努力によって手に入れようとするので、全体を失ってしまいます。ああ、必要なのは神が惜しみなく与えようとされるあらゆるものを、単純に受け取ろうとする信仰だけです。上から来るこのいのちを受け取るなら、その日からあなたの人生は平凡でつまらないものではなくなります。私たちの非凡な神による非凡な力に満たされて、あなたは非凡な人となるのです。

アナニヤとサツピラはこのことの中にいながら、いのちを受け取り損なった人たちです。彼らはひょっとしたら物事がうまくいなくなるかもしれないと考えました。それで彼らはうまくいなくなる事態に備えて、自分たちのために予備の財産を取っておこうとしました。神が初期の教会に与えられた素晴らしいリバイバルの中にあっても、

彼らはいのちを受け取り損ねました。この二人と似たような人々は今日でも大勢います。彼らは人生の重大な危機に直面して神に誓いを立てます。ところがその誓いを守ることができずに、霊的に破産してしまうのです。祝福される人は、苦難にあっても立てた誓いを曲げないで、神に立てた誓いを守り通す人です。そして、その人のすべてを喜んで神の足元に捧げて置く人です。このようにする人のたましいはくじけることはありません。「あなたの骨を強くする」(イザヤ五八・一一)と神は約束されました。そのような人にとって、水の枯れた地はありません。いつもみずみずしく、おい茂っていて、ますます力強く栄えます。そのためには、自分のすべてをもって神に信頼する必要があります。予備のものを残しておいてはいけません。

私たちにどれほど偉大な神がおられるのかを分かっていたことが私の願いです。アナニヤとサツピラは現に神を疑っていました。彼らは主が始められた御業が本当にうまくいくのだろうかとの疑問に思っていました。彼らは自分たちの持ち物を売り払って、栄光を分けていただくつもりでしたが、信仰が欠けていたために、神の御業が失敗した場合に備えて彼らは代金の一部を予備に取っておきました。

多くの人はこのペンテコステ運動のリバイバルがうまくいくのだろうかを疑っています。このペンテコステ運動の働きが止まってしまうとあなたは思いますか。決してそんなことはありません。この十五年間、私は常にリバイバルの中にいました。そしてこの流れが止まことはないと確信しています。ジョージ・スティーブンソンが蒸気機関車のエンジンを発明した時、彼は妹のメアリーにそれを見せました。メアリーはエンジンを一瞥して言いました。「ジョージ。こんなものが動くはずないわ。」彼は言いました。「乗ってみてよ。メアリー。」彼女はもう一度言いました。「動くはずないわ。」彼は言いました。「動くよ。乗ってみて。」メアリーはついに乗り込みました。汽笛が鳴り、ポツと煙を上げて、ガタガタ音を立てながらエンジンが動き始めました。するとメアリーは叫びました。「ジョージ、これは絶対に止まらないわ! 絶対に止まらないわ!」

人々はこのペンテコステ運動のリバイバルを見て、非常に批判的にこう言います。「動くはずがない。」でも彼らがこの働きの中に誘われて入ると、一人残らずこう言います。「これは絶対に止まらない!」この神のリバイバルは嵐のように吹きまくり、このいのちと愛と靈感と力の流れはとどまることを知りません。(異言の解き明かし:これ

をもたらしたのは生けるみことばである。小羊はそのただ中におられ、昨日も、今日も、いつまでも同じである。)

神はあらゆる人のために無制限の供給源をお与えになりました。疑わないで下さい。信仰の耳をもって聞いて下さい。神が真ん中におられます。今日あなたが見聞きすることを現されたのは神であるということを理解して下さい。

聖霊の力に導かれていた初期の教会では、嘘が存在することができなかったということを知っていただきたいと思います。嘘が教会に入り込んだ瞬間に、すぐに死んでしまいました。後の雨の時になって聖霊の力がますます強くなると、私たちの中に偽りの霊を残しておける人は誰もいなくなるでしょう。神は教会をきよめられます。神のこゝとばがいやしや他の御霊の現れの中でそのような力を持つと、初期の教会と同じものを見る人々の上に非常な恐れが生じることでしょう。

いざという時のために少しの財産を残しておくのは、アナニヤとサツピラにとって自然な考えで、些細なことのように思われました。しかし、生ける信仰に立つことによってのみ、あなたは神に喜ばれることができ、神から何かをいただくことができるということをお伝えしたいと思います。神には失敗がありません。神には失敗があり得ないのです。

私がノルウェーのベルゲンにいた時のことです。病院で看護師として働いていた若い女性が集会に来ました。大きな癌が鼻にありました。鼻が大きく膨らんで充血していました。彼女は祈ってもらいに来ました。私は「あなたはどんな状態ですか」と聞きました。彼女は「鼻に触る勇気がありません。とても痛いのです」と言いました。私はそこにいた人々全員に言いました。「皆さんに、この鼻と、この恐ろしい状態を見ておいていただきたいのです。私たちの神は恵み深く、忠実ですから、悪魔がもたらしたこの状態を解消されることでしょう。私はこれから、すべてにまさって力強いイエスの御名でこの病気を叱ります。痛みはなくなるでしょう。神がご自分の恵みを私たちに見せて下さることを私は信じています。私はこの若い女性に明日の夜の集会に来て、神が彼女のためになさった御業を証言してもらうようお願いするつもりです。」

ああ、罪の恐ろしさ！ ああ、罪の力の恐ろしさ！ ああ、墮落の結果の恐ろしさよ！

私は癌を見るといつもそれが悪霊から来るものだと分かりました。それが別のものから来ると信じることなど、私にはできません。腫瘍についても同じです。こういうことが神の御業であり得るでしょうか。これが悪魔のわざであり、それを追い出す方法があるということをあなたに示すために、神は私を助けて下さいます。

私は人々を罪に定めようというのではありません。私は人々を責めません。罪の背後に何があるかを私は知っています。悪魔が吠えたける獅子のようにいつも歩き回って、食い尽くすべきものを探し求めていることを、私は知っています。主イエス・キリストの寛容と愛とを私はいつも覚えています。姦淫の場で捕らえられた女を、人々が主のもとに連れて来て、「先生。この女は姦淫の場でつかまえられたのです」と主に言った時、主はただ身をかがめて地面に書いておられました。それから主は静かに言われました。「あなたがたのうちで罪のない者が、最初に彼女に石を投げなさい。」罪のない者は一人もいません。「すべての人が罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」(ローマ三・二三)とあります。しかし、私はこの祝福に満ちた福音のメッセージの中に、神が私たちすべての罪をイエスさまの身に負わされたことを読むことができます。ですから、私は悪い状態を見ると、私自身の使命に立って、その状況を叱らなくてはならないとを感じるのです。

私はこの痛々しい鼻に両手を置いて、彼女にひどい痛みを引き起こしている悪しき力を叱りつけました。次の夜、集会の場所は人々がぎゅうぎゅう詰めになるほどいっぱいになりました。その家の中にはこれ以上、一人も余計に入れないほどでした。神の雨がどれほど私たちの上に注がれたことでしょうか。神は何と良い方なのでしょう。あまりにも恵みに満ち、あまりにも愛に満ちておられます。聴衆の中にその看護師がいました。彼女を呼んで前に来てもらいました。彼女は全員に神がして下さったことを話しました。神は完全に彼女をいやされました。ああ、主はまさしく同じイエスさまだということをお伝えします。今日でも主は同じ方です。あなたが大胆に神に信頼するなら、どんなことでもできるのです。

初期の教会で神の力が勢いをもって現れ、アナニヤとサツピラが息絶えると、教会全体に非常な恐れが生じました。そして、私たちが神の臨在の中にいる時、神が私たちのただ中で勢いをもって働かれている時には、非常な恐れ、崇敬の念、いのちの聖

め、神の喜ばれないことはしまいとする純粋さが生じるようになります。使徒の働きを読むと、他の人々はひとりもこの交わりに加わろうとしませんでした、ただ神が救われるべき者を教会に加えてくださったことが分かります。私たちのペンテコステ派の教会でも、町全体の人々が来るようにするよりは、むしろ神が加えて下さる人を受け入れるようにしたいと思います。神は毎日、主ご自身の教会に加えて下さいます。

次に起きたことはこうでした。人々は神が働かれていることを確信するようになって、どんなことでも可能だと知るようになりました。そして人々は病人を大通りへ運び出し、寝台や寝床の上に寝かせ、ペテロが通りかかる時には、せめてその影でも、誰かにかかるようにするほどになりました。大勢の人が、病人や、汚れた霊に苦しめられている人などを使徒のもとに連れて来ましたが、その全部を神はいやされました。私はペテロの影がいやしたのだとは信じていません。そうではなく、神の力が勢いをもって現れ、人々の信仰が呼び覚まされ、皆が一つ心になって神を信じたからだとは私は信じています。神は信仰を持つ人々といつも会って下さいます。

神の潮流は地上のあらゆるところで隆起しています。ノルウェーのスタヴァンゲルで私が宣べ伝えていた時のことです。私はとても疲れていて、数時間の休憩を欲していました。次の約束があって、朝の九時半頃に到着しました。最初の集会在夜にあることになっていました。私は通訳者に言いました。「食事をしたら、フィヨルドを見に行こう。」私たちは三時間か四時間、海のそばで過ごし、四時半頃に戻りました。私たちは町の外れに狭い入口があるのを見つけました。自動車や荷馬車がたくさん停めてあって、そこにはあらゆる種類の怪我人や病人が乗っていました。その家に行くと、家は病人でいっぱいだと言われました。それを見て、使徒の働きの五章に書かれている光景を思い出しました。私がその通りにいた人たちのために祈り始めると、神はいやし始められたのです。その家にいた人々を主がいやされたことは、何と素晴らしいことでしょうか。私たちが昼食をとるために座していると電話が鳴りました。向こう側で誰かが話しています。「どうしたらいいんでしょうか。町のホールはもう満員です。警察も制御できません。」

その小さなノルウェーの町に人々は来ていました。神の息はすべての人の欠けた部分に吹き付けられ、川のように溢れ出ます。誰もが新しい油注ぎを、新鮮な血のきよ

めを必要としています。あなたがそれを頼みにすれば、神の息が私たちの上にあるようになります。

アイルランドで集会を持った時のことです。大勢の病人が集会に運ばれて来て、無力な人々がそこで力を得ました。その集会には聖霊のバプテスマを求めている人々がたくさんいました。何年もそれを求めてきた人も少なくありませんでした。強い罪悪感の下にある罪人たちも来ていました。**神の息がその集会を吹き抜けた瞬間がありました。**十分ほどでそこにいたすべての罪人が救われました。聖霊を求めていた人は皆バプテスマを受けました。病人も皆いやされました。神は現実におられます。神の力は衰えません。私たちの信仰が手を伸ばすなら、神は私たちに会って下さり、同じ雨が降るのです。きよめをする同じ血が、同じ力が、同じ聖霊が、同じイエスさまが、聖霊の力を通して現実に現れて下さるのです！ 私たちが神を信じるならどんなことが起こるのでしょうか。

今この時にも、主イエス・キリストの尊い血は効力を持ち、あなたの心をきよめ、この素晴らしい神のいのちをあなたの内側にもたらすことができます。あなたが大胆に信じるなら、その血があなたをあらゆる点で完全にします。聖書の至る所に神からの嘆願が見られます。その恵み、その力、その強さ、その義、そしてイエス・キリストの十全な贖いに、あなたが来て、参与し、受け取ってほしいという嘆願です。私たちが信じる時に、神はそれを聞き逃すような方ではありません。

私がいたある場所で、二年間寝たきりになって、回復の見込みのない、足のなえた男性が連れて来られました。その集会まで三十マイルを運ばれて、彼は松葉杖をついて祈ってもらいに来ました。彼の息子もひざを悪くしていて、二人合わせて四本の松葉杖をついていました。その男性の表情は苦渋に満ちていました。主にはいやしの力があります。私たちが信じるなら、主はいやさないでおくということは決してありません。イエスの御名によって、その力溢れる御名によって、その病気に冒された足に手を置きました。その男性は松葉杖を投げ捨てました。彼が支えなしで歩き回るのを見て、そこにいた人たちは皆ひどく驚きました。小さな息子が父に呼びかけました。「パパ、僕も！ パパ、僕も！ 僕も！ 僕も！」ひざのなえた男の子も触れてもらいたがりました。そして同じイエスさまがそこにおられ、この小さな捕らわれ人を本当に解放して下

さいました。男の子も完全にいやされました。

触れられたのは足でした。もし神がその大能の力をもって御手を伸ばし、なえた足の束縛を解かれるのなら、神が御手を伸ばして、永遠に存在するあなたのたましいに触れられることは何と素晴らしい恵みでしょうか。主が言われることを聞いて下さい。「わたしの上に主の御霊がおられる。主が、貧しい人々に福音を伝えるようにと、わたしに油をそそがれたのだから。主はわたしを遣わされた。捕らわれ人には赦免を、盲人には目の開かれることを告げるために。しいたげられている人々を自由に」(ルカ四・一八)するとあります。主は招いておられます。「すべて、疲れた人、重荷を負っている人は、わたしのところに来なさい。わたしがあなたがたを休ませてあげます。」(マタイ一・二八)神はその大きな恵みによって、大能のいのちの力をもって、喜んであなたの手足に触れて下さいます。そして、もし神がこのことを喜んで下さるのなら、神があなたのことをサタンの力から解放し、あなたを王の子どもとすることをどれだけ切望しておられることでしょうか。あなたのからだの疾患がいやされることよりも、あなたのたましいの病がいやされることのほうが、どれほど必要なことでしょうか。そして、神は両方の回復を喜んで与えて下さいます。

私がロンドンの町を通りかかった時のことです。ペンテコスタル・ミッショナリー・ユニオンの秘書をしているマンデル氏は私がそこにいることを知りました。彼は私とある場所で午後三時半に会うように手配しました。私はソールズベリーの町に故郷がある、ある少年と会うことになっていました。両親はこの少年を商売の手伝いのためにロンドンに送りました。彼は日曜学校のリーダーをしていましたが、もう辞めて離れてしまっていました。罪は恐ろしいものです。罪の報酬は死です。しかし反対側があります。神の賜物は永遠のいのちです。

この若者は凄まじい苦痛の中にいました。彼は恐ろしい病気にかかっている、誰にも言えずにいました。もう死が目前でした。両親が彼の状態を知った時、言いようもない悲嘆に暮れました。

私たちが家に着くと、マンデル兄弟はひざまずいて祈りましょうと提案しました。私は言いました。「神がそう言っておられません。まだ私たちは祈ることにはなっていません。私は聖句を引用したいと思います。『愚か者は、自分のそむきの罪のため、ま

た、その咎のために苦しんだ。彼らのたましいは、あらゆる食物を忌みきらい、彼らは死の門にまで着いていた。』(詩篇一〇七・一七～一八)」若者は叫んだ。「私は愚か者です!」彼は泣き崩れて、自分がどんなに墮落していたのかを話した。ああ、人が悔い改めて罪を告白しさえすれば、神は御手を伸ばしていやしと救いをなされます。若者が悔い改めた瞬間、膿んだできものは破裂し、神は彼にいのちを吹き込み、力強い解放を与えられました。

神は恵み深く、苦しめることをなさらない方です。どれだけ多くの人が、胸のうちの罪をきよめていただくとしているのでしょうか。あなたがこれをした瞬間に、神は天を開いて下さるということをあなたにお伝えします。いと高き方のもとにあなたが今日来て、身を避けさえするなら、あなたのたましいを救うことも、あなたの病気をいやすことも神にとって容易です。主はあなたを長いいのちで満ちたらせ、主の救いをあなたに見せて下さいます。主の御前には喜びが満ち、主の右には楽しみがとこしえにあります。すべての人のための十全な贖いは、神の御子の尊い血によるのです。

(十) 御霊にあるいのち

テキスト第二コリント三章

ヘブル人への手紙六章でこう教えられています。私たちはキリストについての初步の教えをあとにして、成熟を目ざして進もうではありませんか。死んだ行いからの回心や、きよめの洗いについての教えなどの基礎的なことを再びやり直したりしないようにしましょう、と。古い家を取り壊して、新しい土台を据える建築家はどんな人だと思われませんか。あなたの人生に神の力が現されることをお望みなら、後戻りしないで下さい。あなたが後戻りすることを自分自身に許可すればするほど、神があなたに与えようとしておられるものを受け取り損なうようになることが分かるでしょう。

私たちがひとたび解放された罪と死の原理へと後戻りしてはいけないと、聖霊が私たちに示しておられます。神は私たちを新しい秩序の中に導き入れられました。それは、人間の理解に遥かにまさるキリスト・イエスにある愛と自由のいのちです。多くの人が神の御霊の力によって新しいいのちに入りますが、そのあとでガラテヤ人のように初めはよく走っていても、途中で律法主義に陥って自分の行いで自分を義としようとしします。彼らは御霊にあるいのちから、生まれながらの自然のいのちに後戻りしてしまうのです。神はこのようなことを喜ばれません。というのも、神はビジョンを失った人間のための場所を持っておられないからです。すべきことはただ一つ、悔い改めることです。他のことで補おうとしないで下さい。あなたが何か間違いを犯したら、罪を告白して下さい。そうして神を見上げれば、あなたは信仰をしっかりと据えられた場所へと導かれ、あなたの歩み全体が御霊のうちにありようになるでしょう。

私たちは皆、**救いは主から来る**という明確な確信を持っているべきです。このことは人間的な物事の秩序を超えています。敵があなたを信仰の場所から引きずり降ろすことに成功すれば、あなたは神の計画の外へと引っ張り出されます。人間が罪に落ちていく瞬間に、神のいのちは流れを止めて、その人のいのちは力を失います。けれども、そうなることは神の子どもたちに対する神のみこころではありません。ヨハネの手紙第一の三章を読んで下さい。神の子どもとしての場所に立って下さい。自分は神の子どもであると知る場所に立って下さい。そして、あなたの希望がキリストのうちにあり、そのことによって、あなたのいのちをきよめる影響が現れてくることを覚えて

下さい。聖霊は言われます。「だれでも神から生まれた者は、罪を犯しません。なぜなら、神の種がその人のうちにとどまっているからです。その人は神から生まれたので、罪を犯すことができないのです。」(第一ヨハネ三・九)心に植えつけられたみことばの種はいのちと力を持っています。神はこの箇所、罪を犯すことが「できない」と言われました。神のことばには人間のどんな反対論をも退ける力があります。私たちそれぞれに向けられた神のみこころは、私たちがキリスト・イエスによって、いのちにおいて支配することです。あなたは神のなかにある時に自分がどんなに素晴らしい存在であるか、また、自分自身のなかにある時にはどんなに無力な存在であるかを知らなくてはなりません。

神が天から闇の力を追放された時、神はご自身があらゆる反対勢力よりも力強い方であることを宣言されました。サタンを天から追放した御力と同じものが、神から生まれた者一人ひとりのうちに宿っていることを知っていただきたいと思います。このことを認識さえすれば、あなたはいのちにおいて支配するようになります。悪霊の力が現れるのを見たら、いつもこのように問い詰めて下さい。「イエスさまは肉体をもって来られたのではなかったか。」私は悪しき力が同意するのを一度も見たことがありません。あなたが悪霊に対処することができるということを知るなら、あなたは悪霊を追い出す力を得るようになります。そのことを信じて行動して下さい。「あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいるあの者よりも力があるからです。」(第一ヨハネ四・四)神はあなたを征服者の場所におらせようとして、悪魔に打ち勝つ力を授けられました。

試みはあらゆる人に来ます。試みられるに値しない人は、銃弾や火薬になるに値しない人です。ヨブは言いました。「神は私を調べられる。私は金のように、出て来る。」(ヨブ二三・一〇)試みが来るたびに、主はあなたを剣の柄へと精錬されます。でも、あなたが従順に歩んでいるなら、あなたが打ち負かされることを神は許容されません。というのも、試みのただ中であっても、神はいつでも「脱出の道」をも備えて下さるからです。

異言と解き明かし:「神が来られる。その御力をもって嘘の隠れるところと、あらゆる闇の力を一掃される。そして、キリスト・イエスにおいて常に勝利をもたらされる。主は

ご自分の聖徒を愛され、主の全能の御翼で彼らを覆われる。」

神は私たちが勝利を目にするように助けて下さるでしょうか。私たちが試みに対して準備が整い、試みに勝利を収めることができるまでは、私たちは神の栄光をほめたたえられません。人間は罪が自然の性質に入り込んだという事実から逃れることはできません。しかし、神が私たちの自然の性質を死の場所へと追放して下さいました。それは、神の御霊があらゆる御力と自由にあってその神殿に住まわれるため、そして、悪い世であるこの今の世界にあって、信じる者によってサタンが退位させられるためです。

サタンはいつも神の聖徒たちを悪評に陥れようとして、口汚く彼らを告訴します。けれども、聖霊は罪に定めることをなさいません。御霊はいつでもキリストの血を啓示されます。主はいつでも助けて下さいます。主イエスさまは、聖霊を来たるべき慰め主と呼ばれました。試みと試練との期間にあっても、主は常にあなたを助けようとしてそばに居合わせて下さいます。聖霊はキリストの教会を抱き上げて下さる力です。それでパウロはこう書いています。私たちは「キリストの手紙であり、墨によってではなく、生ける神の御霊によって書かれ、石の板にではなく、人の心の板に書かれたものであることが明らかだからです。」(第二コリント三・三) 聖霊は最初に心のなかを取り扱われます。それも、人間の愛情の深いところに働きかけられます。聖霊は心のなかにキリストの啓示を豊かに与え、そこに純粋さと聖さを植えつけられます。その心の深みから、賛美が絶えず湧いてくるためです。

聖霊は私たちをキリストの手紙として形造られます。その手紙が伝えるのは、私たちの主イエスさまが贖い主であり、神はその啓示を決して破棄されないということを伝えます。そして、ほふられた小羊の完全な贖いのゆえに、すべての人のための救いといやしと解放があることを伝えます。ある人々は、きよめられるのは一度だけだと考えていますが、私たちが光の中を歩んでいるなら、イエス・キリストの血により私たちは絶えずきよめられています。

キリストのいのちこそが私たちのうちにあり、私たちのうちに働いています。それは完全ないのちです。主はこのいのちの力を私たちに見せて下さるでしょうか。「私たちの齢は七十年。」(詩篇九〇・一〇)ですから自然の摂理に従えば、私のいのちは七

十年で終わります。しかし、私は決して終わることのない新しいいのちを生き始めました。「とこしえからとこしえまで、あなたは神です。」(詩篇九〇・二)これが、私が入ったいのちです。このいのちに終わりはありません。私のなかに働く力は、他のどの力よりも強いものです。キリストが、神の力が私のうちに形造られました。どうして私たちが上から着せられる必要があるのか、私には分かります。それは、私のうちにあるいのちが外側にあるものよりも一千倍も大きいからです。そのいのちが膨張する力は途方も無いものがあるに違いありません。このことは自然の観点では理解できないということ、また自然の理性は神の計画を理解し得ないということ、私は痛感していますし、痛感させられました。

「何事かを自分のしたことと考える資格が私たち自身にあるというのではありません。私たちの資格は神からのものです。」(第二コリント三・五)後戻りをするなら、神の計画を逃してしまいます。私たちは古い物事の秩序を離れなくてははいけません。私たちは肉にあるままで自信を持つことはできません。自信からはかけ離れています。私たちは新しい秩序、霊的な秩序を生きています。それは、まったき信仰による新しいいのちです。神から来る資格によって与えられるいのちです。それが、いのちと敬虔に関するすべてのことを私たちに与えます。

あなたはこの場所に入っていながら、なおセブンスデー・アドベンチストの教会員になることはできません。あなたの中には律法を置く場所がありません。(訳注:セブンスデー・アドベンチスト教会では、十戒を現在も守るべきものと解釈する。)あなたはあらゆるものから自由の身とされました。同時に、あなたはパウロのように「御霊に縛られて」、御霊に悲しまれることは何もしないようになります。

パウロはさらにこう書いています。「神は私たちに、新しい契約に仕える者となる資格を下さいました。文字に仕える者ではなく、御霊に仕える者です。文字は殺し、御霊は生かすからです。」(第二コリント三・六)この箇所をただ読むことと、この箇所の啓示を受けてその霊的な力を見ることとは別のことです。どんな人でも文字の中に生きれば、飢え渴いて言葉数が多くなり、霊的な真理についての知識が制限されて、あげつらいばかりにいつまでも時間を費やすことになります。しかし、御霊の領域に触れるなら、すぐさますべての飢え渴きは満たされて、あらゆる批判の霊は出て行きます。御

霊にあるいのちに生きるなら分裂はありません。神の御霊は、そのような柔軟性とそのような愛の中へと導いて下さいます。御霊のうちにある愛は比類ないものです。それは神から来る純粹で聖い愛です。それは御霊によって私たちの心の中に隠されています。それは主に仕え、主をほめたたえる愛です。

私にとって聖霊のバプテスマがこの十五年間どれほど意義を持ってきたか計り知れません。まるで一年が三年にも感じられるような濃密さがありましたから、私は一九〇七年以来、四十五年分も幸福な奉仕をしてきたことになります。それに、常にますます良くなっています。御霊に満たされるのは贅沢なことです。同時に、酒に酔うのではなく、御霊に満たされなさいということばは神からの命令でもあります。ペンテコステ派の人は誰でも、御霊を失って御霊が与えて下さる異言を話さなくなった状態で、ベッドから出るべきではありません。集会のドアを通る時に、異言や詩や賛美なしでいてはいけません。御霊が入って来られると、御霊が私たちを満たされるので、教会の最後尾のメンバーでさえ主に明け渡されるということを私たちは強調します。そして、誰であれ御霊が話させて下さるとおりの異言を伴うことなしに御霊のバプテスマを受けることはありません。さらに、**継続して満たされて**、あなたは朝に昼に夜に異言を語るようになるのです。御霊のうちに生きるなら、あなたが住んでいる家の階段を降りる時に、悪魔があなたの前を逃げて行かざるを得ません。あなたは悪魔に対して圧倒的勝利者となるのです。

御霊に導かれるのでなければ、何事もうまくいかないことを私は知っています。けれども、御霊のなかに生きるなら、あなたはどこに行くのであれ、何をするのであれ、飲食するのであれ、あらゆることを神の栄光のためにするようになります。私たちのメッセージはいつもこうです。「御霊に満たされなさい。」このからだは、あなたのためにある神の場所です。そして天が地から遥か高いように、御霊によるいのちは自然のいのちよりも遥かに高いのです。満たされるために、あなた自身を神に明け渡して下さい。

モーセはイスラエル民族と共に非常な試練を耐えました。彼らはいつも問題を抱えていました。しかしモーセが山に登り、神が十戒を彼に啓示された時、栄光が下りました。彼はその二つの石版をもって山を下りながら、喜びに満ちていました。彼の顔はま

ばゆいばかりの栄光に輝いていました。彼はイスラエルに契約を持ち帰りました。それに従えば、いのちを得るという契約です。

その時、私の主が天から来られたのだと思います。天が目に見えて動かされたのでしょう。文字による律法はモーセがもたらしました。それは栄光あるものでしたが、そのすべての栄光は、さらにまさる栄光の前に消え去りました。その栄光とはイエスさまがいのちの御霊の中で私たちに与えられたものです。シナイ山の栄光はペンテコステの栄光の前にかすみしました。「汝すべからず、汝すべからず」と書かれた石版は消え去りました。というのも、それらは誰にもいのちをもたさず、代わりに主ご自身が新しい契約の中でいのちをもたされ、いのちの御霊によるこの新しい律法を私たちの思いのなかに入れられ、私たちの心のなか書き付けたからです。聖霊が内側に入って来られるなら、主は私たちをそれほどの愛と自由で満たして下さるので、私たちは喜びのあまりこの一節のみことばを叫びます。「消え去った！ 消え去った！」これからは私たちの心に新しい叫びが生まれます。「わが神。私はみこころを行うことを喜びとします。」(詩篇四〇・八) 神は一番目のもの、すなわち石に刻まれた文字による死の務めを廃止されて、二番目のもの、すなわち御霊にあるいのちによる義の務めを力強く立てられました。

こう尋ねるかもしれません。「御霊に満たされた人は戒めを守らなくなるのですか。」神の御霊がここで私たちに言われたことを、私はただ繰り返して言いましょう。石に刻まれた文字による死の務め(そして十戒が石版に書かれていたことはご存知のはずです)は、「消え去った」のです。生ける神の御霊によって書かれた、生けるキリストの手紙となった人は、姦淫、殺人、むさぼりなどをやめてしまいました。神のみこころはその人が喜びに満たされることです。私は神のみこころを行うことを愛しています。それは退屈なものではありません。祈りを妨げる試練はありません。神のことばを読むのに問題はありません。礼拝の場所に行くのに困難を覚えません。詩篇にはこうあります。「人々が私に、さあ、主の家に行こうと言ったとき、私は喜んだ。」(詩篇一二二・一)

この新しいいのちが、どのように良い実を結ぶのでしょうか。事がうまく運ぶのは、神がみこころのままにあなたのうちに志を立てさせ、事を行わせて下さるからです。

(ピリピニ・一三) ポンプと泉では大きな違いがあります。律法はポンプです。バプテスマは泉です。古いポンプは故障し、部品が欠け、井戸は枯れました。文字は殺します。しかし、泉からは絶えず水が湧き出で、神の御座から直接、とどまることなく流れ出ます。そこにはいのちがあります。

キリストについて「あなたは義を愛し、不正を憎まれます」(ヘブル一・九)と書かれています。御霊にあるこの新しいいのち、この新しい契約によるいのちのなかで生かされれば、あなたは正しいもの、純粋なもの、聖いものを愛するようになり、あらゆるまがいものには身震いするようになります。イエスさまはこうおっしゃることができました。「この世を支配する者が来るからです。彼はわたしに対して何もすることができません。」(ヨハネ一四・三〇) 私たちが神の御霊に満たされれば、その瞬間にこのような素晴らしい状態に入れます。さらに私たちが御霊に満たされ続けられれば、敵は私たちのなかに一インチも領地を持てません。

あなたが御霊に全面的に満たされれば、正しく生きない者があなたの前で裁かれ、罪に定められるようにさえなるということを信じませんか。御霊のいのちに生き続ける私たちについてこう言われています。「神に捨てられた人を、その目はさげすみ」(詩篇一五・四)。イエスさまはそういう領域に生きて働いておられました。主のいのちは絶えず、周りにいる汚れた者への叱責となっていました。しかし、イエスさまは神の御子です。神ご自身が私たちに神の子どもという身分を与えて下さいました。主が肉体を持たれるという機会があったのなら、聖霊は私たちをも造り変えて、主と同じ場所へと導くことがおできになります。

私は自分を誇りたいのではありません。もし私が何かを誇るのなら、私に恵み深い主だけを誇ります。しかし、ある時電車に乗っていて、手を洗うために客室を出た時のことを私は覚えています。その時は祈りの期間で、主は私を溢れんばかりの主の愛で満たして下さいました。アイルランドの集会に行く途中でしたが、少し遅れそうでした。お手洗いから戻ると、主の御霊が重く私の上におられて、自分の顔が輝いていたに違いないと思います。(御霊が人の顔つきを変えられても、自分ではそれと分かりません。)二人の牧師が同席していましたが、私が客室に戻ると、一人が大声で言いました。「私は罪人です! あなたを見たら私は罪人だと分かりました!」三分もす

るとその客室の一人ひとりが神に救いを求めてむせび泣いていました。このようなことは私の人生の中で何度も起こりました。パウロが言っていた御霊に満たされるというのは、このような御霊による務めのことです。御霊に満たされると、あなたのいのちは燃え立たせられ、たとえあなたが店で買い物をしていても、そこにいる人々があなたの近くにいると自分の罪が露わにされているような感じがして、あなたの前から立ち去りたくなってしまうほどです。

私たちは文字によるあらゆるものから離れる必要があります。私たちはあらゆることを御霊の油注ぎのもとで行う必要があります。問題は、私たちペンテコステ派の人々が文字に生きてきたことです。パウロを通して聖霊が言われたことを信じて下さい。キリストにあるあなたが自由になるのを妨げてきた、罪に定めるこの務めは消え去りました。律法は廃止されたのです。あなたに関する限り、すべての古い秩序は永遠に消え去り廃止され、神の御霊が、純粋な愛に満ちた新しいいのちへとあなたを導き入れられました。あなたがキリストにあって新しく造られた者となる時、古いのちに関する事柄はすべて消え去るということを、御霊は保証して下さいます。御霊にあるいのちに生きれば、古い誘惑はその力を失います。悪魔は繰り返しあなたを試そうとしますが、神の御霊がいつも悪魔に対して吹き荒れます。

ああ、神がその道を保っておられたなら、私たちは燃えるたいまつのようになって、私たちの行く所どこにあっても、汚れた者の力をおののかせながら、その場所の空気をきよめるはずです。

異言と解き明かし：「主は御霊です。主はあなたの心のなかで動かれます。あなたのうちにある御力があらゆる闇の力よりも強いことを主はあなたに示されます。」

消え去りました！ 私は何を言おうとしているのでしょうか。あなたは不忠実な者になるのでしょうか。いいえ、あなたは忠実以上の者になるのです。ひどい扱いを受けたら、あなたは不満をつぶやくのでしょうか。いいえ、あなたは反対の頬を差し出します。神が内側に住んでおられる時のあなたの行いは、いつもそのようなものです。あなた自身を神の御手にゆだねて下さい。安息に入りましょう。「神の安息に入った者ならば、神がご自分のわざを終えて休まれたように、自分のわざを終えて休んだはずです。」（ヘブル四・一〇）ああ、素敵な安息です！ 人生全体が安息日です。これだけが、神

の栄光をたたえることのできる人生です。喜びの人生です。毎日が、地上で生きる天国の日々です。

生きている間、私たちは絶えず変えられていきます。御霊なる主の働きによって、私たちはみな鏡のように主の栄光を反映させながら、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます。何度も顔の覆いを取り除けられ、いつも啓示を受け、繰返し上から着せられます。私はあなたに、もう二度と後戻りせず、御霊が「消え去った」と言われた律法には戻らないことを、神と約束していただきたいのです。私はもう二度とみことばを疑うことを自分自身に許可しないと、主に約束しました。

赤ん坊について一つのことを言えます。赤ん坊なら誰でもそうです。用心深い人は、頭で考えすぎることによって神の最善から自分を遠ざけてしまいます。けれども、赤ん坊はお母さんが与えるものは何でも受け取ります。哺乳瓶でも何でも吸い付きます。赤ん坊は歩けませんが、お母さんが運んでくれます。赤ん坊は自分で着替えられませんが、お母さんが着替えさせてくれます。赤ん坊は話すことさえできません。ですから、御霊のいのちに生きていれば、私たちにできないことを神はさせて下さいます。私たちは神に背負われています。神が私たちを装って下さり、話すことばを与えて下さいます。私たちは皆、赤ん坊のような単純さを持つべきです。

（十一）御霊に満たされることは何を意味するか

テキスト使徒六章

弟子たちが増え始めるにつれて、ある状況が起こりました。それに対処するために、十二使徒は食卓のことに仕えるのではなく、祈りとみことばの奉仕に専念するという明確な決定を下しました。すべての神の働き人にとって、絶えず祈りに励み、真理のみことばに養われることはなんと重要なことでしょうか。私はよく、私が聖書を持ち歩かずにいるのを見つけられたら賞金をあげますよ、と持ちかけます。

みことばを通して神が自分に語られているはずのことに誠実に耳を傾け続けられない、誰でも神にあって強められることはありません。神の息がかかったみことばに共にあずからなければ、神の力やご性質を知ることはできません。朝に夕に聖書を読んで下さい。あらゆる機会を用いて聖書を読んで下さい。毎回の食事後に、食卓を囲んで無益な雑談に興じる代わりに、聖書から一章読みましょう。それから祈りの時間を持ちましょう。どこにいても誰といっても、私はそうさせてもらえる時間を取るよう努力しています。

詩篇の著者は、神に罪を犯さないために、神のことばを私の心に蓄えたと言いました（詩篇一一九・一一）。神のことばを心に多く蓄えれば蓄えるほど、聖い生活をするのが容易になります。また、詩篇の著者は「みことばは私を生かします」（詩篇一一九・五〇）とも証しました。神のみことばを自分のなかに取り込めば、からだ全体が生かされて、丈夫になっていきます。あなたがみことばを柔和な心で受け入れるなら、信仰があなたの中から溢れ出るのを実感するでしょう。みことばを通していのちが湧きます。

十二使徒は全員を呼び集めて、七人を選んで食卓の仕事に当たらせると伝えました。彼らは評判の良くて、聖霊に満ちている人であるべきだと言われました。選ばれたのはごく平凡な信徒でしたが、聖霊に満たされていました。この御霊の満たしによって、人は平凡を超え出る者となるのです。神の教会で用いられるためには教養や学問は必要ありません。神が要求されるのは、明け渡され、聖別された、聖い生活です。そして、神は燃える炎でそのような聖めを行うことがおできになります。聖霊と火のバ

プテスマを受けて下さい。

会衆は食卓の奉仕のために七人を選出しました。彼らが任命された務めに対して忠実だったことは疑いありません。しかし、神がすぐに七人のうち二人を選んで、より大きな働きをさせたことが分かります。ピリポは非常に聖霊に満たされていたので、神が彼をどこに連れて行かれても、そこでリバイバルが起きました。人は彼を食卓の奉仕に選びましたが、神は彼をたましいを勝ち取る奉仕に選ばれました。ああ、取るに足りない仕事を忠実に仕上げる人を、神は御霊で満たしてご自分のための選びの器とされ、たましいを救い病人をいやす力強い働きへとその人を促されるということを、ぜひ知っていただいて、あなたの信仰を励ましたいのです。聖霊に満たされた人に不可能はありません。それは人間の理解を超越しています。聖霊の力に満たされる時、神はあなたが行く所どこにおいても素晴らしい働きをされます。

あなたが御霊に満たされるなら、神の声を知ようになります。このことについて一つの例をお話したいと思います。私が最近オーストラリアに訪問しようとする途中で、船がアデンとボンベイに停泊しました。最初の停泊地アデンに着くと、人々が商品や美しいカーペットやさまざまな東洋風の物を売りに船の周りに集まって来ました。ある人はダチョウの羽を売っていました。船の端で商売をしている人を眺めていると、ある紳士が私に話しかけました。「ご一緒にあのダチョウの羽を買いに行きませんか。」羽で私は何をしたいというのでしょうか。そんなものを買っても役に立ちませんし、買う余裕もありません。でも、その紳士はもう一度私に聞きました。「あの羽の束を買いに私と一緒に行きませんか。」神の御霊が私に言われました。「そうしなさい。」

私たちはダチョウの羽を三ポンドで買いました。紳士は言いました。「今手持ちのお金がありません。でも、この羽の代金を立て替えていただければ、事務の者に言いつけて後で代金をお渡しします。」私は羽の代金を支払って、紳士に彼の分を渡しました。彼はファーストクラスに部屋を取っていて、私はセカンドクラスでした。私は彼に言いました。「いいえ。事務の方に代金を預けないで下さい。お代は私の客室まで個人的にあなたにお持ちいただきたいのですが。」私は主に言いました。「この羽がどうかしたんですか。」主は私に、私が羽を買ったことには主の計画があることを示されました。

十時頃になって紳士が私の客室に来て言いました。「お代を持って参りました。」私は言いました。「私が求めるのはあなたのお金ではありません。私が神のために求めているのはあなたのたましいです。」その場所で彼は自分のいのちに関する全計画について目が開かれ、神を求め始めました。その朝に、彼は神の救いに入って、むせび泣きました。

神の御霊に満たされている時に、あなたを通して神は人間の考えに及ばないことをされます。毎日、毎時間、神の神聖な導きを受けることができます。聖霊に満たされることはあらゆる点で意義が大きいのです。何年も病気で苦しんできたのに、聖霊に満たされることで病気が消え去ったのを、私は何人も見たことがあります。神の御霊が彼らにイエスさまのいのちを現実に見させたので、彼らはあらゆる病気や苦しみから完全に解放されました。

ステパノを見て下さい。彼は食卓の奉仕に選ばれたごく平凡な信徒でした。しかし聖霊が彼のなかにおられたので、彼は信仰と力に満ちていました。そして、多くの人々の間で素晴らしい不思議なわざとするしを行いました。彼は知恵と御霊によって語っていたので、誰もそれに反対できませんでした。一人ひとりが聖霊に満たされることは何と重要なことでしょうか。

異言と解き明かし:「聖なる方のみこころはあなたが神に満たされることである。御霊の力があなたを神の力強さで満たすためである。人が聖霊で満たされるのを差し控えるようなことを神はなさらない。」

私はあなたに次のことの重要性を印象付けたいと思います。すなわち、私があなたの前に差し出しているのはからだのいやしではなく、生けるキリストだということです。神の御子が捕らわれ人に自由を与えるために来られたというのは栄光ある事実です。

では、あなたが聖霊に満たされた瞬間から、迫害が始まることについては、どうなっているのでしょうか。主イエスご自身がそうでした。主の上に御霊が鳩のように下る前には、主が迫害に合うことはありませんでした。御霊が下るとすぐに、主がご自分の故郷で宣教をされた後に、人々は丘の崖から主を投げ落とそうとしたことが分かります。十

二弟子についても同じでした。ペンテコステの日が来る前には迫害は起こりませんでした。しかし、弟子たちが聖霊に満たされると、すぐに監獄行きが待っていました。悪魔たちと宗教熱心な祭司たちは、人が御霊に満たされて、御霊の力によって何かを行うのをいつでも見張っています。そして、迫害は教会にとって最も大きな祝福です。御霊に満たされることを願うなら、一つのことを期待することができます。それは迫害です。主は分裂をもたらすために来られました。自分の家の中でも二人が三人に対抗して分かれるようになります。

主は平和を与えるために来られました。そして、あなたが内側に平和を得るとすぐに、外側には迫害がやってきます。あなたが静かにして何もしなければ、悪魔もその使いもあなたを妨害しないでしょう。けれども、神と共に前進し続けてその全行程を行こうとするなら、敵はあなたをターゲットにします。けれども、神はそのすべてのことの中にあって、あなたが正しく歩んでいることを証明して下さいます。

私が開催したある集会で、主が働かれて多くの人がいやされていました。ある男性がそこで起きていることを見て、こう言いました。「私もやってみようと思います。」彼は祈ってもらいに来て、からだに二カ所悪いところがあると私に言いました。私は主の御名によって彼の上に手を起き、彼に「今、あなたは神を信じています」と言いました。次の夜の集会で、彼は獅子のように吠えていました。彼は言いました。「皆さん、ここにいるこの人は皆さんを騙しています。この人は昨晚、私のからだの二カ所の怪我に手を起しましたが、少しも良くなっていません。」私は彼を止めて言いました。「あなたはいやされたんですよ。問題は、あなたがそれを信じようとしないことです。」

次の夜の集会にも彼は参加し、証しの時間に名乗りでました。「私は石工をしています。今日、従業員と一緒に働いていると、彼が大きな石を運ばなければならない場面がありました。私は彼を手伝って石を運びましたが、少しも痛みがありませんでした。私は自分に『どうしたんだろう』と言いました。服を脱げる場所に行って、怪我をしていた箇所を見ると、いやされていました。」私は人々に言いました。「昨晚、この男性は神のことばに逆らっていました。でも今は信じています。信じる者には次のようなしるしが伴う、病人に手を置けば病人はいやされる、ということばは真実です。そのすべてのことはキリストの御名にある力によることです。」神のことばを啓示し、それを霊と

し、私たちへのいのちとするのは、御霊です。

御霊のバプテスマを求めている人々は、迫害を受ける場所へと入っています。あなたの親友や、あなたが親友として尊重している人が離れて行くでしょう。良い友人は一人も離れて行きません。それでも、御霊のバプテスマは受ける価値のあるものです。あなたが入っていくところは明かりの照らされた領域、すなわち御霊の力による啓示の領域です。御霊は、キリストの血の尊さと力強さを啓示して下さいます。私のなかには、その血によってきよめられていないところは微塵もないのだということを、御霊の啓示によって私は知りました。神が私をその血によって聖別されたと、その血の働きの効力を御霊によって啓示して下さいましたことが私には分かります。

ステパノは神の力が着せられた、ごく平凡な人でした。彼は信仰と力に満ち、素晴らしい不思議なわざと奇跡とが彼を通して起こりました。ああ、聖霊にあるこのいのちよ！ 深く内側から啓示が来るこのいのちよ。一つの状態から別の状態へと移すこのいのちよ。恵みにあって、すべての知識にあって、御霊の力にあって、キリストのいのちと心があなたのなかで新たにされ、成長していきます。主の大能の力を常に啓示するのが、このいのちです。私たちを立たせることのできる唯一のものが、このいのちなのです。

このいのちにあって、主はあなたをあらゆる種類の場所へと導き、そこで御力を現されます。私はニューヨークで宣べ伝えていましたが、ある日ルシタニア号という客船に乗ってイギリスへと出発しました。船に乗るとすぐに私は自分の客室に行きました。二人の男性と同じ部屋になりました。一人が言いました。「すみません、お付き合いいただけませんか。」彼はボトルを取り出して、グラスにウィスキーを注いで飲み干しました。それから私にもウィスキーを注いで、グラスを差し出しました。「そういうものは飲みませんので」と私は言いました。彼は「飲まずにどうやって生きていけるんですか」と尋ねました。私は聞き返しました。「飲んでどうやって生きていけるんですか。」彼は認めてこう言いました。「私は何ヶ月もこいつの影響下にあるんです。医者などは私の『内臓が悲鳴を上げている』と言うし、私も自分が死に近づいていることが分かっているんですけどね。できればこんなものから解放されたいです。でも、飲み続けてしまうんです。ああ、解放されるといいのですが！ 私の父はイギリスで亡くなりました。そ

して父は私に同じ運命を受け継がせてくれました。でも、お酒は私が墓に行くのを早める以外に、何の良いことがあるでしょうか。」

私はこの男性に言いました。「言い表して下さい。そうすれば解放されます。」彼は「どういうことですか」と聞きました。私は答えました。「言い表して下さい。あなたが解放されるのを望んでいるということと、神があなたを解放して下さいを言い表して下さい。」けれども、彼はほとんど理解できないようだったので、私はこのデッキに向かって話しているようなものでした。私は彼に言いました。「静かに立っていて下さい。」そしてイエスの御名によって彼の頭に手を置き、彼のいのちを奪っている飲酒の悪魔を叱りつけました。彼は叫びました。「私は自由です！ 私は自由です！ 私は自由です！」彼は二本のウィスキーボトルを取って海に投げました。神は彼を救い、酔いから覚めさせ、いやして下さいました。私は道中ずっと、福音を語っていました。彼は私の食卓の横に座りました。以前は彼は食事が喉を通りませんでした。ですが、今や彼は毎食ごとにメニューを全部食べていました。あなたが良い時間を過ごすために必要なのは、ただイエスさまに触れていただくことです。神の力は今日でも同じです。私にとって、主は素敵な方です。私にとって、主は救いと健康です。私にとって、主は谷間の百合です。ああ、このナザレ人を、王の王を賛美します！ ハレルヤ！ あなたは自分の意志を神に捧げますか。あなたは**自分自身**を神に捧げますか。もしそうすれば、すべての神の力があなたのものになります。

ステパノが知恵と御霊とによって話していたので、人々は対抗することができませんでした。そこで彼らは憎しみに燃えて、ステパノを捕らえて議会に引っ張って行きました。そして神は彼の顔を天の光で輝かせました。どれだけ対価を支払ったとしても、御霊で満たされることにはそれだけの価値があります。使徒の働き第七章を読んで下さい。この聖なる人が話した力強い預言的なことばを読んで下さい。恐れずに彼は人々に言いました。「かたくなで、心と耳とに割礼を受けていない人たち。あなたがたは、父祖たちと同様に、いつも聖霊に逆らっているのです。」そして人々はこれを聞いてはらわたが煮え返る思いでした。心に受ける影響は二通りあります。ここでは人々は歯ぎしりをして、彼を街の外に追い出して、石で打ち殺しました。ペンテコステの日には、人々は心を刺されて叫びました。「私たちはどうしたらよいのでしょうか。」彼らは正反対の反応をしたのです。悪魔が機会を捉えることができれば、人は殺人を犯しま

す。イエスさまが機会を捉えれば、人は悔い改めます。

聖霊に満たされていたステパノは、天を見つめ、神の栄光と、神の右に立っておられるイエスさまとを見ました。ああ、聖霊に満たされるとはこういうことです！ どんなに意義があることでしょうか。ある夏の日に私が六十マイルの道を旅していました。そして天を見上げると、イエスさまの幻が道中ずっと見えました。それを見せて下さったのは聖霊です。

ステパノは叫びました。「主よ。この罪を彼らに負わせないで下さい。」彼は御霊に満たされていたので、愛で満たされていました。そして彼は、イエスさまがカルバリで敵に対して示されたあわれみと同じあわれみを現しました。聖霊に満たされることはあらゆる点で意義があります。それは、常に満たされ、生かされ、新しいいのちが吹きこまれ続ける体験です。ああ、素敵なことです！ 私たちには素晴らしい福音があり、素晴らしい救い主がおられます。聖霊で満たされさえすれば、内側に枯れることのない泉を持つようになります。そうです。あなたの信仰の中心が主イエスさまであるなら、あなたの心の奥底から、生ける水が川となって流れ出るようになります。

(十二) 聖霊のバプテスマに関する聖書的な証拠

このペンテコステ派の働きの実在性に関して今日多くの反対論がありますが、十五年以上前に聖霊に導かれて始まったリバイバルが今も止んでいないという事実ほど、反対論に対して説得力のあるものはありません。世界中の至る所で神は顕著な方法で御霊を注がれ、一世紀に始まった栄光あるリバイバルに匹敵するものを見せて下さいます。神が人々を祈りに専念させている時には、彼らは神がなさっていることを理解できませんでした。しかし、彼らは今の時が聖霊によってもたらされている日であることを知って驚き、自分たちがペンテコステの日に使徒たちが体験したのと同じ体験に入り、まさに同じ場所にいるということが分かりました。

私たちの主イエスさまは弟子たちに言われました。「さあ、わたしは、わたしの父の約束してくださったものをあなたがたに送ります。あなたがたは、いと高き所から力を着せられるまでは、都にとどまっていなさい。」(ルカ二四・四九)神は預言者ヨエルを通して約束されました。「わたしは、わたしの霊をすべての人に注ぐ。……その日、わたしは、しもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。」この聖霊を受けることについて誤った認識が広まっていますが、主は私たちにこのテーマについて聖書を調べることが願われていると私は信じています。

愛する皆さん、私を動かしてきたのは堅固な事実の上にあるものです。私は聖霊を受けたことを力を尽くして確信してきましたし、この確信の上に絶対的に強く立ってきました。このペンテコステの注ぎがイギリスで始まった時、私はサンダランドに行って、聖霊を受けるために集まった人々と一緒になりました。私はその集会でずっと人々を困らせていて、しまいにはもう来ないで欲しいと言われました。彼らは、私が集会全体を妨害していると言いました。でも、私は神に飢え渴いていたのです。サンダランドに行ったのは、神が新しい方法で御霊を注がれていると聞いたからでした。神が今、主の民のもとに訪れて、御力を現されているので、ペンテコステの日のように人々が異言で話すようになっていると聞いたのでした。

私はこの場所に着いた時に言いました。「この集会が理解できません。私はブラッドフォードの集会で神の炎を受けて来ました。炎が最終日の晩に下り、私たちは神の力の下に皆倒れました。私がここに来たのは異言のためです。でも異言が聞こえませ

ん。何も聞こえません。」

「ああ!」彼らは言いました。「聖霊のバプテスマを受ければ、あなたは異言で話しますよ。」「そうなんですか」と私は言いました。「神の臨在が私の上に来られると、私の舌はゆるんで、新しいことばを語るために、空中に引き上げられているかのように本当に感じました。」彼らは否定しました。「ああ、違います。そうではありません。」「じゃあ、何なのですか」と私は尋ねました。彼らは言いました。「あなたが聖霊のバプテスマを受ければ」「私はバプテスマを受けました」と私は口をはさみました。「それに、ここには私がバプテスマを受けていないと説得できる人はいませんよ。」ですから、私は彼らに楯突いていたし、彼らも私に反対していました。

ある男性がやって来てこう言ったのを覚えています。「兄弟姉妹の皆さん。ご存知のように、私は三週間ここにいて、それから主が私に聖霊のバプテスマを授けたので、私は異言を話すようになりました。」私は言いました。「異言を聞かせて下さい。そのために私はここに来たのです。」けれども、彼は異言を話しませんでした。私は他の人たちが今日しているのと同じことをしていました。第一コリント二章と使徒の働き二章を混同して混乱していたのです。この二つの章は別々のことを扱っています。一方は御霊の賜物のことを扱っていて、もう一方は御霊のバプテスマとそれに伴うしるしを扱っています。私はこのことを理解していなかったので、その男性に言いました。「異言で話すのを聞かせて下さい。」でも、彼はできませんでした。彼は異言の「賜物」を受けたわけではなく、バプテスマを受けたのでした。

日が経つにつれて私はますます飢えを感じました。私はその集会でしぶとく反抗していましたが、主は恵み深くあられました。最終日のことを決して忘れません。私はその日に帰らなくてはなりませんでした。最後の晩に神は私と共におられました。集会に参加しましたが、私はずっとそわそわしていました。牧師館に行って、その書斎で私はボディ夫人に言いました。「もう落ち着いていられません。この異言を話せるようにならないといけないんです。」夫人は答えました。「ウィグルスワース兄弟。あなたに必要なのは異言ではなくてバプテスマですよ。神があなたにバプテスマを授けることをあなたが許可するなら、他のものは全部問題なくなります。」「親愛なる姉妹よ。私はバプテスマを受けたことを自分で知っています」と私は言いました。「私はもうここを

四時に出なくてははいけません。どうか私が異言を受けるように私に手を置いて下さい。」

夫人は立ち上がって私の上に手を置きました。すると、火が下りました。私は言いました。「火が下っています。」それからトントントンとドアのノックがあり、夫人は出て行かなくてはなりませんでした。起こり得る中で最高の出来事が起こりました。私は神と一対一で対峙できたからです。そして、主は私に啓示を与えました。ああ、素晴らしい啓示でした。神は私に、誰もつけられていない十字架と、栄光を受けられたイエスさまを見せて下さいました。十字架が空だったこと、キリストがもはや十字架上におられなかったことを私は神に感謝しました。主が呪いを負われたのはその場所においてでした。「木にかけられた者はすべて呪われた者である」と書いてあるからです。主は私たちのために罪となられ、私たちはこの方において神の義となりました。そして今は、主は天で栄光を受けておられます。それから私は、神が私をきよめて下さったのを見ました。神が私に新しい幻を与えられたようでした。私は自分の内に完全な方がおられるのを見て、口を開けて言いました。「きよい！ きよい！ きよい！」それを繰り返し言い始めると、私は自分が異言を話していることに気づきました。喜びがあまりにも大きかったので、私が「きよい」と言おうとすると舌がもつれて、御霊が話させてくださる通りに異言で神を賛美し始めました。

その幻は、イエスさまが嵐に向かって「黙れ、静まれ」と言われた時のように美しく、平安が広がっていました。その瞬間の静けさと喜びは、私がその時まで知っていたどんな平安や喜びよりもまさっていました。しかし、それだけではありません。ハレルヤ！ 今日までそれは、もっと大きく、もっと力強く、もっと素晴らしい御霊の現れと力をもって、成長し続けています。あの体験は始まりに過ぎませんでした。あなたが栄光にたどり着くまで、またあなたが永遠の神の臨在に入るまでは、聖霊に終わりが来ることは決してありません。その時になると、私たちは主の臨在をどこしえに感じるようになります。

私は何を受けたのでしょうか。聖書的なしるしを受けました。聖書的なしるしは私にとって驚きに満ちています。そのしるしによって、私が受けたのは使徒たちがペンテコステの日に受けた御霊の注ぎと同じものだということの確証を得ました。その時まで

に私が受けたあらゆるものは、神が私を整えるための油注ぎの性質を持つものだったということを私は知っています。しかし今は、御霊による聖書的なバプテスマを受けたことを私は知っています。それは複数の聖句に支持されています。聖句の支えがあれば、人はいつでも正しく立つことができます。他方で、証しが神のことばを土台としなければ、正しく立つことはできません。

何年もの間、聖霊のバプテスマに御霊が話させて下さる異言が伴わない場合が仮にあるなら、それを私に証明していただきたいと、私はチャレンジを投げかけてきました。聖書的なしるし抜きで聖霊のバプテスマを受けた人がいれば、そのことをみことばによって証明していただきたいと言いました。しかし今までのところ、そのチャレンジに応えた人はいません。私がこのことを言うのは、非常に多くの人がかつての私と同じだったからです。彼らには、聖書的なしるしがなくても自分はバプテスマを受けたのだという、かたくなな考えがあります。主イエスさまはみことばを宣べ伝える人々に、みことばに伴うしるしを持ってほしいと思われています。他のものに惑わされないで下さい。あなたの持っているすべてのものについて聖書的な証明を得て下さい。そうすれば、誰にも揺り動かされない場所に立つようになります。

私は喜びに溢れて、自分が聖霊を受けたことを伝えるために自宅に電報を打つほどでした。家に着くとすぐに、息子が私に駆け寄ってきて言いました。「お父さん！ 聖霊を受けたの。」私は「そうだよ」と言いました。息子は「じゃあ異言で話してみて」と言いました。でも私は異言で話せませんでした。どうしてでしょうか。私が受けたのは御霊のバプテスマであって、それに伴う異言は、使徒二・四に基づいた聖書的なしるしとしての異言でした。第一コリント二章にある異言の賜物を受けたわけではなかったのです。私はあらゆる賜物を与える方ご自身を受けました。しばらくしてから、御霊のバプテスマを求める数人のたましいのために私が奉仕していた時に、神は私に異言の賜物を与えて、私がいつでも異言を話せるようにして下さいました。私は異言を話しましたが、自分から話そうとすることはありません。絶対にありません！ 私がすべきことは、聖霊が賜物を使うのを許可することです。御霊が話させて下さる神からのことばを話すためには、そうでなければいけません。私が自分で賜物を使うのは非常に申し訳ないことです。そうではなく、与えて下さる方が九つの賜物全体を使う力を持っておられるのです。

私の立場を証明する聖句をいくつか取り上げたいと思います。ここにビジネスマンがいれば、法的に争う場合には二つの明確な証言があれば、オーストラリアではどんな裁判でも勝つことができるということをご存知でしょう。二つの証言という明確な証拠に基づいて、裁判の判決は下されます。神が私たちに与えたものは何なのでしょう。聖霊のバプテスマに関する三つの明確な証言をここに挙げます。法廷で必要な数以上ですね。

第一に、使徒二・四です。「みなが聖霊に満たされ、御霊が話させてくださるとおりに、他国のことばで話しました。」ここに原型となるパターンがあります。神はペテロに、この経験とそれ以前になされた約束とを結びつける、永遠のことばを与えました。「これ（訳注：使徒二章でみなが異言を話し始めたこと）は、それ（訳者注：預言者ヨエルによって語られた約束）です。」（使徒二・一六）そして神はそれに劣らずこれもあなたのものとなることを願われています。この原型となるペンテコステのパターンに従って、聖霊のバプテスマを受けることを願われているのです。

使徒の一〇章にもう一つの証言があります。ペテロはコルネリオの家にあります。コルネリオは聖なる御使いの幻を見て、ペテロのために人を遣わしました。ある時、ある人が私に言いました。「私が聖霊に満たされてバプテスマを受けたことをあなたは認めてくれませんか。でも、私は十日と十夜、主の御前にいたことがあります。主は私のたましいを喜びで溢れさせて下さいましたよ。」私は言いました。「主をほめたたえます。姉妹よ、それは始まりに過ぎません。弟子たちはあの時、待っていました。静かにしていました。それから、神の大能の力が彼らの上に臨みました。御力が臨んだ時に何が起きたかは聖書に書かれてある通りです。」そして、ちょうど同じことがコルネリオの家でも起きました。みことばに耳を傾けていたすべての人々に、聖霊が下りました。「割礼を受けている信者で、ペテロと一緒に来た人たちは、異邦人にも聖霊の賜物が注がれたので驚いた。」（一〇・四五）とあります。偏見を持っていたこのユダヤ人たちが、聖霊が下ったと確信を持ったのはどうしてでしょうか。「彼らが異言を話し、神を賛美するのを聞いたからである。」（一〇・四六）彼らが知る方法は他にはありませんでした。このしるしは否定する余地がありません。これは聖書的なしるしです。

二つの証言を見てきました。この世の基準を満たすためにはこれで十分です。しか

し、神はさらに良いことをなさいます。使徒一九・六を見ましょう。「パウロが彼らの上に手を置いたとき、聖霊が彼らに臨まれ、彼らは異言を語ったり、預言をしたりした。」エペソの人たちは使徒たちが最初に受けたのと同じ聖書的なしるしを受け、加えて預言も話しました。三箇所の聖句が私たちに御霊のバプテスマのしるしについて教えています。私は異言をほめたたえているのではありません。そうではなく、神の恵みによって、私は異言を与えて下さる方をほめたたえます。そして何よりも、聖霊が私たちに明らかにされた方、主イエス・キリストをほめたたえます。聖霊を送られた方は主であり、主は最初からいた者たちと私たちとの間に何の差別もされなかったので、主をほめたたえます。

しかし、異言は何のためにあるのでしょうか。第一コリント一四・二をご覧ください。素晴らしい真理がそこにあります。ああ、ハレルヤ！ 愛する皆さん、そこに行ったことがありますか。神はあなたをそこに連れて行こうとされている、と皆さんにお伝えします。「異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。」続けてこう言われています。「異言を話す者は自分の徳を高めます」。

神の約束に入ってください。それはあなたの相続分です。あなたが本当に聖霊で満たされれば、あなたが主と離れた状態で五十年間働きをするよりも、もっと多くのことを一年で成し遂げるようになります。

(十三) 御霊の賜物について

第一コリント一・二・一にこうあります。「さて、兄弟たち。御霊の賜物についてですが、私はあなたがたに、ぜひ次のことを知っていただきたいのです。」神の御霊と、御霊の賜物に関してひどく無知であるために、キリストの教会には大きな弱点があります。主の御霊の力と現れに関するみこころを教えて下さる啓示によって、神は私たちをあらゆる点で強めようとされています。神は私たちが神の御霊から与えられるものをますます多く受け取りたいと願うように、絶えず飢え渴きを与えられます。過去に私は多くの集会を持ちましたが、それで分かったことは、私の講壇に来てくれる方々の中で、まだバプテスマを受けていなくて、神がその人のために用意されているあらゆるものに飢え渴いている人のほうが、バプテスマを受けて満足し、落ち着き払って流れがよどんでいる人よりも良いということです。もちろん聖霊のバプテスマを受けた方で、神に対してなおもっと飢え渴いている方が一番好きです。神からもっと受け取ろうと飢え渴いていない方は、どんな集会に出ても実りがありません。

御霊に満たされることの重要性はどれだけ強調しても過大評価できません。聖霊に満たされるまでは、「その日」(訳注：使徒二・一八「その日、わたしのしもべにも、はしためにも、わたしの霊を注ぐ。」)の条件を満たすことや、主が光の中におられるように光の中を歩むこと、また、国々を征服し、正しいことを行い、サタンの力を縛ることはできないでしょう。

聖書を読むと、初期の教会で人々は、使徒たちの教えと交わりにも、パンを裂くことにも、祈りにも、堅く立って動かされずに続けていたことが分かります。これらの同じ事柄について、私たちも堅く立って動かされずに続けることが大切です。数年間、私はプリマスの兄弟たちと関わりを持っていました。彼らはみことばに立って強められていました。水のバプテスマについてしっかりした考えを持っていて、また、パンを裂く儀式を疎かにせず、毎週主の日の朝に初期の教会と同じように聖餐式を守っていました。この人々にはマッチ以外のあらゆるものが揃っているようでした。薪はありましたが、必要なのは火です。火がつけば、彼らはみな燃え上がります。聖霊の火が欠けていたので、彼らの集会には生命力がありませんでした。彼らの集会に出ていた一人の若者が、御霊のバプテスマを受けて、御霊の話させて下さる通りに異言を話し始めまし

た。兄弟たちはこのことで非常に怒って、彼の父親のところに行って言いました。「息子さんをご自分の横に連れて来て、やめるように言ってください。」彼らは集会を邪魔されたくありませんでした。父親は息子に言いました。「息子よ、私はこの教会に二十年間通っているが、こんなことは今まで見たことがない。私たちは真理に建て上げられているのだから、新しいことを求めている。私たちはそういうことをやらないのだよ。」息子は答えました。「神の計画なら私は従います。でも、黙っていることが神の計画だとはどうしても思えません。」彼らが家に帰ろうとすると、馬が静かに立っていました。車輪が深い轍にはまっていたのです。父親が手綱を引いても馬は動きませんでした。父親は尋ねました。「何が起きたんだと思う。」息子は答えました。「堅く建て上げられたんですよ。」神は私たちを動かない静かな状態から救い出して下さいました。

神は私たちが御霊の賜物に関することを理解するようにされ、最高の賜物を熱心に求めるように変えて下さいます。また、御霊の実へのさらにすぐれた道へと入らせて下さいます。私たちはこれらの賜物を神に嘆願しなくてははいけません。バプテスマを受けても平然として動かずにいるのは深刻な事態です。同じ霊的な平面に二日続けてとどまっているのは悲劇です。神の真理の啓示を受けるため、また御霊の満たしを受けるためには、私たち自身のあらゆるものを自ら進んで否定しなければなりません。そうすることによってのみ、神は喜ばれますし、他の何ものも私たちを満足させません。ある若いロシア人の青年が聖霊を受けて、いと高きところから力を着せられました。姉妹たちの中には彼の力の秘密を熱心に知りたがる人もいました。彼の力の秘密は、神を待ち望み続けることでした。聖霊が彼を満たすと、まるで一呼吸一呼吸が祈りになったようで、彼のすべての働きはあらゆる点で大きく祝福されました。

私の知っている聖霊に満たされた説教者で、神の力に力強く油注がれていると自分で認識した時にしか説教をしない人がいます。彼はメソジスト派の教会に呼ばれて説教を頼まれました。彼は牧師館に滞在していて、牧師に言いました。「先に教会に行っていて下さい。後で私も行きますから。」礼拝堂は人でいっぱいでした。でも彼は現れず、心配になった牧師が小さい娘を送って、彼がどうして来ないのかを調べに行かせました。娘が寝室のドアの前に来ると、彼が「私は行かないよ!」と三度も叫ぶのが聞こえました。娘は戻って、行かないよと三度も彼が言うのを聞いたと伝えました。牧師はそれで困ってしまいました。ところが、このすぐ後に彼はやって来ました。彼がそ

の晩、説教をすると、神の力が非常な勢いで現れました。牧師は言いました。「どうして私の娘に、行かないとおっしゃったんですか。」彼は答えました。「私は自分がいつ満たされるのかを知っています。私は平凡な人間ですから、主が御霊の新鮮な満たしを与えて下さるまでは、行く勇氣はないし行きたくないと、主に申し上げたのです。栄光が私を満たして溢れ出した瞬間に、私は集会に来ました。」

そうです。聖霊の臨在の中には、力も祝福も平安も休息もあります。あなたは主の臨在を感じる事ができ、主が共におられることを知るようになります。主の臨在に関するこの内なる知識なしでは、あなたは一時間でさえ過ごす必要がありません。主の力があなたの上にあれば、失敗や挫折はありません。いついかなる時でも基準の上にいることになります。

「ご承知のように、あなたがたが異教徒であったときには、どう導かれたとしても、引かれて行った所は、ものを言わない偶像でした。」(第一コリント二・二)今は異邦人の日です。ユダヤ人が神の祝福を拒否した時に、神は彼らを散らされ、ユダヤ人の枝が折られたオリーブの木に異邦人がつぎ合わされました。神がご自分の民でなかった者にそれほどまでに愛情を持たれた時はこれまで一度もありませんでした。神が異邦人を招き入れられたのは、すべての国に福音を宣べ伝えるという主の目的を行わせるため、また、聖霊の力を受けさせてその働きを成し遂げるためです。神が私たち異邦人を顧みて、ユダヤ人に属するすべての祝福の参与者へと下されたのは、神の恵みによることです。この栄光の天蓋の下、この場所で、私たちは信じているゆえに、信仰の人アブラハムのすべての祝福を受け継ぐのです。

「ですから、私は、あなたがたに次のことを教えておきます。神の御霊によって語る者はだれも、『イエスはのろわれよ』と言わず、また、聖霊によるのでなければ、だれも、『イエスは主です』と言うことはできません。」(第一コリント二・三)この終わりの日にあっては、多くの悪しき惑わしの霊が送られていて、イエスさまが主であることを信じさせないようにしたり、その正当な座から引き降ろそうと努力しています。多くの人が、新神学や新思考やクリスチャンサイエンスといった、この新しい悪魔に対して扉を開いてしまっています。この悪しきカルトは神のことばの根本的な真理を否定しています。彼らは皆、永遠の刑罰を否定し、イエス・キリストの神性を否定します。これら

の間違いを受け入れている人には聖霊のバプテスマが下ることは決してないでしょう。ローマカトリックの人も聖霊を受けません。彼らはマリアを聖霊の位置に置いているからです。自分が救われたと知っているカトリック信徒がいれば、そういう人を連れて来ていただきたいと思います。誰も行いによって自分が救われたことを知る人はありません。カトリック信徒に話しかけてみれば、新生という点がはっきりしていないことが分かるでしょう。はっきりしているはずがないのです。もう一つ、エホバの証人も聖霊のバプテスマを受けることはありません。主イエス・キリストをすべてのもののの上に高く置くことをしない他のあらゆるカルトの信奉者もそうです。

何よりも大切なことは、イエスさまを主とすることです。「なぜなら、もしあなたの口でイエスを主と告白し、あなたの心で神はイエスを死者の中からよみがえらせて下さったと信じるなら、あなたは救われるからです。」(ローマー〇・九)「キリストは、死んだ人にとっても、生きている人にとっても、**その主となるために**、死んで、また生きられたのです。」(ローマー四・九)

癒しに関する真理を強調することで、偏った信仰に陥ることはあり得ます。水のバプテスマを四六時中宣傳伝えることで、間違うこともありえます。しかし、主イエス・キリストを高く上げることで間違うことはあり得ません。イエスさまをすべてにまさる場所に置き、主として、またキリストとしてほめたたえ、そして、まさしく神の神としてほめたたえることによって、間違うことはあり得ないのです。私たちは聖霊に満たされているので、私たちの唯一の願いは主をほめたたえることです。私たちが聖霊に満たされる必要があるのは、主イエス・キリストについての完全な啓示を得るためです。

私たちのための神の命令は、聖霊に満たされることです。私たちがもしも、いっぱいになったコップを持っているだけなら、無益です。いつでも溢れ出るコップを持つ必要があります。満ち満ちて溢れ流れるいのちに生きないことは悲劇です。溢れ流れる大波がある時に、その下にいることは決してできないということを知ってください。

「さて、賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。」(第一コリント一・四)おのこの御霊の現れが与えられるのは、「**みな**の益となるため」(第一コリント一・七)です。聖霊が会衆の中を動かれ、御霊の賜物が働く時、一人ひとりが益となるものを受け取ります。私は、恐ろしくちぐはぐになっている人たちと会ったこ

とがあります。彼らは賜物を信じ、預言を信じていましたが、聖霊の力から離れてこの賜物を使っていました。私たちは聖霊に目を向けなくてははいけません。聖霊の力を抜かして賜物を使うことのないように、何のために賜物があるか、いつ賜物を使うかなど、賜物の使い方を、聖霊から教えられなくてははいけません。今日、人々が賜物を御霊の力なしで使うことほどの恐ろしいことは、私は他に知りません。決してそんなことはなさないで下さい。神は私たちをそのようなことから救われます。

御霊の賜物を自分が持っているかどうかを知らない人でも、御霊に満たされれば、その人を通して御霊の賜物が現れることがあります。私はさまざまな場所に手伝いに行きましたが、聖霊の油注ぎのもとでは、主の栄光が人々の上にある最中に、多くの素晴らしいことが起こったのを見てきました。神に満たされ、聖霊に満たされた人なら誰にでも、賜物を自分が持っていることをたとえ知らなくても、どの瞬間にも御霊の九つの賜物がその人を通して現れるかもしれません。いつも聖霊に満たされている人が、賜物を持っているという自覚の無いままで、しるしと不思議と奇跡が起こるのを見る方が良いのか、あるいは賜物を持っている自覚があった方が良いのか、私は時々どっちが良いのだろうと考えます。もしあなたが御霊の賜物を受けて、それらが祝福されたものであるなら、どんな状況にあっても神の力があなたの上からその賜物を通して現れるのでなければ、賜物を使うべきではありません。聖なる御手に触れられることなく預言の賜物を使っていた人たちがいましたが、彼ら自然の領域に入って、台無しにしてしまいました。不満をもたらし、心を傷つけ、集会に集まった人を混乱させました。聖霊の中にとどまるという目的を持っていない限りは、賜物を求めないで下さい。聖霊の力にあつてのみ、賜物は現されるべきです。

主はあなたが主の臨在にあつては御霊に酔いしれているようになるのを許可されますが、人々の中にあつては正気でいるようにされます。人々が御霊に満たされて、ペンテコステの日の百二十人の弟子たちみたいに酔ったようになっているのを見るのは私は好きですが、不適切な場所で酔ったようになるのを見るのは好きではありません。そのことが私たちにとって問題になっています。つまり、そのみことばについて何も知らない人々が多く集まっている場所で、御霊に酔った状態になる人がいます。そこで酔ったようになるのを自分に許可するなら、人々は離れて行きます。人々は神を見る代わりにその人を見るからです。その人が正しい時に正気でいなかったのも、人々は

それを罪だと考えます。「もし私たちが気が狂っているとすれば、それはただ神のためであり、もし正気であるとすれば、それはただあなたがたのためです。」(第二コリント五・一三) 気が狂うことはあり得ます。御霊に酔ったようになるよりも、もう少し先にも行けます。ふさわしい時には、もしそうしなければ、踊っても良いでしょう。人々がみな御霊に満たされている時には、実にたくさんのことが賞賛に値します。けれども、あなたの周りにいる人々が御霊に満たされていないければ、たくさんのことが愚かな行為になります。他の人に迷惑をかけてまで、自分が良い時間を過ごそうとすることのないように気をつけなければいけません。あなたが御霊にあって良い時間を過ごす時には、まずその場所の霊的な状態がふさわしいかどうかを確かめて、人々があなたと同じように御霊に満たされつつあることを見てからにしなければいけません。そうしたら、御霊に酔うことはいつでも祝福となります。

最高の賜物を熱心に求めることは正しいのですが、最も大切なことは聖霊ご自身の力に満たされることであると認識しておかなければいけません。聖霊の力に満たされている人々と一緒にいて問題が起きることはありませんが、賜物を持っているのに聖霊の力が伴っていない人々と一緒にいると、多くの問題を抱えることになります。主は私たちがどんな賜物にも欠けるところのないことを望まれますが、同時に、賜物を通して聖霊ご自身が現れるようになるために、聖霊に満たされることも望んでおられます。ただ神の栄光だけが現れるようにと願われているところでは、おのあの必要な賜物が現されるのを期待できます。神の栄光をたたえることのほうが、賜物を偶像視するよりもずっと良いです。私たちはどんな賜物よりも神の御霊のほうが好きです。しかし私たちは三位一体の神の現れを期待できます。「賜物にはいろいろの種類がありますが、御霊は同じ御霊です。奉仕にはいろいろの種類がありますが、主は同じ主です。働きにはいろいろの種類がありますが、神はすべての人の中ですべての働きをなさる同じ神です。」(第一コリント一・二・四～六) 三位一体の神が満ち満ちたさまで、ご自身を私たち会衆に現されるとは一体どういうことなのか、お考えになったことはありますか。

蒸気で満たされたあの大きな機関車のボイラーをご覧ください。エンジンが静かにしていても、蒸気が漏れ出ているのが見えます。全体が今にも破裂しそうな状態になっているように見えます。聖人とはそのような者です。彼らは叫び声を上げますが、そ

それは徳を高めるためのものではありません。しかし、蒸気機関車が動き始めると、それが造られた目的の通りに動き、そのエンジンで重い車両を牽引します。聖霊に満たされるのは素晴らしいことです。また、聖霊が私たちを通してご自身の目的に仕えられるのは素晴らしいことです。私たちの唇を通して神の話されることばが流れ出て、私たちの心は喜び、私たちの舌は楽しめます。外側に表現される現れは、内側にある力によります。イエス・キリストはほむべきかな。主にある信仰が生きたものとなる時、あなたの内側で生ける水が川となって流れ出ます。聖霊はあなたを通していのちの大河のようにご自分を注ぎ、数千人の人々が祝福されます。それは、あなたが自分を明け渡して、聖霊の流れ出る水路となっているからです。

最も大切なこと、たった一つの大切なことは、私たちが聖霊に満たされて、溢れるまでに満たされるのを見ることです。このことに達しないままでは、神は喜ばれません。神に与えられた命令は、聖霊に満たされることです。このことを損なっている限りは、人は神の計画から遠く離れています。主は私たちを信仰から信仰へと、栄光から栄光へと、満たされることから溢れ出すことへと進ませて下さいます。いつも過去形で信仰を考えているのは良くありません。そうではなく、私たちは大胆に神を今信じる場所へと進むべきです。神が宣言されたのは、聖霊が私たちの上に下った後に、私たちは力を受けるようになるということです。私たちが幻を捕えさえすれば、雪崩のような力が神から来るのを感じることができると私は信じています。

パウロはある時にこう書いています。「私は主の幻と啓示のことを話しましょう。」(第二コリント一・二・一)神の最新の啓示を私たちが持つことを神が期待する場所へと、私たちは神に導かれてやって来ました。その啓示とは、**私たちの中にキリストがおられる**という驚嘆すべき事実と、その本当の意味です。キリストを余すことなく理解できるようにするためには、ただ神の御霊に満たされて溢れ出すことだけが必要です。何の収穫ももたらさない自然の生まれながらの心へと、落ちこぼれて戻ってしまわないための唯一の防御方法は、神の御霊に満たされ、また何度も満たされ続けること、そして、幻と啓示へと新しく導かれることです。私が聖霊に満たされることの重要性を強調する理由は、皆さんにあらゆる人間的な計画や考えを超えて、主イエス・キリストの満ち満ちた幻と、満ち満ちた啓示とに入りたいからです。休息を求めておられますか。休息はイエスさまの中にあります。この終わりの日に悪魔がもたらした

あらゆるものから救われたいと願っておられますか。聖霊の満たしを受け取り、そして受け取り続けて下さい。そうすれば、あなたが必要とするいっさいのものは、どんな時でもあなたの主であるキリスト・イエスの中にあるのだということを、いつも御霊があなたに啓示されることでしょう。

私は、御霊の働きと、おのこの益となるために与えられている御霊の現れとの重要性を強調したいと願っています。あなたが主の御霊に委ねるなら、御霊はあなたの知性も超え、心も超え、声も超えた力を持っておられます。聖霊はキリストを知るために覆いを取り去って、あなたの心のキャンバスにキリストの幻を映し出す力を持っておられます。それから、御霊の力を離れては決してなし得ない方法で、聖霊はあなたの舌が主を賛美し、ほめたたえるようにして下さいます。

yあなたが聖霊に満たされている時には、あれやこれやを「する義務がある」とは決して言わないで下さい。人々があれやこれやを「する義務がある」という時、それは神の御霊ではなくて、自分自身の霊がそうさせようとしています。そして、自分たちの霊がそうさせようと促すのは、その場にふさわしくないことや無益なことです。多くの人が集会中に叫ぶために、集会が乱されることがあります。もしそういうことをしたいのであれば、地下室にでも行った方がましです。集会中に叫ぶのは、徳を高めるためになりません。御霊が人の上に臨んで、御霊が話させて下さる通りに舌を動かす時、いつも徳を高めるためになるはずだと私は信じています。しかし、止めるべき時に続けてしまうことで、祈りの集会を乱すようなことはしないで下さい。誰が集会を乱すのでしょうか。御霊で始めて肉で終わる人です。祈りよりも素敵なことはありませんが、神の御霊があなたを通して働いているにもかかわらず、自分自身の霊で祈り続けてしまうなら、祈りの集会は台無しになります。集会から帰ってきた時に、こういう感想を持ったことがあるかもしれません。「説教者があと一時間半早く切り上げてくれたら、素晴らしいメッセージになったのに。」御霊が与えて下さる油注ぎを、即座に止めることを学んで下さい。聖霊はねたむ方です。あなたのからだは神殿であり、聖霊のオフィスです。でも、聖霊はその神殿を人間の栄光で満たすことはなさいません。ただ神の栄光で満たされます。あなたには、「主はこう仰せられる」ことを超えて続ける資格はありません。

このことに関して、別の側面があります。集まった人々に神が願われているのは、できるだけ自由であることです。ですから、御霊の働きがあるところに手を挟んではいけません。御霊の流れを止めると、確かに問題が起きます。バプテスマを受けたばかりの若くて新しいたましいが、ある程度の行き過ぎた言動をしても、それを許容する心構えが必要です。今あなたはいくらか落ち着いているにしても、御霊によるこの新しいのちへとあなたが導き入れられた時には、他の人と同じようにあなたにも行き過ぎた言動があったことを覚えていて下さい。落ち着き払っているのはむしろ気の毒な状態です。というのも、最初に生かされた頃の状態ではなくなっているからです。集会で主が現れて下さっている最中に、御霊を妨害したり水を差したりしないように、また神の力を消さないように、私たちは神に知恵を求めなくてはなりません。集まった人々がいのちに満たされるためには、集まった人々の間で主の現れが満ちていなくてはなりません。現れのないところには誰も来ないでしょう。私たちが自然の観点から物事を見るという習慣に戻ってしまわないために、私たちは神に特別な恵みを求める必要があります。

説教者が油注ぎを失ったら、内心で悔い改めて神の前に自分を正すことで、油注ぎを取り戻すべきです。神の御霊の油注ぎがなくては、何もうまくいきません。神の恵みに満たされている人は、集まった人のうち誰をも裁くことがなく、むしろ一人ひとりを信頼し、そこで行われていることに対して恐れを抱くことがなく、あらゆることを信じる心を持ちます。そして、いくらかの行き過ぎた言動が見られても、神の御霊がそれらをコントロールして下さるので、主イエス・キリストご自身が高められ、栄光をお受けになり、主を知りたいと切望する飢えた心にはご自分を啓示されるのを見るだろうと信じます。主は私たちを、善にはさとく、悪にはうとく、疑いからは自由になって、イエスさまに似た者となるように変えて下さいます。そうして、神の全能の力が確かにあらゆるものを見通しているのだと、私たちは大胆に信じるようになります。ハレルヤ！

聖霊は主イエス・キリストをほめたたえる方、主を教えて下さる方です。あなたが聖霊に満たされるなら、唇を閉ざしたままでは不可能でしょう。御霊のバプテスマを受けたのに黙ったままではたましいがいるというなら、そういう人について話してみして下さい！ 聖書の中でも外でも、そういう人は見つかりません。私たちが御霊に満たされるのは、主をほめたたえるためです。聖徒たちが御霊と真理をもって主に栄

光をささげ、主をほめたたえ、賛美し、礼拝することのない集会は、開くべきではありません。

一つの注意のこたばを与えたいと思います。というのも、私たちがいつもからだの中にいるという事実を認識していないために、失敗が起こることがよくあるからです。私たちが生きている限り、私たちはからだを必要としています。しかし、私たちのからだは、神の御霊によってコントロールされ、使われるべきです。私たちのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげましょう。それこそ、私たちの霊的な礼拝です。私たちのからだの諸部分は、御霊と調和して働くために十分にきよめられていなければいけません。私たちのこの目はきよめられているべきです。神は目くばせすること憎まれます。神が目くばせについて仰っていること（箴言六・一三、一〇・一〇）を読んだ日以来、私は目くばせをしません。私は自分の目をきよく保って、いつも主のために使われるようにしたいと切望しています。神の御霊は、私たちのこの目の中に、人々のたましいへのあわれみを入れて下さるでしょう。

最初に自然のものが来て、次に霊的なものが来るという物事の順序があります。神はこの順序を決して変えられません。たとえば、あなたが心の中で祈る時に、最初の一言は自然から始めますが、次のこたばはおそらく御霊の力のもとで思い浮かぶでしょう。あなたが始めて、神が終わらせられます。御霊の力のもとで口でこたばを発する場合も同じです。自分の内側で御霊が動いておられるのを感じて、あなたが話し始め、そして神の御霊が続けてこたばを発するように助けて下さいます。多くの人が素晴らしい祝福を逃してしまうのは、彼らが信仰をもって動き、自然の領域で始めるということをしなからずです。主が超自然の領域へと導いて下さるという信仰に立って、自然の領域で始める必要があります。聖霊を受けるとは、神の賜物を受けることです。聖霊の中にすべての御霊の賜物があります。パウロはテモテに、彼の中にある神の賜物を燃え立たせるように助言しています。あなたの中にある神の賜物を燃え立たせる力が、あなたにはあります。内なる賜物を燃え立たせる方法は、信仰によって始めることです。そうすれば、神が機会にかなって必要なものを与えて下さいます。あなたは神に満たされるまでは、始めの一步を踏み出すことはなかったでしょう。私たちが臆病や恐れに自分を明け渡す時、単純にサタンに明け渡しているのです。サタンはささやきます。「それは全部自分の思いだ。」彼は嘘つきです。私が学んだのは、神の

御霊が私を燃え立たせて下さるなら、異言を語り始めるのに何の躊躇もなくなり、神の御霊が私に話すことばとその解き明かしを与えて下さるということです。私がこのように主に委ねていく時はいつでも、神の御手が私に触れて、神の御霊に導かれた考えを得るので、集会が信仰を建て上げるものとして導かれるということを、私は学びました。

集会に出席する時には、そこで主が自分に会って下さると信じて、信仰をもって参加するものでしょう。ところが、もしかしたら宣教師が神と調和していない場合があるかもしれません。集まった人々は神の与えようとするものを得ることができません。主はそのことを知っておられます。主はご自分の人々が飢えているのを知っておられます。すると、何が起こるでしょうか。ある時には主は一番小さな器を使って、御力をその人たちの上に置かれるかもしれません。彼らが御霊に委ねると、異言によって打ち破りが起きます。別の人々が御霊に委ねると、異言の解き明かしが来ます。主の教会は牧されなければなりませんから、主はご自分の人々にこのような方法でことばを話させます。ペンテコステ派の人々は自然のメッセージで満足できません。彼らは天にあるものに触れており、それ以下のものでは満足できないのです。彼らは集会で何かが不足していると感じると、神を見上げます。すると主が不足しているものを補って下さるのです。

御霊に満たされる人は、自分が何を持っているかを理解していません。私たちが何を受けたのかについての私たちの理解は、非常に限られたものでしかありません。私たちが与えられた力を知るための唯一の方法は、神の御霊の働きと現れを通して理解することです。ペテロとヨハネが宮に祈りに行った時、自分たちが何を持っているかを二人が知っていたと思いますか。二人は限られた考えと、限られた表現しか持っていないでした。私たちが神に近づけば近づくほど、人間の貧しさに思いを馳せるようになります。そして、イザヤのように「私はもうだめだ。私は汚れた者だ」と叫ぶようになります。けれども、主は尊い血と燃えさかる炭で、私たちをきよめ、精錬し、遣わして、御霊に強められて主の働きができるようにして下さいます。

神がこの御霊の注ぎを送ってくださったのは、私たちが皆、子とされているという啓示に導き入れられるためです。つまり、私たちは神の子どもとされ、力ある人とされて

いるということです。すなわち、私たちは主イエス・キリストに似せられていくということ、神の子としての力を持っているということ、弱い者をしっかりとつかんで救い出す力を持っているということです。私たちは人間の限界を思い知らされることになりませんが、私たちの内に来られた聖なる方には限界がないということを知りましょう。聖霊が私たちの上に臨まれて以来、私たちは実際に力ある神の子どもとされていることを信じなければなりません。できない、と決して言わないでください。信じる者にはどんなことでもできるのです。深みに漕ぎ出して下さい。そして、神がご自分の持てるすべてをあなたのために差し出しておられるということと、あなたはあなたを強めて下さる方によってどんなことでもできるのだということ、信じて下さい。

ペテロとヨハネは、彼らが屋上の間にいたということを知っていました。彼らは栄光が来るのを感じ取り、神から話させて下さることばを授かりました。彼らは人々の上にある罪を見ていました。彼らは素晴らしいものの中に入っていることを知っていました。彼らが持っているものはいつまでも増し加えられ、「聖霊がもっと内側に働かれる領域ができるように、器を大きくして下さい」といつまでも呼び求める必要のあるものだとは彼らは知っていました。古いものは過ぎ去って、いつまでも増し加えられる神の知識へと入ったことを知っていました。神の御霊と力に毎日、毎時間、満たされることが彼らの主の願いであることを知っていました。力の秘密は、キリストの黙示、内におられる全き力強い方、私たちの内に住まわれた神の啓示です。彼らが美しの門で足のなえた男を見た時、彼らはあわれみで満たされました。御霊に促されて立ち止まり、彼に話しかけました。彼らはその男に言いました。「私たちを見なさい。」その男が期待感をもって目を見開くことは、神の計画でした。ペテロは言いました。「金銀は私たちにはない。しかし、私たちにあるものを上げよう。それが何であるかを私たちは知らないが、それをあなたに上げよう。そのすべてはイエス・キリストの名の中にある。」するとそこで、神の働きが始まりました。あなたが信仰によって始めるなら、これから起こることを見るのです。それは始めは私たちに隠されていますが、神に信仰を持つなら、神はそれを顕現させて下さいます。力が顕現するのは、私たちによるのではなく、神によることです。神がなさることに限りはありません。あなたが神を信じるなら、あらゆるものがクルミの殻から飛び出します。それでペテロは言いました。「私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい。」そして四十年も歩けずに

いた男が立ち上がりました。彼は踊り上がってまっすぐに立ち、歩いたり、跳ねたりしながら、神を賛美しつつ、二人と一緒に宮に入って行きました。

「ある人には御霊によって知恵のことばが与えられ」（第一コリント一・八）。御霊の賜物を、御霊の力を無視して期待してはいけないということの重要性をよく心にとめていただきたいと思います。最高の賜物を求めるに当たっては、神と主の栄光に十分に満たされて、賜物の現れがいつも神の栄光を現すものとなることを熱心に求めて下さい。私たちはすべてを知っているわけではありませんし、すべてを知ることは不可能ですが、知恵のことばの現れによって知ることが可能になります。神からの一つの知恵のことば、神のことばにある一筋の光があれば、私たちを千の落とし穴から救い出すのに十分です。神からのことばを抜きにして建て上げた人々、神からのことばを抜きにして事を運んだ人々は、困難に陥れられました。彼らに不足していたのは、自分たちの人生を神の計画へと導き入れてくれる知恵のことばです。私は、神からの知恵のことばが必要となる場面に何度も遭遇しましたが、知恵のことばをいつもいただけてきました。

例を一つお話ししましょう。私が主にとても感謝していることが一つあります。それは、主が私に金銭欲を与えないという恵みを賜ったことです。金銭を愛することは、多くのことに対して非常に大きな障害となります。多くの人が主の働きを駄目にしてしまうのは、金銭的な問題に心を奪われるからです。私がある日、散歩をしていると、私の向かいに住んでいる敬虔な男性と会いました。彼は私に言いました。「妻と私で、私たちの家を売ろうかと話し合ったのですが、あなたにお売りしたいという気持ちに縛られているんですよ。」一緒に歩きながら、彼は家を買ってくれるように私を説得しました。別れ際にはもう、私はその家を買うことにすると彼に言いました。急いで物事を決めると、私たちはいつも大きな失敗をします。約束したことを妻に告げると、妻は言いました。「どうやってお金を工面するの。」私は妻に、今まで何とかなってきたんだから、と言いました。でも、今回はどうすればうまく行くのか分かりませんでした。私は神の秩序から外れていることを何となく分かっていました。しかし、人が神の秩序から外れてしまった時、神のもとに行くのは最後になるようです。私は建築家が助けになってくれるだろうと頼りましたが、そのもくろみはうまく行きませんでした。そこで親戚にお願いして回りましたが、次々に断られて、私は涙でシャツを濡らすことになりました。友人

にも頼りましたが、どうにもなりませんでした。妻が言いました。「あなたはまだ神のところに行っていません。」私に何ができたというのでしょうか。

私は家の中のある場所に行って、祈りました。これまで何度も、そこで祈りました。そこで私は主に申し上げました。「主よ、私が自分で招いたこの困難からあなたが救い出して下さるなら、この点について二度とあなたを煩わすことをいたしません。」主からの答えを待っていると、主は一言だけ下さいました。それは、馬鹿馬鹿しいことに思われましたが、実際には最も賢い忠告でした。主が話される一つひとつのことばに神の知恵があります。私は妻のもとに行って話しました。「どう思う。主が私に、ウェブスター兄弟のところに行くように言われたんだ。」私は続けました。「馬鹿馬鹿しいことだと思うけど。彼は私が知っている最も貧乏な男なんだから。」彼は私の知る最も貧乏な男でしたが、神を知っていたので、私の知る最も豊かな男でもありました。妻は言いました。「神が仰ったことをしなさい。それが正しいのだから。」

すぐに私は彼に会いに出かけました。彼は私にあいさつするなり、口を開きました。「スミス、どうしてこんなに早く来たの。」私は答えました。「神のことばがあったんだ。」私は彼に話しました。

「三週間ほど前に私はある人から家を買う約束をしたのだけれど、百ポンド不足していた。このお金を得ようと努力をしたんだ。でも、どうやら神の道から外れていたみたいだ。」「どういうわけで」と彼は尋ねました。「今になってやっと私のところに来たんだい。」私は答えました。「それは、私が昨日の晩になってやっと、主のもとに行ったからだよ。」彼は話しました。「ええと、不思議なことがあるんだ。三週間前、私は百ポンドを手に入れた。何年も前に相互扶助組織にお金を預け入れておいたのが、三週間前に百ポンド引き出しに行かなくてはいけなくなったんだ。それをマットレスの下に隠した。一緒に来て、それを持って行ってもらいたい。君のものだ。それは私にとっては厄介なものだったけど、君にとっては大きな祝福になることを希望しているよ。」私は神から一言頂いただけでしたが、それですべての問題は終わりました。その時以来、この経験があらゆる場面で役立っています。もし私が聖霊に満たされて歩んでいたら、家を買うことはなかったでしょうし、その重荷を引き受けることもなかったでしょう。主は私たちを地上の事柄から解き放とうとされてると、私は信じています。しかし、私は

神からのあのことばを、いつまでも感謝しています。私の半生には大きな危機に陥ることや、大きなとりなしの重荷を負うことが幾度もありました。何を話すべきか知らないままで、集会に行ったこともあります。けれども、どうにかこうにか、神は御霊の力のもとで知恵のことばを与えて、その集会に出ている人々のたましいにとって必要なことばを語らせて下さいました。私たちが神を見上げるなら、主はみこころを教えて、主の啓示と主の知恵のことばを現して下さいます。

（十四）知識のことばと信仰

「ほかの人には同じ御霊にかなう知識のことばが与えられ、またある人には同じ御霊による信仰が与えられ」（第一コリント一・二・八、九）。

私たちはこれまで、この道を通ったことがありませんでした。サタンは多くのことを企んでいて、今日では以前よりも邪悪になっていると私は信じています。しかし、私はまた、一つひとつのサタンの計略を打ち負かすために、神の力と栄光が地上に完全に現れるようになるとも信じています。

エペソ人への手紙の四章で、私たちは、平和のきずなで結ばれて、御霊の一致を熱心に保つように教えられています。というのも、からだは一つ、御霊は一つ、主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ、すべてのものの父なる神は一つだからです。御霊のバプテスマは私たち皆を一つにすることができます。パウロは第一コリント一・三で、私たちは皆、一つのからだとなるように、一つのバプテスマを受け、そしてすべての者が一つの御霊を飲む者とされたことを教えています。私たちが同じことを話すようになるのは、神のみこころです。私たちが神の御霊の啓示を十分に受ければ、皆が同じものを見るようになります。パウロはこのコリントの人々に「キリストが分けられたのでしょうか」と問いかけました。聖霊が完全に支配されるなら、キリストは分けられません。キリストのからだは分けられません。分裂はありません。分派や分裂は肉の心による産物です。

私たちの真ん中で「知識のことば」の現れがあることが、どれほど大切でしょうか。知識のことばを現すのは、知恵のことばを現す御霊と同じ御霊です。御霊によって、神の神秘に関する啓示が与えられます。私たちが他の人々に、神の御霊によって啓示された事柄を伝えるためには、超自然的な知識のことばを持たなくてはなりません。神の御霊が、キリストをすべてにおいて満ち満ちたさまで知らせる、素晴らしい啓示を与えて下さいます。そして御霊は、聖書の初めから終わりまで、どの箇所からでも私たちにキリストを教えて下さいます。私たちに救いに関する分別を与えるのは、聖書です。また、私たちにすべての神のみこころを啓示してくれて、天の御国の深みを私たちに開くのも、聖書です。

神のことばを読んだり学んだりする人は大勢います。しかし、それらの行為が人々を生かすものではありません。御霊によらなければ、聖書は死んだ手紙です。御霊によらなければ、神のことばは私たちのうちで生きた力強いものになり得ません。キリストが話されたことばは、むなしい死んだことばではなく、霊であり、いのちです。ですから、神の御霊の力を通して、生けることば、真理のことば、神のことば、超自然的な知識のことばが、私たちから発せられることが、神のみこころです。私たちの唇に話すことばを与え、神のすべてのみこころに関する神の啓示を与えて下さるのは、聖霊です。

神の子どもは、みことばに渴きを覚えるべきです。神の子どもが知るべきことは、みことばの他に何もありません。また、イエスさまの他に知るべき方はおられません。「人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる」のです。私たちがみことばに養われて、みことばに含まれているメッセージを深く思い巡らす時にこそ、神の御霊は私たちが受けたものにいのちを吹き込むことがおできになります。またその時にこそ、神の御霊があの老いた聖人モーセの上を動き、この靈感による書を与えられた時と同じように、力といのちで満たす知識のことばが、私たちの口を通して発せられるのです。みことばはすべて、最初に発せられた時には、神の息が吹き込まれたものでした。そして同じ御霊によって、みことばが私たちから発せられる時にも、いのちを吹き込まれ、生きて力強く働き、両刃の剣よりも鋭いものとなるのです。

御霊の賜物に伴って来るべきものは、御霊の実です。知恵には愛が伴い、知識には喜びが伴い、そして三番目の賜物である信仰には、平安の実が伴うべきです。信仰にはいつも平安が伴います。信仰はいつでも安らいでいます。信仰は不可能に対して笑います。救いは信仰により、恵みのゆえに、神の賜物として与えられるのです。私たちは信仰を通して、神の力により保たれています。神は信仰を与えてくださいました。何者も信仰を取り去ることはできません。信仰によって、私たちは神の素晴らしい事柄へと入る力を得ます。信仰には三種類あります。救いを得させる信仰、これは神からの値なしの賜物です。次に、主イエスさまの信仰。それから、信仰の賜物です。主イエス・キリストがパウロに言われたことばを記憶していただけたと思います。使徒の働き二六章で、主がパウロを異邦人のところに遣わすと言われた箇所です。「それは彼らの目を開いて、暗やみから光に、サタンの支配から神に立ち返らせ、わたしを信じる信仰によって(欽定訳:わたしの中にある信仰によって)、彼らに罪の赦しを得させ、

聖なるものとされた人々の中であって、御国を受け継がせるためである。」

ああ、主イエスさまのこの素晴らしい信仰！ あなたの信仰は終わりを告げます。私はこれまで数えきれないほど、主に向かって「もう私は自分の持っている信仰を使い果たしました」と申し上げましたが、主がご自身の信仰を私の中に与えて下さるという体験をしました。

私たちの働き人の一人がクリスマスの時に、私に言いました。「ウィグルスワース、私の人生の中で、今ほど財布がすっからかんに近づいたことはありませんでした。」私は答えました。「神に感謝して下さい。あなたは神の宝物倉を開き始めているところです。」私たちは自分自身のものが終わりになる時にこそ、神の豊かな財産の中に入っていくことができます。私たちが何も持たない時にこそ、あらゆるものを持つことができます。

あなたが生きた信仰に立っているなら、主はいつでもあなたに会われます。ある時、アイルランドに滞在中に、私はある家を訪問して、戸口に出た夫人に言いました。「ウォーレス兄弟はいらっしゃいますか。」夫人は答えました。「主人はバンガーに行きました。でも、神が私のためにあなたを遣わして下さい。あなたが必要です。どうぞお入り下さい。」夫人の話によると、旦那は長老派教会の執事でした。夫人は長老派教会の教会員でしたが、彼女自身は聖霊のバプテスマを受けました。けれども長老派では、それが神から来たものだとは認めませんでした。教会の信徒たちは彼女の旦那に言いました。「こんなことが起こるはずがありません。私たちはもうあなたに執事を続けてもらいたくありませんし、奥さんも教会にいてもらいたくありません。」旦那は非常に憤慨し、妻に激怒しました。あたかも悪霊が彼を捕らえたかのようでした。そして、かつて平和だった家庭が、ひどく荒れました。ついに、彼はお金も残さずに家を出て行きました。夫人は、どうすべきか私に尋ねました。

私たちは祈ることにしました。祈り始めると、五分もしないうちに、夫人は聖霊に満たされました。私は彼女に言いました。「お掛けになって、お話をさせて下さい。こんなふうに御霊に満たされるのは、よくありますか。」夫人は言いました。「はい。聖霊がおられなければ、今、何ができるのでしょうか。」私は夫人に話しました。「状況はあなたのものです。神のことばによれば、あなたは旦那をきよめる力を持っています。

大胆に神のことばを信じて下さい。今、私たちが最初にしなければならないことは、あなたの旦那が今夜戻って来るように祈ることです。」夫人は「あの人は戻ってきませんよ」と言いました。「私たちが一つの心で同意すれば、それは起こりますよ」と私は言いました。「では同意します」と夫人は言いました。私は夫人に話しました。「旦那が帰って来たら、あらん限りの愛情で、惜しみなく彼を愛して下さい。彼があなたの言うことに耳を貸さなければ、ベッドに行かせてあげて下さい。状況はあなたのものです。神の前にひざまずいて、主に彼の救いを主張して下さい。今日あなたが主の栄光に入ってしまったように、その栄光に入して下さい。神の御霊があなたを通して祈るなら、神があなたの心にあるあらゆる願いを保証して下さいということが分かるでしょう。」

一ヶ月後、私はこの姉妹と大会で会いました。彼女は事の次第を話してくれました。あの晩、旦那が家に帰って来て、ベッドに行きましたが、彼女は勝利を祈り通して、両手を旦那に置きました。彼女が旦那に手を置いた瞬間、彼は恵みを求めて叫びました。主が彼を救い、聖霊のバプテスマを授けて下さいました。神の力は私たちのすべての考えにまさります。問題なのは、私たちの有限の狭い考えのせいで、神の力が十分に現されないでいることです。けれども、神に道をゆずるなら、私たちの無限の神が、無限の信仰に応えて成し遂げて下さることに、限界がありません。しかし、あなたがあらゆる神の力を絶えず探求することを怠っては、どこにも達しないでしょう。

ある日、私が十一時に野外集会から帰ってくると、妻が家にいませんでした。「妻はどこへ行ったのだろう。」妻はミッシェルの家に出かけると聞いていました。その日、私はミッシェルに会って、彼が死にそうになっていることを知りました。主が取り扱って下さらなければ、あと一日さえ生き延びることは不可能だと知っていました。

多くの人が、病にあると失望し、彼らのために与えられた主イエス・キリストのいのちを堅く保っていただけません。死にかけている女性に私が見舞いに行った時、彼女に言いました。「具合はいかがですか。」彼女は答えました。「私は信仰を持っています。信じています。」私は言いました。「ご存知かと思いますが、あなたが持っているのは信仰ではありません。あなたは死にかけています。それは信仰ではなく、言葉です。」信仰と言葉は違うものです。彼女は悪魔の手に陥っていることが私に分かりました。悪魔が彼女から出て行かない限り、生き延びる可能性はありませんでした。それで私

は彼女をしっかりとつかんで、大声で言いました。「死の悪魔よ、出て行け！ イエスの御名によって退去するよう、私はお前に命ずる。」一分もすると、彼女は勝利のうちに自分の足で立ち上がりました。

ミッシェル兄弟の話に戻りましょう。私は彼の家に急いで向かい、近所まで来ると恐ろしい叫び声が聞こえました。何かが起きたのだと分かりました。階段でミッシェル夫人と出会ったので、「どうしたんですか」と尋ねました。彼女は答えました。「亡くなりました！ 亡くなりました！」私は彼女を置いて部屋に入りました。するとすぐにミッシェルが息絶えているのが見えました。私は理解できませんでしたが、とにかく祈り始めました。私の妻はいつも、私が行き過ぎるのを恐れていましたから、私をつかんで言いました。「やめて、お父さん！ ミッシェルはもう亡くなったのよ。」私は祈りを続けました。妻は私に叫び続けました。「やめて、お父さん！ ミッシェルが亡くなっているが分からないの。」けれども、私は祈り続けました。私は自分自身の信仰をもって、行けるところまで行きました。すると神が私を強く掴んで下さいました。主イエスさまの信仰が私を捕らえ、堅固な平安が私の心に来ました。私は叫びました。「彼は生きている！ 彼は生きている！」そして彼は、今日、まだ生きてます。私たちの信仰と、主イエスさまの信仰には違いがあります。主イエスさまの信仰が必要です。私たちは時々、信仰を変えなければならないことがあります。あなたの信仰が、ぐらぐらと揺れる場所に行き着くかもしれません。キリストの信仰は揺らぎません。そのような信仰を持つ時、物事を見えるままに見ることはなくなり、自然のものが御霊のものに道をゆずり、この世のものが永遠のものに飲み込まれるのを見るようになります。

数年前にカルフォルニアのキャザデロで、キャンプに参加した時のことです。顕著なことが起こりました。まったく耳の聞こえない男性が来ていました。私が彼のために祈ると、神が彼をいやして下さったのが分かりました。それから、試練が来ました。彼は毎回、椅子を講壇の近くまで動かして、私の話が何とかして聞こえるように、ぎりぎりまで近づいて説教を聞いていました。悪魔が言いました。「いやされていないんだよ。」私は宣言しました。「それはもうなされたことだ。」この状態が三週間続きました。それから後に、現れが来て、彼は六十ヤード先の音でもはっきり聞き取れるようになりました。耳が開かれた時、そのことがあまりにも素晴らしいので、集会を止めて皆にそのことを伝えなければいけないと彼は考えました。私は最近、彼とオークランドで会

いましたが、完全に耳が聞こえました。私たちが信仰に堅く立って動かされなければ、私たちは自分が信じていることを完全な現れのうちに見るようになります。

人々は私に言います。「あなたは信仰の賜物を持っていますか。」それは確かに大切な賜物です。しかし、それよりも遥かに大切なのは、私たちがどの瞬間にも神にあって進歩することです。今日神のこばを見るなら、昨日よりも今日のほうが、みことばのリアリティが増しているのを私は感じます。神がそれを増し加えておられるということが、最も気高く喜ばしい真理です。いつでも増し加えられています。この御霊のいのちを生きるなら、死や渇きや不毛はありません。神はいつも私たちを動かして、さらなる高みへと導かれます。私たちが御霊に動かされるなら、私たちの信仰は困難な状況に対して立ち向かいます。

このようにして、信仰の賜物は現されます。困難に出会って、自分自身の信仰ではどうにもならないと分かる場合があります。ある日、サンフランシスコでのことです。車に乗っていると、道端で男の子がひどく苦しみ悶えているのを見かけました。私は「ちょっと外に出して下さい」と言って、その子に駆け寄りました。彼は胃痙攣でうずくまっていた。私はイエスの御名によって彼の胃に手を置きました。男の子は飛び上がって、驚いて私をじっと見つめました。彼は一瞬で自分がよくなったことを知りました。信仰の賜物はあらゆる状況に果敢に立ち向かいます。私たちが御霊のうちにある時にこそ、神の御霊がこの賜物をいつどんな場所にいても働かせて下さいます。

神の御霊がこの信仰の賜物を人のうちで働かせておられる時には、神がこれから何をされるのかを主はその人に知らせます。会堂にいた手の萎えた男と出会ったイエスさまは、その場にいた全員にこれから起こることを見ているようにと注意を引きつけました。信仰の賜物はいつでも、結果を知っています。主はその男に言われました。「手を伸ばしなさい。」主のこばには創造的な力があります。主は憶測や思弁の世界に生きておられるのではありません。主が話されると、何かが起こります。主がはじめにこばを話されると、世界が存在するようになりました。主は今日でも話されるので、これらのことが起こらなくてはならないのです。主は神の御子であり、また私たちに子たる身分を与えられました。主はよみがえりの初穂であり、また私たちを初穂、すなわち主ご自身と同じ種類の実と呼ばれました。

ここで、大事なポイントがあります。賜物は、ただの人間的な願いによって与えられるのではありません。神の御霊がみこころに従っておのおのに分け与えられるのです。神は賜物を持つ人を信頼されるのではなく、低くされて砕かれた、悔い改めた心を持つ人を信頼されます。ある日、私は医者や有名人や牧師がたくさん集まった集会に出ました。神の力が集会に下ったのは、大会の最中でした。テーブルで待機していた一人の慎ましい女の子が、主に自分の心を開くと、すぐに聖霊に満たされて異言を話し始めました。この大きな大人たちは皆、首を伸ばして何が起きているのかを見ようと思いました。「誰なんだろう」と言い合いました。それから「召使いだ!」と彼らは言いました。「召使いだ!」と言われた人以外には誰も御霊を受けませんでした。これらの奥義は、賢く分別のある人には隠され遠ざけられています。でも、小さな子どもや、低められた人が、それを受けた人たちでした。他の人から榮譽を受けていると、信仰を持つことができません。神と共に歩む人は、他の人からの榮譽を受け入れません。砕かれて悔い改めた霊を持つ人に、神は榮譽を与えられます。どうやって私はそうなるのでしょうか。あまりにも多くの人が、偉大なことをしたいと願い、そうするのを人から見られたいと願っていますが、神が用いられる人は、偉大なわざを隠そうとする人です。私の主であるイエスさまはみわざを行うことができると宣伝されたことはなく、ただみわざを行いました。ナインという町からやもめとなった母親の息子が、死んでかつぎだされている葬列が進んでいるのに出会って、イエスさまは棺を降ろさせました。主は「起きなさい!」ということばを話され、息子をやもめに返されました。主はやもめにあわれみを抱きました。あわれみから外れると、あなたも私も何もすることができません。私たちが聖霊の力の中に深く沈められて、キリストのあわれみが私たちを通して生きていくようにならないと、癌をいやすことは決してできません。

私の主がされたすべてのみわざにおいて、主はご自分からしているのではなく、ご自分のうちにおられる方がそのみわざをしておられる、と主が言われたのに私は気づきました。なんという聖なる服従でしょうか! 主は、神の栄光のための道具にすぎない者となりました。私たちは賜物が授けられるほどに信頼されるところにまで到達したのでしょうか。第一コリント一三章には、山を動かすほどの完全な信仰を持っていても、愛がないなら何の値打ちもない、とあります。私の愛が神にあって深められ、私がただ神の栄光のために生きるようになれば、御霊の賜物が現されます。神はご自分

を現すことを願っておられます。そして、へりくだった霊に神の栄光を現すことを願っておられます。

弱々しい心には賜物が与えられません。本質的なことが二つあります。第一に、愛。第二に、決心、すなわち神がみことばを実現されるという信仰の大胆さです。私がバプテスマを受けた時、私は素晴らしい時間を過ごして、御霊によって祈りました。ところが、後になると時々、異言が出てこなくなりました。でもある日、私が他の人を助けていると、主が再び御霊によって異言を与えられました。ある日私は道を歩きながら、長い時間、異言で祈っていました。植木屋が何人か仕事をしていて、何が起きているのを見ようとこちらを振り向きました。私は言いました。「主よ、あなたは私に何か新しいものを与えて下さっています。異言を話す時にはその解き明かしを求めなさい、とあなたは言われました。解き明かしを求めます。解き明かしをいただくまで、ここにとどまります。」そしてその時から、主は私に解き明かしを与えられました。

ある時、私がイギリスのリンカンシャーにいて、監督教会の年老いた牧師と知り合いました。彼は私にいたく関心をもって、私を書斎に案内しました。老練の方がひざまずいて祈る、その祈りの言葉ほど甘いものを、私は聞いたことがありません。彼は祈り始めました。「主よ、私を聖めて下さい。主よ、私を聖別して下さい。」私は叫びました。「目を覚まして下さい！ 今、目を覚まして下さい！ 起きて椅子にお座り下さい。」彼は座って、私を見ました。私は彼に言いました。「あなたは聖い者とされたのだと思っていました。」彼は「そうだ」と答えました。「それなら、どうして神がもうあなたのために下さったことを、もう一度して下さいとお願いするのですか。」彼は笑い出しました。それから、異言を話し始めました。信仰の領域に入りましょう。信仰の領域に生きましょう。そして、神に道をゆずりましょう。

(十五) 知恵のことば

この終わりの日にあって、神は私たちに多くのものを与えておられます。多くが与えられる者には多くが求められます。主は私たちに言われました。「あなたがたは、地の塩です。もし塩が塩けをなくしたら、何によって塩けをつけるのでしょうか。もう何の役にも立たず、外に捨てられて、人々に踏みつけられるだけです。」(マタイ五・一三) 同じ意味のことが、私たちの主イエスさまが言われた別のことばでも見ることができます。「だれでも、もしわたしにとどまっていなければ、枝のように投げ捨てられて、枯れます。人々はそれを寄せ集めて火に投げ込むので、それは燃えてしまいます。」(ヨハネ一四・六) 一方で、こうも言われています。「あなたがたがわたしにとどまり、わたしのことばがあなたがたにとどまるなら、何でもあなたがたのほしいものを求めなさい。そうすれば、あなたがたのためにそれがかなえられます。」(ヨハネ一四・七) 私たちがこの時代を主と共に生きず、啓示された真理の光のなかを歩まないならば、私たちは塩けのない塩、枯れた枝になります。私たちはただ一つのことばに励むべきです。すなわち、うしろのものを忘れ、過去の失敗や過去の栄光を捨てて、前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召して下さる神の栄冠を得るために、目標を目指して一心に走ることです。

何年もの間、主は私を導かれ、霊的枯渇にならないように守って下さっています。私がウェスリアン・メソジスト教会にいた頃、私は救いの確信を持っていましたし、何の問題もありませんでした。主が私に「出て行きなさい」と言われたので、私はそこから出ました。ブレズレンという名で知られる人々と一緒にいた頃も、私は何の問題もありませんでした。しかし、主が「出て行きなさい」と言われました。それから私は救世軍に入りました。その頃、そこはいのちに満たされていて、至る所でリバイバルが起きていました。ところが、救世軍は自然の事柄に関心を注ぐようになり、初期に起きていた大きなリバイバルは止まりました。主が私に「出て行きなさい」と言われたので、私は出ました。それから私はさらに三度、出て行かなくてはなりませんでした。私たちが今いるペンテコステ派のリバイバルが、今日主が地上で起こされている最高のものだとは私は信じていますが、ここからさらにすぐれたものを神が起こして下さるとも信じています。神と、神の義に対して、まだまだもっと欲しいと飢え渴いている人でなければ、神は役立つものを与えられません。

最高の賜物を熱心に求めるようにと、主は私たちに言われました。私たちは主の栄光を最高に輝かせるものを求める必要があります。私たちはいやしの賜物と奇跡の働きが今日でも効力を発するのを見る必要があります。いやしの賜物には、霊の見分けの賜物が一緒に働くことが必要だと言う人もいます。しかし、見分けの賜物が伴わなかったとしても、私たちが病人に奉仕する際には、聖霊が私たちのために神の啓示を与えて下さると、私は信じてます。ほとんどの人が、霊の見分けの賜物を持っているようです。あるいは、持っていると考えています。でも、彼らが実際に見分けの賜物を十二ヶ月間働かせたとしたら、もう二度と霊の見分けをしたくないと思うでしょう。霊の見分けの賜物は、批判することではありません。私たちペンテコステ派のサークルで今日、何にもまして必要なのは、より完全な愛だと私は確信しています。

完全な愛は、あらゆる場面で上座に着こうとしません。他の人の場所を乗っ取ろうとしません。いつでも自分から下座に着こうとします。大会に行くといつも、メッセージを話そうとする人と、聞こうとする人がいます。大会に行きたいという願いがある時には、三つの問いかけを心に留めてください。私は誰かに聞いてもらいたいと思っているだろうか。私は誰かに見てもらいたいと思っているだろうか。私は金銭的なものを得たいと思っているだろうか。もしも私の心にこのような思いがあるなら、大会に行く資格はありません。主の働きをする私たちを動かすただ一つのは、私たちの心を縛る神の愛でなければなりません。説教者が金銭に心を奪われると、必ず失敗します。ペンテコステ派の説教者は、宣教のための金銭的な協力を募る時以外には、多くの金銭を集めるのは避けた方が良いでしょう。けれども、宣教のために多くの献金が集まったのなら、説教者はまったく恐れる必要はありません。主が金銭的な管理を下さいます。説教者がある場所に赴いた時、神が自分を遣わされたと言うべきではありません。そういうふうに分を宣伝している人を見ると、私はいつも恐ろしくなります。もし本当にその人が神から遣わされたのであれば、聖徒たちがそのことを知るはずで。神はご自分のしもべのためにご計画を持っておられます。私たちは主のご計画のなかを生きるべきです。私たちが主が望まれる場所に置いていただくようにしなければいけません。神のみこころだけを求めるなら、神はあなたをいつも正しい時に正しい場所に置かれます。いやしの賜物と奇跡の働きは、御霊のご計画の一部です。私たちがそのご計画に沿って働いているなら、それらの賜物が現れるようになること

を理解していただきたいと思います。御霊の動きと神の御声を私は知らなくてはいけません。御霊の賜物が働くのを見たいと願うのなら、私は神のみこころを理解しなくてはならないのです。

いやしの賜物には実に多様性があります。十人の人がいれば十人の現れ方があります。病人の寝ている寝室にいる時ほど、私が主にあって幸せを感じることはありません。他のどんな時よりも、私が主の臨在にあって、より多くの啓示を受けるのは、ベッドのそばで病人に奉仕をする時です。主がご自分の臨在を現されるのは、あなたが助けを必要としている人に、深いあわれみをもって心を注ぎ出す時です。あなたは彼らの状態を見定めることができます。それから、あなたの前にある状況を取り扱うために、御霊に満たされなければならないということを、あなたは知るようになります。

病に伏せている人々と話すと、彼らがみことばの理解について混乱があることによく気づきます。とはいえ、彼らは普通、三つの聖句を知っています。一つはパウロの肉体のとげについての聖句。もう一つは、パウロがテモテに胃のために少量のワインを飲むよう勧めている聖句。そしてパウロがある場所で誰かの病気をそのままにしておいたという聖句。彼らはその病人の名前を忘れていて、どこでそれがあったのかも覚えておらず、どの章に書かれていたかも知りません。ほとんどの人は、自分の病気は肉体のとげだと考えています。病気に人に奉仕する際の主な仕事は、彼らの状態を厳密に見定めることです。御霊の力のもとで働きをしているなら、病人にとってより助けになる方法や、信仰によって靈感が与えられた最もふさわしい方法を、主があなたに教えて下さいます。

私が配管工の仕事をしていた頃、病人のために祈るのが楽しみでした。緊急の呼び出しがあると、手を洗う暇もなく、手が真っ黒のままで病人のところに宣べ伝えに行きました。私の心は愛で照らされていました。ああ、祈る時にあなたの心はそんなふうであるべきです。癌のどん底にある人に、神のあわれみによって近づくのです。そうすれば、御霊の賜物が働くのを見るようになるでしょう。

夜の十時に、ある若い女性のために祈って欲しいと呼ばれたことがあります。彼女は医者に見放され、憔悴し切って死ぬばかりでした。見たところ、神が御手を触れて下さらなければ、彼女が生きるのは不可能だと分かりました。私は彼女の母親に向

かって言いました。「さあお母さん、もう寝て下さい。」母親は言いました。「ああ、私は三週間も娘に付きっきりで着替えもしていません。」私は娘たちに言いました。「もうあなたたちも寝なさい。」しかし、娘たちも部屋から出て行こうとしませんでした。息子にも同じことを言いましたが、同じ結果でした。私は自分のコートを取って、言いました。「さようなら。帰ります。」彼らは言いました。「ああ、私たちを置いて行かないで下さい。」私は言いました。「ここで私にできることは何もあります。」彼らは言いました。「残っていただけるのでしたら、私たちはベッドに行くことにします。」ただの自然の同情や不信仰があるところには、神は何も変えて下さらないということを、私は知っていました。

彼らはベッドに行き、私は残りました。それから、私はそのベッドのそばにひざまずいて、死と、悪魔とに顔を付き合わせる時間でした。しかし、神は最も難しい状況を変えることがおできになります。神は全能であるということをあなたに知らせて下さいます。

それから戦いになりました。天が真鍮で閉じられているかのようでした。私は十一時から朝の三時半まで祈りました。病人の顔からかすかに光が見えて、彼女が亡くなったのが分かりました。悪魔が言いました。「もう終わりだな。お前はブラッドフォードからわざわざ来たのに、この子はお前の手の中で死んだ。」私は言いました。「それはありえない。神は私を遣わされて何もなさらないことはない。今こそ勢力が変わる時だ。」私は次のように言われた箇所を覚えています。「いつでも祈るべきであり、失望してはならない。」(ルカー八・一)死は確かに起こりました。しかし、私の神は全能の方であること、紅海を分けた神は今日でも同じ方であることを私は知っていました。その時、私は「ノー」と言わず、神が「イエス」と言われました。ふと窓に目をやった瞬間、イエスさまの御顔が現れました。主の御顔からは百万もの光線が放たれているように思われました。たった今亡くなったこの女性を主がご覧になると、彼女の顔色に血色が戻りました。彼女は寝返りを打って、すやすやと眠りました。それから私は栄光に満ちた時間を過ごしました。早朝になると、彼女は起きて、部屋着を着て、ピアノのほうに歩きました。ピアノを弾き始め、素晴らしい歌を歌いました。母親も姉妹も兄弟も皆、降りてきて聴きました。主が引き受けて下さいました。奇跡が起こされました。

主はこのような方法で私たちを召されます。私は難しい状況に出会う時こそ神に感謝しています。主がご自分と一つ心になるようにと私たちを召されました。主はご自分の花嫁に、主ご自身と一つ心、一つ霊になるようにと願われています。主ご自身がしたくてたまらないことを、花嫁にしてもらいたいのです。この場合には、(いやしではなく)奇跡でなければなりませんでした。肺はもう死んでおり、ぼろぼろでした。けれども、主が肺を直して、完全に健康な状態にされたのです。

いやしの賜物に伴っているべき御霊の実があります。それは四番目の実である寛容です。いやしの働きで神に用いられて歩んでいる人は、寛容の人でなければなりません。その人はいつでも慰めのことばをかける用意ができていべきです。病人が苦しみのうちに無力になっていて、いやしや信仰に対する見解があなたと一致していないなら、あなたは病人に対して忍耐強くあるべきです。私たちの主イエス・キリストはあわれみに満ちておられ、寛容という実のうちに生きて働かれました。私たちが助けを必要としている人を手助けしようとするなら、私たちもこの実のうちにいらなくては いけません。

病人のための祈りは、荒々しく見える場合が時々あります。しかし、あなたは人を取り扱っているのではなく、その人の背後にある悪魔的な力を取り扱っているのです。あなたの心はすべての人に対して愛とあわれみに満ちています。しかし、病人のからだに場所を占めている悪魔の働きを見る時に、あなたは聖なる憤りに動かされます。あなたが扱っているのは現実の力を持って働く悪魔の住処です。ある日、ペットの犬が家の外まで飼い主の女性について来ました。彼女の足に絡みつくように走り回ります。彼女は犬に言いました。「ワンちゃん、今日は一緒にお散歩できないの。」犬は尻尾を振って、ワンワンと吠えます。彼女は言いました。「帰りなさい、ワンちゃん。」でも犬は行きません。ついに彼女は荒々しく怒鳴りました。「帰りなさい!」それで犬は帰りました。ある人々は悪魔に対してそんなふうに扱っています。悪魔はあなたが優しい言葉でどれだけ出て行くように言っても、びくともしません。悪魔を追い出して下さい!人を扱っているのではなく、悪魔を扱っているのです。悪魔の力は、主の御名によって武装が解除されています。病気を、背後に悪魔の力が働いているものとして大胆に扱うのは、いつでも正しいことです。多くの病気の原因は、ある種の背き、すなわち何か間違いがあったり、どこかで言うべきことを行わなかったために、サタンが入り込むチ

ャンスを与えたことにあります。悪魔に場所を与えてしまったことを告白し、悔い改めることは必要です。そうすれば、悪魔を扱うことができます。

癌を取り扱う場合なら、からだを破壊しているのは、生きている悪霊だということを認識して下さい。ロサンゼルスで癌の女性のために祈ったことがあります。悪霊を叱りつけると、すぐに出血が止まりました。癌は死にました。次に起きたことは、自然のからだは癌を排出したことです。自然のからだには、死んだ細胞を取っておく余地などないからです。何万本もの繊維でできた大きなボールのようなものが出てきました。この細胞の塊が肉体に押し込められていたのです。これらの悪霊どもはからだのシステムをぐいぐいと縛り付けて乗っ取ろうとしてきますが、彼らの働きが打ち壊された瞬間に、その縛りは消え去ります。イエスさまは弟子たちに、解く力と結ぶ力を与えられました。サタンの縄目をほどこき、サタンに抑圧された者を自由にすることは、聖霊の力にあって私たちに与えられた特権です。

ヨハネの第一の手紙に立って、こう宣言して下さい。「私のうちにおられる方が、世のうちにいるあの者よりも力がある」。(第一ヨハネ四・四)それから、悪魔の力を扱わなければならないのは、あなた自身ではなく、あなたのうちにおられる偉大な方であると認識して下さい。ああ、その方に満たされるとはいったいどんなことでしょう。あなたはあなた自身では何もすることができませんが、あなたのうちにおられる方が勝利をもたらされます。あなたは御霊の宮となりました。あなたの唇、あなたの心、あなたのすべてを通して、神の御霊が働かれ、成し遂げられるのです。

ノルウェイのある町に呼ばれた時のことです。会場には千五百人が座っていました。私が到着した時には、会場はいっぱいでしたが、なお数百人が入ろうとしていました。警察が数人、動員されていました。私が最初にしたのは、建物の外にいる人々に福音を宣べ伝えることでした。それで私は警察に言いました。「中にいる人よりも外にいる人の方が多いので、私は胸を痛めています。この人たちに福音を宣べ伝えなくてはいけないと感じています。それで、外に私が説教をするための場所を設けていただきたいのですが。」彼らは私のために、大きな公園に大きなスタンドを立ててくれました。それで私は数千人の人々に福音を宣べ伝えることができました。その説教の後で、素晴らしいやしがいくつか起こりました。ある男性が食べ物を持参して、百マイ

ルも離れたところから来ていました。彼は胃癌に犯されていたので、一ヶ月以上、何も喉を通りませんでした。その集会で彼はいやされました。そして彼は荷物を開けて、すべての人々の前で食べ始めました。また、腕が硬直して動かなくなっている若い女性がいました。子供の頃に、母親が腕を使わせないで、腕の発育を止めたままにしていたので、腕が硬直していました。彼女は大人になりましたが、病弱の霊に抑圧されている女性のようになっていました。彼女が私の前に立って、私がイエスの御名によって病弱の霊を叱りつけました。悪霊は瞬間的に追い出され、腕は自由に動かせるようになりました。それから彼女は自分の腕を曲げたり伸ばしたりして大きく動かしました。集会の終わり間際に、悪魔が二人の人に発作を起こさせて倒しました。悪魔が症状を現す時が、悪魔を扱う好機です。二人とも解放されました。二人は立ち上がって主に感謝し、主をほめたたえました。私たちは何と素晴らしい時間を過ごしたことでしょうか。

私たちは目を覚まして注意し、神を信じる必要があります。神が私をこの場所に至らせることができるようになる前に、私を千回も砕かれました。神が私を砕かれた者とならせるまで、私は幾夜も泣き、うめき、労苦しました。神が人をへりくだらせるまでは、他の人へのこの寛容の実を得ることはできないと、私には思われます。私たちが神から賜った聖なる力にとどまり、神を信じることにとどまり、私たちが今も信じてとどまっているあらゆることを済ませるまでは、いやしの賜物や奇跡の働きが現れるのを見ることは決してできません。

私たちはこの終わりの日にあって素晴らしい奇跡を見てきましたが、それらはこれから私たちが見るもののほんの一部に過ぎません。私たちは素晴らしい賜物のちょうど入り口に立っていると、私は信じています。けれども、私が強調したいのは、これらすべてのものは聖霊の力を通して現れるということです。これらの賜物が熟したさくらんぼのように上から降ってくるものだと考えないで下さい。ある意味では、あなたが何かを得ようとするなら、何であれそのための対価を支払わなければならないのです。神の最高の賜物を熱心に求めなければなりません。そして、主が私たちを整えるために通らせようとするテストに対して、アーメンと言わなくてはなりません。それは、私たちがへりくだり、神が用いるのに適した器となるため、また神ご自身が私たちを通して御霊の力によって働くことがおできになるためです。

(十六) 預言の賜物

第一コリント一・一〇でパウロは、同じ御霊によってさまざまな賜物があることに言及して、こう書いています。「ある人には預言（の賜物）」。第一コリント一四・一で、この賜物の重要性が述べられています。愛を追い求めるようにパウロは言い、続けて「御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい」と勧めています。また、「預言する者は、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるために、人に向かって話します」（一四・三）とも書いています。それでは、聖徒たちが建て上げられ、強められ、神の慰めに満たされるために、教会でこの賜物が現れることはどれほど大切なことでしょうか。しかし、他のすべての賜物と同じように、この賜物に関しても、御霊の力によって働き、御霊の油注ぎによって現れを見るべきです。それは、預言を聞く者が誰でも、預言のことばが聞く者の徳を高めるためにあることを理解し、預言が神によって発せられたことを知るようになるためです。神の御霊こそが、神の事柄を啓示することばを教えるために、神の深みまでくみ取られ、それを明らかにされ、預言に油を注がれるのです。

預言のことばには、聞く者を真理へと導く、本物の力と本物の光があります。預言は心で考えたことを話すものではありません。それよりも遥かに深いものです。預言によって私たちは主のみこころを受け取ります。そして私たちが主の御霊を通して、この祝福された新鮮なことばを受け取るなら、集まる人たち皆が霊の領域に導き入れられます。御霊の与えられることばを通して、私たちの心も考えもからだ全体もよみがえりを受けます。御霊が預言を与えられる時、私たちはあらゆる点でいやしや救いや力が現されるのを見ます。こういうわけで、預言は私たちが熱心に求めるべき賜物の一つなのです。

本物の預言を正しく評価する一方で、間違っただけのものに関して、聖書は明確な私たちで私たちに警告を与えていることを忘れてはいけません。第一ヨハネ四・一に「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい。なぜなら、にせ預言者がたくさん世に出て来たからです」とあります。それからヨハネは、本物と偽物をどうやって見分けられるかを教えています。「人となって来たイエス・キリストを告白する霊はみな、神からのものです。それによって神からの霊を知りなさい。イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。」

ありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」(四・二～三) 預言を装ったもっともらしい声もあります。本物の預言に見せかけた、まがいものに耳を傾けることで、時には恐ろしい闇と霊的束縛を受けることがあります。本物の預言はいつでも、キリストを賛美し、神の息子をほめたたえ、イエス・キリストの血をたたえ、聖徒たちにまことの神をあがめて礼拝するようにと励ますものです。偽りの預言は、徳を高めるためにならない事柄を取り扱い、聞く者を思い上がらせ、間違いへと導きます。

多くの人はサタンを、大きな耳と目と尻尾のついた大きく醜い怪物のように思い描いていますが、聖書はサタンをそのように描写していません。サタンは非常に美しい者だったので、その心が高ぶりました。今日至るところで、サタンは光の天使をよそおって現れます。サタンは高慢に満ちています。ですからあなたも気をつけていないと、サタンが試みて、自分はひとかどの人物だとあなたに思わせようとします。ひとかどの人物であるという考え、これこそがほとんどの説教者やほとんどの人にとっての弱点です。何者かである人は一人もいません。私たちが無に等しいものであることを知れば知るほど、神は私たちを神の力が流れる通路として下さいます。親愛なる主が、道の外れにあるすべての高慢から私たちを救い出して下さいますように。高慢は悪魔の罠です。本物の預言は、キリストがすべてにおいてすべてであられることを教え、あなたが自分自身では無や虚飾にすぎぬものであることを示します。偽りの預言はキリストをほめたたえません。また、最終的にあなたが何か偉大な人物になれるように思わせます。そのような考えは、「すべての誇り高い獣の王」(ヨブ四一・三四)にそそのかされたものだと、はっきりと知って下さい。

直接的な声を聞くことを追求し続けるという愚かな間違いに対して、警告したいと思います。聖書を見てください。ここに神の声があるのです。「神はむかし父祖たちに、預言者たちを通して、多くの部分に分け、また、いろいろな方法で語られました。この終わりの時には、御子によって、私たちに語られました。」(ヘブル一・一～二) 別の道にそれていかないで下さい。神の声が聞こえるなら、それは靈感を受けたみことばの中に与えられている聖書の真理と合致しているでしょう。黙示録二二・一八～一九には、この預言の書に付け加えたり取り除いたりしようとするものの危険性が示されています。本物の預言は、神の御霊の力にあって発せられるものなので、聖書に付け加

えたり取り除いたりせず、私たちにすでに与えられた神からのことばを燃え立たせたり、よみがえらせたりします。イエスさまが言われたことや行われたすべてのことを、聖霊は私たちに思い出させます。本物の預言は、真理である聖書から新しきも古きも取り出して、それらを私たちにとって生きたものとし、力あるものとしてくれます。

こう尋ねる人がいるかもしれません。「聖書があるのに、どうして私たちに預言が必要なのでしょうか。」聖書自身がこの問いに答えています。終わりの日に、神の御霊をすべての人に注ぐ、と神が言われました。「すると、あなたがたの息子や娘は預言」（使徒二・一七）するとあります。この終わりの日に、預言が私たちを祝福する本物の手段となることを、主は知っておられました。このようなわけで、主が御霊によって、主のしもべにもはしためにも本物の預言的なメッセージを語らせるということを、私たちは期待できます。

声を聞くことに関して警告を与えたいと思います。スコットランドのペイズリーという町の集会で、二人の若い女性と知り合った時のことです。一人は白いブラウスを着ていましたが、ブラウスが血でにじんでいました。二人は非常に興奮していました。この二人の女性は電報のオペレーターで、御霊のバプテスマを受けた貴重な若者でした。二人は宣教師になることを切望していました。しかし、私たちがどのような霊的段階にあらうと、誘惑は訪れます。悪しき力がこの女性たちの一人に訪れて、こう言いました。「もし私に従うなら、あなたを最も素晴らしい宣教師にあげます。」これはまさに悪魔か、あるいは光の天使をよそおった悪魔の使いです。この若い女性たちの一人がただちに囚われました。彼女があまりに興奮しているので、もう一人が異常を察知して、監督にしばらく時間をもらえるようお願いしました。

もう一人が彼女を部屋に連れていくと、神の御霊のふりをしたサタンの力が、声をもってその力を現し、もし私に従うなら今晚、宣教の計画をあなたに明かそうと語りかけて、もう一人の若い女性をも信じ込ませました。悪霊は言いました。「あなたの姉妹以外には誰にも言わないで下さい。」神に関する事柄はどんなことでも、誰に対しても包み隠さず伝えることができるはずだと私は思います。あなたの今の生き方を隠さず宣べ伝えることができなければ、あなたの生き方が間違っています。あなたが秘密にしている行いを話すことを恐れているなら、そうなります。いつかそれは屋根の上で語

られるでしょう。それから逃れられるとは考えないで下さい。純粋なものが光のほうに来るように、真理を行う者は、光のほうに来ます。その行いが神にあってなされたことがあきらかにされるためです。(ヨハネ三・二一)

悪しき力がこの女性のところに来て言いました。「今夜、鉄道の駅に行きなさい。すると七時三十二分に到着する電車があります。切符をあなたと姉妹のために買いなさい。すると手元に六ペンス残ります。電車の客室に、看護婦の服を着た女性が座っています。その女性の反対側に座っている男性が、あなたの必要なお金をすべて持っています。」彼女は切符を買い、手元に六ペンスだけ残りました。最初の言葉は当たりました。次に、七時三十二分ちょうどに電車が来ました。しかし、その次のことが起きませんでした。電車が動き出す前に、二人は先頭から後ろまですべての車両を走り回って調べましたが、彼女たちに示された人は見つかりませんでした。その電車が動き出すとすぐに、同じ声が来て言いました。「プラットフォームの反対側です。」その晩中、九時半までこの二人の若い女性はプラットフォームからプラットフォームへと走らされました。九時半になるとすぐに、この同じ悪しき力が言いました。「あなたたちが私に従順であることが今分かりました。ですから、あなたたちを最も偉大な宣教師にしましょう。」いつも何か大げさなことを言ってきます！これが全くの茶番だということを彼女たちは知ることができたかもしれません。この悪しき力が言いました。「この男性が、あなたたちをグラスゴーのある街角のある銀行に連れて行きます。そこで、あなたたちのために必要なすべてのお金を引き出してくれるでしょう。」グラスゴーでは銀行はそんな夜更けに開いていません。この悪霊が言っていた町の通りに彼女が行っていたら、おそらくそこに銀行はなかったことでしょう。彼女たちに必要だったのは、少しの常識でした。それがあれば、主からの啓示ではないと見分けることができたでしょう。この種の声に心を開くなら、あなたはすぐに罠にかかります。私たちが常に覚えておかなければいけないことは、世の中には多くの悪霊がいるということです。

この二人は解放されたのでしょうか。解放されました。神と共におそろしく労苦した挙句、二人は完全に解放されました。彼女たちの目が開かれて、このことが神からのものではなく、悪魔からのものであると悟りました。この二人の姉妹は現在、中国で主のために労していて、主のための働きが祝福されています。このような過ちに陥ることがあっても、逃れの道があるので、神をほめたたえます。あらゆる誇りが私たちから離

れるまで、主は私たちを砕かれます。この点で私は神をほめたたえます。私たちが持ちうる最悪の誇りは、自分を高く引き上げる高慢です。

パウロは主の命令としてこう書きました。「預言する者も、ふたりか三人が話し、ほかの者はそれを吟味しなさい。もしも座席に着いている別の人に黙示が与えられたら、先の人は黙りなさい。あなたがたは、みながかわるがわる預言できるのであって、すべての人が学ぶことができ、すべての人が勧めを受けることができるのです。」（第一コリント一四・二九～三一）あなたの預言が吟味されることに対して我慢ならないと感じるほど謙虚さに欠けていたら、あなた自身が間違っていると言っていいくらいに、その態度は間違いです。預言は吟味されなければなりません。パウロが提案したこの集まりのような集会は、あなたが体験し得る最高の集会に違いありません。神をほめたたえるべきことに、このことに関して潮が満ちてくるでしょう。教会がただイエスさまの栄光だけをたたえるという偉大な考えに浸されて見えなくなる時に、完全な秩序が訪れることでしょう。それから物事は価値あるものへと変えられます。

預言と対になって持つべき御霊の実は、善意です。むかしの日に預言を語った人々は、聖霊に促されていたので、聖なる善意の人々でした。今日でも同じように、信頼できる預言者は善意に満ちた人です。その善意とは、御霊の実です。けれども、その人がその位置から外れて自分自身の腕により頼むなら、高ぶりに陥って敵の道具となる危険にさらされます。私は、素晴らしい牧場と、多くの家畜と、良い隣人に恵まれた、ある人たちを知っていました。彼らは、何もかもを売ってアフリカに行くようにという声を聞きました。その声があまりにもやかましくしつこいので、彼らはそれらを売り出す時間もほとんど持てませんでした。彼らは財産をばかげているほどの安値で売りました。同じ声が彼らに、ある船に乗るようにと言いました。彼らが港に着くと、その名前の船がありませんでした。難しいのは、彼らをこの偽りの声を信じないようにさせることです。別の船を与えることがきっと主のみこころなのだろう、と彼らは言いました。すぐにその声が別の船の名前を伝えました。彼らがアフリカに到着した時、そこで話されている言語をまったく知りませんでした。しかし、その声は彼らを止めませんでした。彼らは引き返さなければなりませんでした。打ちひしがれて、かき回されて、すべてにおいて完全に自信を失いました。この人々がもしも御霊に満たされた神の人のところに行ったほうがよいと感じて、助言を求めていたら、これらの声が神からのもので

はないことをすぐに確信したでしょう。しかし、このような声を聞くと、人は自分が他の兄弟よりもすぐれているのではないかという霊的高慢がいつももたらされます。そして、他の人の助言を聞かなくなります。他の人は自分たちほどに御霊に満たされていない、と考えるからです。もしもあなたが何か声を聞いて、そのことによって、教会を牧するために神が教会に置かれた人よりも自分のほうがすぐれていると考えるようになるとしたら、気をつけて下さい。それは確実に悪魔からの声です。

黙示録には「イエスのあかしは預言の霊」(黙一九・一〇)とあります。本物の預言のことは必ず、神の小羊を高くほめたたえるものだということが分かるでしょう。

預言の霊に触れられても、その中に炎があるのでなければ、その霊は良いものから来ているではありません。炎が燃えない限り、私は神に用いられることを決して期待しません。私が何かを一言でも話すなら、それは御霊によるものでなければならぬ、と私は感じています。同時に、預言する者は信仰の量りに応じて預言すべきだということを覚えて下さい。もしあなたが自分の弱さのなかにあっても、神をほめたたえたいと願って愛のなかに立ち上がって、行動を起こすなら、主の臨在があなたの上にあることを見いだすでしょう。信仰によって行動して下さい。主はあなたに会って下さいます。

私たちが聖霊のうちにあるので、神が私たちを通して奇跡や預言などの働きをして下さるという、栄えに満ちた信仰の事実、神が日々私たちを導き入れて下さいますように。そこに入れば、生きているのはもはや私たちではなく、私たちを通して働いておられる神であることを知って、神ご自身の善の喜びのうちにあるものが現されるでしょう。

(十七) 霊を見分ける力

「ある人には霊を見分ける力」(第一コリント二・一〇)。自然の見分けと霊の見分けの間には非常に大きな違いがあります。自然の見分けの力は多くの人がそれを持っていると自認するもので、彼らは他の人たちの欠点を非常に多く見つけます。そのような人に対して、ルカの福音書六章で的確に述べられているキリストのことばがあります。「あなたは、兄弟の目にあるちりが見えながら、どうして自分の目にある梁には気がつかないのですか。」(六・四一) 自然の見分けの力を発揮したいと願う人がいたら、最低でも十二ヶ月間は自分自身に焦点を当ててみて下さい。そうすると、自分自身の中にあまりにも多くの欠点が見つかるので、他の人の欠点に憤慨したいと思わなくなるでしょう。イザヤ書の六章で、預言者が神の御前に立つと、自分の唇さえも汚れていて、何もかもが汚れていることを悟った、とあるのが読めます。しかし、神をほめたたえます。今日私たちのために、生きた燃えさかる炭と同じものがあります。それは火のバプテスマであり、たましいの完全、心のきよめ、霊の更新です。神の火が私たちの舌に触れることがどれほど大切でしょうか。

第一ヨハネで、「愛する者たち。霊だからといって、みな信じてはいけません。それらの霊が神からのものかどうかを、ためしなさい」(四・一)とされています。さらに、「イエスを告白しない霊はどれ一つとして神から出たものではありません。それは反キリストの霊です。あなたがたはそれが来ることを聞いていたのですが、今それが世に来ているのです。」(四・三)とされています。何度か、悪しき力の下にある人や発作のある人と会いましたが、私はとりつかれた人のなかにいる悪しき力やサタンの勢力に対して、「イエス・キリストは人となって来たか」と言いました。彼らはただちに「ノー」と答えました。彼らは「ノー」と言うか、口を閉ざして、主イエス・キリストが人となって来られたと認めることを完全に拒否します。ですから、続けてヨハネが「あなたがたのうちにおられる方が、この世のうちにいる、あの者よりも力がある」と書いたことを覚えていて下さい。すなわち、あなたは主イエス・キリストの御名によって、悪しき力を扱い、それに出て行くように命じることができるのです。ペンテコステ派である私たちは悪しき者の策略を知らなければなりません。また、悪しき者をその座から退かせ、追い出すことができなければなりません。

イギリスのドンカスターで私は宣べ伝えていました。ある時、信仰について宣べ伝えていると、多くの人が解放されました。ある男性が出席していました。彼は自分が見たことに非常に関心を持ち、感動しました。彼自身、ひざの故障に苦しんでいて、布をひざにぐるぐる巻いていました。彼が家に帰ると、妻に言いました。「ウィグルスワースのメッセージを取り入れることにした。私は今からそれに基づいて行動して、解放を得ようと思う。」彼は自分のひざをつかんで言いました。「悪魔よ、イエスの御名によって、出て行け。」それから彼は言いました。「これでもう大丈夫だよ、お前。」ぐるぐる巻きにした布を取ると、包帯がなくても問題なく歩けることが分かりました。次の晩、彼は小さな原始メソジスト教会に行き、礼拝しました。そこには悪い状態にある若者がたくさんいましたが、ジャックはイエスの御名を通して、友人たちを解放する非常に素晴らしい働きをしました。彼は、人が受け継いでいる非常に多くの病気が、敵の働き以外何ものであるという理解に至りました。それでも、彼の信仰は立ち上がり、イエスの御名には、敵に対して圧倒的な勝利者となる力があるということを見ました。

ある夜、スウェーデンのグーテンベルグに私が行くと、集会をするように頼まれました。集会の最中に、一人の男性が出入り口をふさぐようにして倒れました。悪霊が彼を引き倒し、悪霊の症状が現れて、集会全体が妨害されました。私はドアのほうに駆け寄って、この男性をつかんで彼のうちにいる悪霊に向かって叫びました。「悪魔よ、出て行け！ イエスの御名によって、悪霊であるお前を追い出す。」私は彼を起こして言いました。「イエスの御名によって、自分の足で立って歩きなさい。」通訳以外に、その集会で私の言ったことを誰かが理解したかどうか分かりませんが、悪魔は私の言ったことを知っていました。私は英語で話しましたが、このスウェーデンの悪魔たちは出て行きました。似たようなことがクリスチャニアでも起きました。

悪魔は目を通して、また思考を通して誘惑しようと腐心します。ある時、ある説教者を魅了していた美しい女性が私のところに連れて来られました。求婚期間も結婚してからも、夫が彼女を満足させなかったという理由だけで、悪魔は優勢になり、彼女の気を狂わせてしまいました。彼女はその状態で二百五十マイル運ばれました。彼女は以前は御霊のバプテスマを受けた人でした。「聖霊のバプテスマを受けた人でも、悪魔に場所を与えることがあるんですか」と尋ねる人がいるかもしれません。私たちが安全でいられるのは、神と共に歩み、聖霊に満たされ続ける時だけです。デマスを忘

れてはいけません。彼はパウロの同労者(ピレモン一・二四)だったようですから、聖霊のバプテスマを受けていたに違いありませんが、敵が彼を誘って、彼は今の世を愛するようになり(第一テモテ四・一〇)、恵みから落ちてしまいました。彼らがこの若い女性を私のもとに連れてくると、悪しき力がすぐに見分けられました。そして私はすぐにイエスの御名によってそれを追い出しました。正気を取り戻した彼女がすべての人々の前に立っていることは、大きな喜びでした。

完全に解放されたいのちがあります。これが、神があなたに願われるものです。私の平安が何かに阻害されることがあるなら、働きかけようとしているのは敵であると私は知っています。どのようにして私はこのことを知るのでしょうか。それは、あなたの心が主にとどまっていれば、完全な平和があなたの心にとどまると、主が約束されたからです。パウロは私たちに、私たちのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげるようにと言っています。それこそが私たちの霊的な礼拝です。聖霊がその人を通して呼吸されます。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまえ知るために、**心の一新によって自分を変えなさい。**」(ローマ二・二) またパウロはピリピ人への手紙でさらにこう述べています。「最後に、兄弟たち。すべての真実なこと、すべての誉れあること、すべての正しいこと、すべての清いこと、すべての愛すべきこと、すべての評判の良いこと、そのほか徳と言われること、賞賛に値することがあるならば、そのようなことを心に留めなさい。」(ピリピ四・八) 清いことを考えているなら、私たちは清い者となります。聖なることを考えているなら、私たちは聖なる者となります。そして私たちの主イエス・キリストのことを考えているなら、私たちは主のようになります。私たちがたゆまず見つめているものがあれば、それに似るように私たちは変えられていきます。

霊の見分けのために、私たちは聖なる方と共に住まなければいけません。主はあらゆる場面で啓示を与えられ、サタンの力の覆いを取り除けられます。オーストラリアで私がある場所へ行くと、そこでは家々が分裂してばらばらになっていました。その人々はサタンの悪しき力によって惑わされていて、それぞれ夫は妻から離れ、妻は夫から離れて、お互いに霊的に同じような状態になっていました。これは悪魔によるものです！ 神がこの時代にあってそうした悪から私たちを解放して下さいように。神

があなたに与えられた配偶者は、誰よりもあなたにとっての良きパートナーです。ぼろぼろになった心や、崩壊した家庭を私はあまりにも多く見してきました。この悪しき誘惑の霊どもについての本当の啓示が必要です。霊どもは入り込むと目によって惑わし、人生を破壊し、神の働きの評判を地に落とします。しかし、その背後には必ず肉なるものがあります。肉は清くありません。汚れていて、不純で、サタンの的で、悪魔のようです。地獄がその背後にあります。敵がやって来てあなたをこんなふうを試みるなら、主イエスさまをすぐに見上げて下さるよう、あなたにぜひお願いします。主はあなたをそのようなサタンの力から解放することがおできになります。あなたが信仰を持っていくためには、あらゆる点で分離されているべきです。

破壊するために来るこの悪しき力を啓示によって悟るためなら、この霊の見分けの賜物を求めれば聖霊が私たちに与えて下さいます。これらのことを私たちに啓示する御霊のこの油注ぎは、私たちが求めれば得ることができます。

神秘主義者が集会に来ることもあるでしょう。神秘主義者の状態を取り扱うことができなくてははいけません。彼らを正しく取り扱えば、集会で彼らが力を発揮させないようにできます。神智学やクリスチャン・サイエンスの人が来ていれば、彼らを見分けて特定できなければなりません。彼らと交わらないで下さい。必ず追い出して下さい。彼らが陥っている迷妄から、自ら解放されたいと願うのでない限り、彼らは自分たちの仲間と一緒にいたほうが良いのです。主イエスさまの警告を覚えていて下さい。「盗人が来るのは、ただ盗んだり、殺したり、滅ぼしたりするだけのためです。」(ヨハネ一〇・一〇)

サタンが彼の悪霊を送ることができたとしたら、その前にあなたは悪霊に対してドアが開いたはずで、聖書が言うことを聞いて下さい。「悪い者は彼に触れることができないのです。」(第一ヨハネ五・一八)「主は、すべてのわざわいから、あなたを守り、あなたのいのちを守られる。」(詩篇一二一・七)どうやってサタンはドアを開くのでしょうか。聖徒たちが聖さ、純粹さ、義、真理を追い求めるのをやめる時に、また祈り、みことばを読むのをやめて肉の欲求に道をゆずる時に、サタンが来ます。病気が不従順の結果として来るのは非常によくあることです。ダビデは言いました。「苦しみ会う前には、私はあやまちを犯しました。」(詩篇一一九・六七)主を求めて下さい。そうす

れば主は、あなたの存在全体が聖さと純粋さをもって輝くようになるまで、あらゆる思考もあらゆる行いも聖化して下さいます。そして、あなたのただひとつの願いは、あなたを聖なるものとして造られた主ご自身となるでしょう。ああ、この聖さよ！ 私たちは精錬されることができるようでしょうか。できます。生まれながらのあらゆる罪は消えなければなりません。神はあらゆる悪しき考えからきよめることがおできになります。私たちは罪を憤り、義を愛するようになれるでしょうか。神が石の心を人から取り除かれます。主が清い水をあなたがたの上に振りかけるその時、あなたがたはすべての汚れから清められます（エゼキエル三六・二五）。いつ主はそうして下さるのでしょうか。あなたが主にその内なる清さを求める時にです。

(十八) 異言の賜物

「愛を追い求めなさい。また、御霊の賜物、特に預言することを熱心に求めなさい。異言を話す者は、人に話すのではなく、神に話すのです。というのは、だれも聞いていないのに、自分の霊で奥義を話すからです。」(第一コリント一四・一～二)

御霊の賜物を切望することが必要です。賜物は必要で大切なものですから、私たちは飢え渴いてそれを熱心に願い求めるべきです。それは、神の恵みによって賜物を受けた私たちが、神の栄光のために用いられるようになるためです。

御霊にあって神と交わるための素晴らしい超自然的な方法として、神に向かって話すこの異言を神は授けて下さいました。神に向かって異言を話す時、御霊にあって素晴らしい奥義を話しているのです。ローマ八・二七にこうあります。「人間の心を探く窮める方は、御霊の思いが何かをよく知っておられます。なぜなら、御霊は、神のみこころに従って、聖徒のためにとりなしをしてくださるからです。」神に向かって話す異言は、多くの場合、とりなしの祈りをしています。御霊にあって祈る異言は、神のみこころに従って祈っています。そして、御霊ご自身が言いようもない深いうめきをもって、私たちのためにとりなしをして下さるようなことがあるのです。

この点に関して、ベルギー領コンゴで神の働きをしている、ウィリー・バートンについてお話したいと思います。バートン兄弟は力強い神の人で、アフリカの異教徒のために人生を捧げています。彼は熱病にかかって、死の底に下りました。人々は言いました。「彼は自分の死期を告げた。私たちにはどうしようもない。」人々の希望は完全にくじかれたようでした。彼らは打ちひしがれて、これからどうなるのだろうと途方に暮れながら立ち尽くしていました。ただ彼が死ぬに任せていました。ところが、何の前触れもなく、一瞬で、集まった人々の真ん中で彼はすくっと立ち上がりました。彼らは何が起きたのか理解できませんでした。彼の説明によると、あたたかいものがからだを駆け巡ったのを感じて意識を取り戻したそうです。そして、彼のからだには何も悪いところがありませんでした。どうしてこのようなことが起きたのでしょうか。この神秘は、彼がロンドンに帰るまで分かりませんでした。ロンドンで彼は、自分が一度死んで生き返った経緯を話しました。一人の女性が近寄ってきて、彼と個人的に話したいと申し出たので、話す時間を持ちました。彼女は尋ねました。「日記はつけましたか。」彼は

「はい」と答えました。彼女は言いました。「ある日のことですが、私が祈りに行ってひざまずくと、すぐにあなたのことが心に浮かびました。主の御霊が私をとらえて、私を通して異言で祈られました。幻が目の前に現れて、あなたが無力に倒れているのが見えました。それで私は異言で叫び続けて、ついにあなたが起き上がって部屋から出て行くのが見えました。」彼女はその時のことを記録しておきました。彼が日記を読み返すと、それが起きたのは彼が生き返ったのと同じ日でした。私たちが御霊にゆだねて、寝室で神に向かって話す静かな時間を過ごすことには、大きな可能性があります。あなたが聖霊に満たされて、あなたの周りのあらゆることが、天の動的な力に動かされていくことを、神は望んでおられます。

「異言を話す者は、自分の徳を高めますが、預言する者は教会の徳を高めます。」(四節) 異言を話す者は自分の徳を高める、すなわち自分自身を建て上げるということを理解していただきたいと思います。私たちは教会の徳を高める前に、自分の徳を高めるべきです。聖霊が霊的に建て上げるこの方法で、私はどれだけ個人的に恩恵を受けてきたことか知れません。私が皆さんの前にこうして立っていること自体が、世界で最も不思議なことの一つです。講壇に立っているのはこれ以上ないほどの弱々しい人間です。人前で話す。まさか。そんなことはまったく不可能です。私の自然の性格は、講壇に立って福音を説教するのとは正反対のものです。その秘密は、聖霊が来られて、素晴らしい御霊の徳を与えて下さったことです。私はこのみことばを可能な限り何度も読んできましたが、みことばの息である聖霊が来られて、このみことばをつかんで下さいました。聖霊がこれに光を当てて下さいました。そして聖霊が、私には早口で話せない言語を与えられました。あまりにも早口なことばなのです。神がそれを与えられたので、そのようなことばが出てきます。慰め主が来られると、その方があなたにすべてのことを教えるでしょう(ヨハネ一四・二六)。その方が私に異言で話すというこの超自然的な方法を与えられました。これは私自身の徳を高めるため、さらにはその後で、私が教会の徳を高めることができるようになるためです。

第一ヨハネ二・二〇にはこうあります。「あなたがたには聖なる方からのそそぎの油があるので、だれでも知識を持っています。」二七節にはこうあります。「あなたがたの場合は、キリストから受けたそそぎの油があなたがたのうちにとどまっています。それで、だれからも教える必要がありません。彼の油がすべてのことについてあな

たがたを教えるように、——その教えは真理であって偽りではありません——また、その油があなたがたに教えたとおりに、あなたがたはキリストのうちにとどまるのです。」聖霊のバプテスマを受けた人でさえ、「私は渴いている。自分がどこにいるのか分からない」と言うかもしれません。みことばは、あなたは油注ぎを持っていると言っています。油注ぎを受けたことを神に感謝しましょう。聖霊がここで言われているのは、聖霊がとどまっておられるということと、聖霊がすべてのことをあなたに教えるということです。これらのことはあなたにとって大きな確固たる足場となります。あなたが油注ぎを持っていて、注ぎの油がとどまっているという、このことばが真実であることを信じるように、聖霊があなたの信仰を燃え立たせて下さるでしょう。朝起きては、この素晴らしい真理を信じて下さい。御霊の臨在と力にゆだねると、あなたは御霊にあって神に向かって話します。そしてこうすることによって、あなたが個人的に建て上げられていくことに気づくでしょう。あなたについてのあらゆることを偽りものとしてでも、この神のことばを真実として下さい。悪魔は、あなたがどうしようもない無味乾燥な人間だと言うでしょう。また、あなたは何もできないと言ってくるでしょう。でも、キリストから受けたそそぎの油があなたのなかにとどまっているという神のことばを信じて下さい。

「私はあなたがたがみな異言を話すことを望んでいます、それよりも、あなたがたが預言することを望みます。もし異言を話す者がその解き明かしをして教会の徳を高めるのでないなら、異言を語る者よりも、預言する者のほうがまさっています。」（第一コリント一四・五）神はいつでも、あなたが預言する場所に導かれることを理解しておかなくてははいけません。聖霊を受けた者は誰でも、預言する権利を持っているからです。三一節には「あなたがたは、みながかわるがわる預言できる」とあります。さて、異言に解き明かしが伴う場合を除いては、異言よりも預言のほうがずっと建設的です。解き明かしがあれば、異言も預言と同等になります。一三節には「異言を語る者は、それを解き明かすことができるように祈りなさい」とあります。これは大切なことばです。

私は聖霊のバプテスマを受けて、一度御霊の話させて下さる通りに異言を話した後で、それから九ヶ月間は異言を話ませんでした。私はあちこちに行って人々が聖霊を受けるようにと手を置くと、彼らは異言を話すようになりましたが、私自身は異言

を話す喜びを味わえなかったので、そのことで悩んでいました。私がバプテスマを受けた時に受けた、御霊が話させてくださる異言と、その後に受けた異言の賜物とは異なっているということを、神が私に教えようとされたのでした。私がほかの人々に手を置いて、彼らが聖霊を受けた時、私はこう考えました。「ああ、主イエスさま、あなたが私に話させて下さったら、素敵なのですが。」主が私に賜物をお預けにされたのは、聖霊のバプテスマについて誤解している多くの人に私が出会うことを、主が知っておられたからです。その人たちは、聖霊のバプテスマは異言を伴わなくても受けられると主張していて、異言が出るのは単に聖霊のバプテスマと同時に異言の賜物を受けただけなのだと主張していました。私はその時に異言の賜物を受けていませんでしたが、九ヶ月後に、ある朝外出しようとして支度をしていると、主が私の心に語られ、多くの異言が口から出てきました。異言がやんでから私は主に申し上げました。「さあ、主よ。私がこれをしたのではありません。私が求めたのでもありません。あなたがなさったことなので、あなたが私に解き明かしを下さるまで、私はこの場所から動きません。」すると、解き明かしが来ました。この解き明かしは、今に至るまで世界中で成し遂げられてきたものです。聖霊が異言を話させて下さるのでしょうか。それなら、聖霊に解き明かしがおできになります。異言を語る者は、それを解き明かすことができるように祈って下さい。そうすれば、神が解き明かしを与えられます。神が私たちに語っておられるはずの事柄について、私たちは明確に理解することなしに先走るべきではありません。

「ではどうすればよいのでしょうか。私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。霊において賛美し、また知性においても賛美しましょう。」(一五節)御霊によって異言で祈っている時、あなたは自分で何を祈っているのかを知りません。すなわち知性で理解していません。異言で祈っても知性は実を結びません。しかし、あなたが異言で祈らなければならないような状況では、御霊の油注ぎのもとに知性でも理解できる祈りの力が同様に与えられます。ある人はこう言います。「ああ、私はそう祈ることができました。でも、それをしたのは私自身でしょう。」もし、あなたが祈るのなら、祈るのはあなた自身です。あなたが行うどんなことでも、それを始めるのはあなた自身です。私はひざまずいて、最初の二言三言は自分で祈ります。始めるのは自然の自分かもしれません。しかし、それを終わるとすぐに、御霊が私を通して祈り始められます。

始めるのは確かにあなた自身です。間違いありません。次に聖霊が来られて、聖霊があなたの祈り全体を導かれるでしょう。主をほめたたえます。信仰によらないものはすべて、「正しくない」と言うでしょう。信仰は「それが正しい」と言います。自然の人は「正しくない」と言うでしょう。信仰が「正しい」と言います。パウロは言います。「私は霊において祈り、また知性においても祈りましょう。」彼はそれを信仰によって行いました。悪魔もそれに反対し、あなたの生まれながらの性質も反対します。どうか神なる聖霊が私たちを導いて、私たちが御霊によって生き、歩み、祈り、賛美し、また知性によっても祈り、賛美することのできる、祝福された領域へと導き入れて下さいますように。信仰がそれをするでしょう。信仰は悪魔に耳を貸しません。信仰は自然の心の働きに耳を貸しません。信仰は神に聞く大きな耳を持っています。信仰はあなた自身には耳を貸さず、神に耳を開きます。信仰は感情に注意を払いません。信仰は「あなたは神にあって完全である」と言います。

御霊によって祈り、御霊によって賛美すること、すなわち神の御霊が話させて下さる通りに異言で祈り、異言で賛美するのは、素晴らしいことです。私は毎朝起きる時に、御霊による神との交わり無しでベッドから出ることはありえません。それは地上における最も素晴らしいことです。あなたが着替えている時に聖霊のうちにあり、あなたが世に出ても、世があなたに何の影響も与えないのは、この上なく素敵なことです。そのように一日が始まれば、あなたは一日中御霊の導きを受けていることに気づくでしょう。

「私は、あなたがたのだれよりも多くの異言を話すことを神に感謝していますが、教会では、異言で一万語話すよりも、ほかの人を教えるために、私の知性を用いて五つのことばを話したいのです。」(一八、一九節)多くの人がここで言うことは、パウロは理解できない異言で一万語話すよりも、理解できる五つのことばを話したいと言ったということです。それでいつも、「私は、あなたがたのだれよりも多くの異言を話すことを神に感謝しています」という部分を置き去りにしています。パウロはここで、解き明かしが伴わない異言を過剰に話すことについて正しているのです。それは集まった人たちの徳を高めることにならないからです。解き明かしが提示されなければ、彼らは単に神と自分に向けて話しているだけです。説教する人がいる前で、二、三十人がみな異言で話し出したらどうなるか想像してみてください。とても深刻な事態になります。集

会が混乱することでしょう。集会に出席する人々には、知性で理解できない一万語よりも、徳を高め、勧めをなし、慰めを与えるための五つのことばのほうが良いのです。

「律法にこう書いてあります。『わたしは、異なった舌により、異国の人のくちびるによってこの民に語るが、彼らはなおわたしの言うことを聞き入れない』と主は言われる。それで、異言は信者のためのしるしではなく、不信者のためのしるしです。けれども、預言は不信者ではなく、信者のためのしるしです。」(二一、二二節)みずからを信者と名乗りながらも、極度に不信仰を行っている人が大勢います。イギリスのシェフィールドに住んでいたメソジスト派の牧師は、不信仰な「信者」の一人でした。ある人が彼に小切手を渡して、休暇を取るように言いました。この人は私の名前と住所も彼に教えました。それで、彼はブラッドフォードに着くと、私を探し始めました。彼は私について「異言を話す人々」の一人だと警告されていました。それで、彼らのすることはすべての悪魔から来ているものだから、十分に気をつけて、仲間に加わらないようにと言われていました。彼は言いました。「彼らが私を仲間に入れることはないよ。彼らのことはよく知っているから、彼らが私を仲間にすることはできない。」

彼は極めて疲れていて、休息を必要としていました。彼が来るとこう言いました。「あなたの友人が私をここに来させました。よろしいですか。」私は答えました。「はい。ようこそ。」けれども、私たちはこの人のために何もできませんでした。不可能でした。話す。彼ほどよく話す人は聞いたこともないでしょう。ひたすら話して、話して、話して、話し続けました。私は言いました。「彼をそのままにしておきなさい。いつかきっと、彼の話が終わるでしょう。」夕食のあいだも、彼はずっと話しました。次の食事でも話し続けました。

金曜日の夜の集会になりました。バプテスマを求める人たちのための集会で、部屋に人が集まり始めましたが、まだ彼は話していました。誰も割り込めませんでした。部屋に入ってくる人が誰も邪魔できないほどに彼は話すことに集中していました。私は言いました。「兄弟、そろそろ話をやめて下さい。これからお祈りしましょう。」普段、私たちは祈りの前に賛美を歌うのですが、この時には違っていました。神の示された通りの順番にしました。私たちはすぐに祈ることにしました。祈り始めるとまもなく、二人若い女性が、一人はこちらの端で、もう一人はあちらの端で、異言で話し始めまし

た。それでこの牧師は、そのことが彼にとってあまりにも不思議に思われたので、彼らの言っていることを聞こうとしてこちらとあちらを行き来しました。しばらくして彼は言いました。「自分の部屋に戻ってもいいですか。」私は言いました。「はい、兄弟。そうなさりたいなら。」そういうわけで彼は部屋に戻り、私たちは素晴らしい時間を過ごしました。

夜十一時ごろに私たちはベッドに行きました。早朝三時半に、この男性が寝室のドアを叩きました。コンコン、「入ってもよろしいですか。」「どうぞ。」彼はドアを開けて言いました。「主が来られます。主が来られます。」——彼は口を押さえていて、ほとんど英語が喋れませんでした。私は言いました。「もう寝て下さい。また明日お話して下さい。」異言は不信者のためです。この男性は不信者でした。不信仰な「信者」でした。何度も私は、異言を話すことを通じて人々に確信が訪れるのを見てきました。

翌朝、彼は朝食に来て言いました。「ああ、昨晚は素晴らしい夜ではありませんでしたか。」彼は言いました。「私はギリシャ語もヘブライ語も知っています。そしてあの二人の若い女性はこれらの言語を話していました。一人はギリシャ語で『神に立ち返りなさい』と、もう一人は同じことをヘブライ語で話していました。それらを話しているのは神だと分かりました。彼らが話しているものではありませんでした。私はまず悔い改めなくてはなりませんでした。私は不信者として来ました。でも、神がここにおられることが分かりました。夜、神は私を二時間あまり床に倒れさせられました。何もできませんでした。それから神が突き破られました。」そこで彼はまた異言で話し始めました。朝食のテーブルのまさにその場で。

神がご自分の大能の力を証しされると、どんな人でも否定できません。聖霊があなたを通して異言と解き明かしをもって話されることで、皆の前で不信者に確信を与えるようになるのを、あなたは見るに違いありません。そして、神がこの方法であなたを確信に導くことが分かるでしょう。

賜物を受けるための最も完全な方法をご説明します。第二列王記の二章をご一緒にお読み下さい。賜物を受けた一人の人がいます。エリヤは神に力強く用いられた人でした。火が天から降ったり、他のさまざまな奇跡が起きたりしました。またエリヤはこの人の賜物をなんとしても手に入れたいたいという非常な熱意に動かされていました。

あなたも御霊の賜物を貪欲なほど熱心に求めることができます。神はそれを許されるでしょう。エリヤは彼に言いました。「ギルガルにとどまっていなさい。」エリシャは言いました「主は生きておられ、あなたのたましいも生きています。私は決してあなたから離れません。」

いかなるものも彼を止められませんでした。エリヤがエリシャに、エリコにとどまるように言いましたが、彼は「私はとどまりません」と反抗したも同然でした。止まる人は何も得られません。おお、エリコにとどまらないで下さい。ヨルダンにとどまらないで下さい。神があなたのために持つておられるすべての満ち満ちた賜物へと導こうとしておられる時には、どこであつてもとどまらないで下さい。

二人はヨルダン川に来て、エリヤは外套を丸めて水を打ちました。水は両側に分れました。エリヤとエリシャは乾いた土の上を渡りました。エリヤは振り向いてエリシャに言いました。「ほら、あなたの願うものを求めなさい。」エリシャは求めたものを得るようになりました。あなたのものになると神が言われたものはすべて、あなたは求めて良いのです。エリシャは言いました。「あなたの霊の、二つの分け前が私のものになりますように。」師の手にあるものを願い求めたのは、この田舎者の少年でした。しかし彼の霊は非常に大胆になって、エリヤが舞台を降りる時に、師の役を彼が引き継ぐことを心に願ったのでした。

エリヤは言いました。「あなたは難しい注文をする。しかし、もし、私があなたのところから取り去られるとき、あなたが私を見ることができれば、そのことがあなたにかなえられよう。」あなたが求めるものを得るまで熱意を保つのをやめないように、どうか神が助けて下さいますように。神の最高の賜物を求める熱心が火となって燃え立つまで、あなたの熱意を大きくして、信仰を奮い立たせて下さい。

こうして二人は進みました。一人が進むと、もう一人が追いかけて進みました。彼は最後まで師から目を離そうともしませんでした。一台の火の戦車と火の馬とが現れ、この二人の間を分け隔て、エリヤは、たつまきに乘って天へ上って行きました。エリシャがこう叫ぶのが私には聞こえてきそうです。「私が父、エリヤ。その外套を落として下さい！」外套は落ちてきました。外套がひらひらと落ちてくるのが目に浮かびます。エリシャは自分の着物をつかみ、それを二つに引き裂きました。彼がもう一方の外套を身に

まとった時に、何か自分自身に変化が起きたことを感じたとは、私は信じていません。しかし、彼がヨルダン川に来ると、エリヤの外套を取って水を打ち、「エリヤの神、主はどこにおられるのですか」と言いました。すると水が両側に分かれたので、彼は乾いた土の上を渡りました。それで預言者の息子たちは言いました。「エリヤの霊がエリシャの上にとどまっている。」

賜物を受けるのもこれと似ています。あなたが信仰によって行動を起こすまでは、あなたは賜物を持っていることを知りません。兄弟姉妹の皆さん、求めるものを受けると信じて下さい。